423
288

0002516001

0002516-001

４２３－２８８

時事統計図集

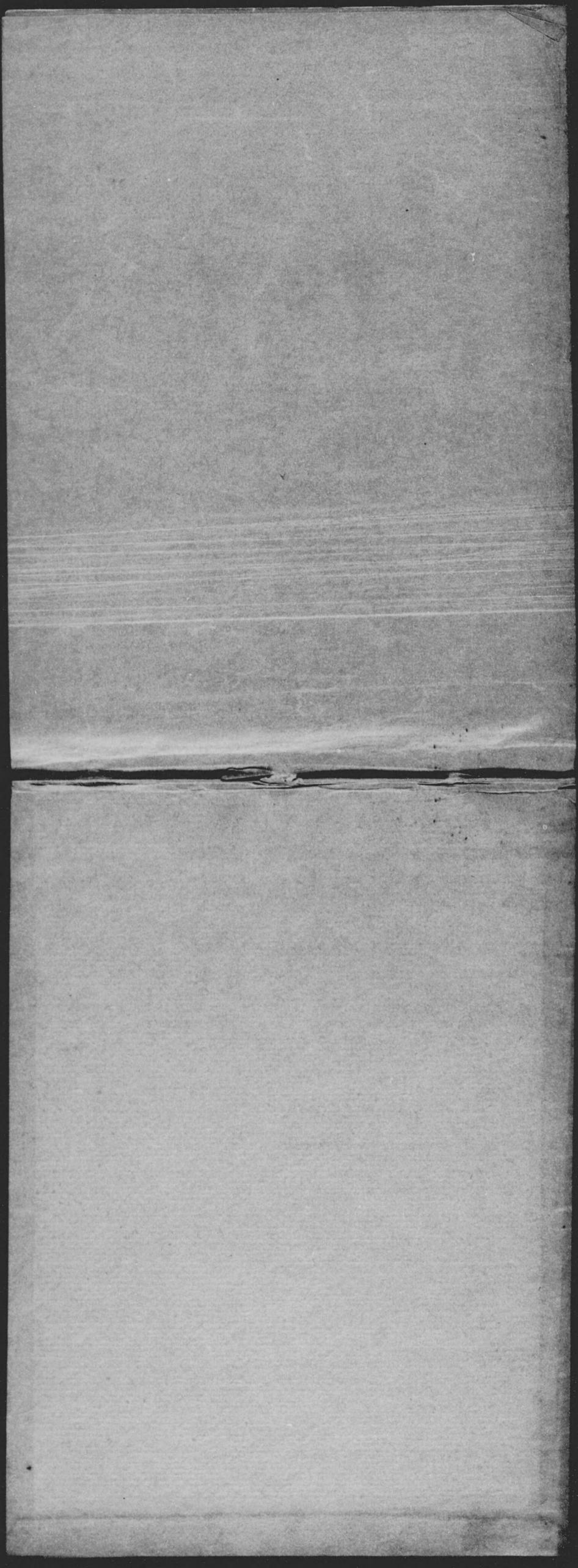
日本統計普及会・編

日本統計普及会

第２巻　第３，４輯

昭和３

AAD



42
28

第二卷

時事統計圖集

第三輯

滿蒙及支那事情

（上）

東京 本鄉

日本統計普及會

日本統計普及會趣旨

一國の政治、經濟、產業、學術とあらゆる方面の計畫を立案し、又國民日常の生活に於ても凡ての、統計を基調として考量せねばならぬ事は　今更ら呶々を要せぬが、確的な論據と、正實な基礎とが要求する處から、近時我國に於ける統計觀念が益々重要視され、從つて諸方面にその機關が設立される有樣とはなつた。即ち國運の進展國力の增進に伴て、物象悉く紛糾し、錯雜すべきは瞭かな譯であり、不完全な推理、昧曖な觀察では滿足せぬ時代となつた事を證するのみならず、車實の眞相を徹底的に剖判智得せんとする、實に立派な氣運に向つたのである。

然し乍ら統計に關する機關の設立も、亦慶すべき此現象も一般民衆的には利用されて居らぬ。つまり是等發表機關の相互間に於ける一定の聯絡なく、貴重なる資料類も關係者以外には徒らに繁瑣な數字の概念として埋もれ、而も無意義な矛盾と、重複とに力を勞する事が一般化されぬ重なる原因であらうと思はれる。

如何に貴重なる資料き遂に公開運用の機會なくして一般世人に忘却せられんとする現時の狀態を、遺憾とするの餘り、玆に「日本統計普及會」を設立せる所以である。

日本統計普及會は、一致協力して資料の蒐集に努力し、これを以て完全なる「統計圖集」を刊行し、從來の數字的繁雜に煩はされることなく、一見直ちに現象を指示すると共に豐潤な、想像の翼を自在に伸暢せしめるのみでなく、又時代り趨勢記錄を、感興深く後世に貽し得るのであつて、凡ての事象の調査研究の振作を圖り、日常必須の參考圖彙となるのは、申す迄もない。圖集撰定の方法に到りては、例令ば一事の現象に對しても微に入り細を穿つて遺憾なからしめ、世界の趨勢を一目の裡に鑑めて、統計の使命をして完全ならしめんとする念願に過ぎぬ。

別項の規條を一覽せられ、世の識者の擧つて一臂の力を添えられん事を希望する次第である。

一、本會は統計學術の進步普及を計り之等計數の利用により國家產業の發展を助長し併せて國民一般の常識を涵養せしむるを以て目的とす

一、本會は其の目的の遂行を期せむが爲め左の事業を行ふ

一、統計普及に關する研究調査並びに統計利用宣傳

二、統計展覽會を全國各地に時々開催し統計の利用を普及し消費節約能率增進發展等の資料に寄與せしむ

三、時事統計圖集の發行

官廳、自治團體、銀行、會社等の正確なる各種統計調査を基礎とし政治、經濟、產業、科學思潮等凡ゆる方面の新智識を解說し又時に內外の重要問題に關し專門大家の權威ある研究を發表し之を每月一回一冊の標準にて發行し會員に無料配附す

一、會費は一箇年分前納金貳拾圓、每月拂金貳圓とす

一、諸官衙、學校にして「時事統計圖集」購讀希望者は其の旨申込まるべし、購讀料前項會費に同じ

東京市本郷區元町二丁目四十一番地

日本統計普及會

電話小石川二三九三番

顧問

男爵　阪谷芳郎
元東京市長　西久保弘道
大阪每日新聞社長　本山彥一
京城帝國大學總長　松浦鎭次郎
代議士　賴母木桂吉
代議士　粕谷義三
代議士　池田敬八
代議士　勝正憲
代議士　松本忠雄
侯爵　木戶幸一
統計學社々長　橫山雅男

商學博士　藤本幸太郎
內閣統計局國際課長　森數樹
電氣局勞働課長　道家齊一郎
理學博士　龜田豐治朗
東京市統計課長　竹內秀次郎
實業家　叡山半三郎
單式印刷株式會社取締役
內山模型製圖社々長
理事長　內山道郎
常務理事　內山善三郎
理事　中道等

423-288

卷頭寸言

滿蒙の問題は、よく國政を云々する人の唇頭から、ともすると言ひ放たれる好題目であるが、さて其の問題に絡まる內容の種々相は、奈何なるものであるかといふ事は、實は未だ一般に知れ亘つて居らぬのがその眞相であつた。支那南北の戰爭から、近世國史上の第二の悲しむべき汚點濟南事件が勃發してから、よく日常の新聞紙が滿蒙に關係する記事を滿載し、地理地名、事業保護の名目を連ねて世の人の注意を喚起するやうになつた。こゝに改めて滿蒙の現に動きつゝある姿を正面から觀察し、現在及び將來に向つて、此の廣大な天地に活動の翼を伸さんとするものと、國內にあつていろ〳〵な點から干涉をこゝに結び、若しくは徐ろにこの國土の本來を考へ、日本のあらゆる呼吸をこゝに吹きかけんと試みる人の爲めに、この問題を提供することゝなつたのであるが、この努力は決して徒爾ではないと信ずるのである。

地大く物博し、といふことは卽ち支那の國土を言ひ現はした常套の語であつた。滿洲に於ける日本の發展活躍は、南滿鐵道の伸び行くに從つて堅實なる開展を示して居ることは、もはや世人の認識し得た事實である。この曠野に芽を吹くくさ〴〵の事業は、どんな形容を持つていかなる方面に遍滿して行かんとしつゝあるものか。農に工に畜產に商業に、その他あらゆる現象が、世界各國の濃淡相交る努力の背景から、次第に抽き描かれた跡を、心ゆくばかり眺めて見たい。昔は水草を追うて夕陽に眠つた民族も、今は機械の音を以て已が黃土を深く堀らんとする。限りなき時の流れがかやうに色彩を塗りかへる、今その本來を靜かに見來つては無際限なる感興に撲たれる、單なる詩的感想を離れた現實の心象を、味ふところにこの問題が更に社會性を濃く帶びて來るのである。

昭和三年七月

日本統計普及會

時事統計圖集　第二卷第三輯

滿蒙及支那事情（上）目次

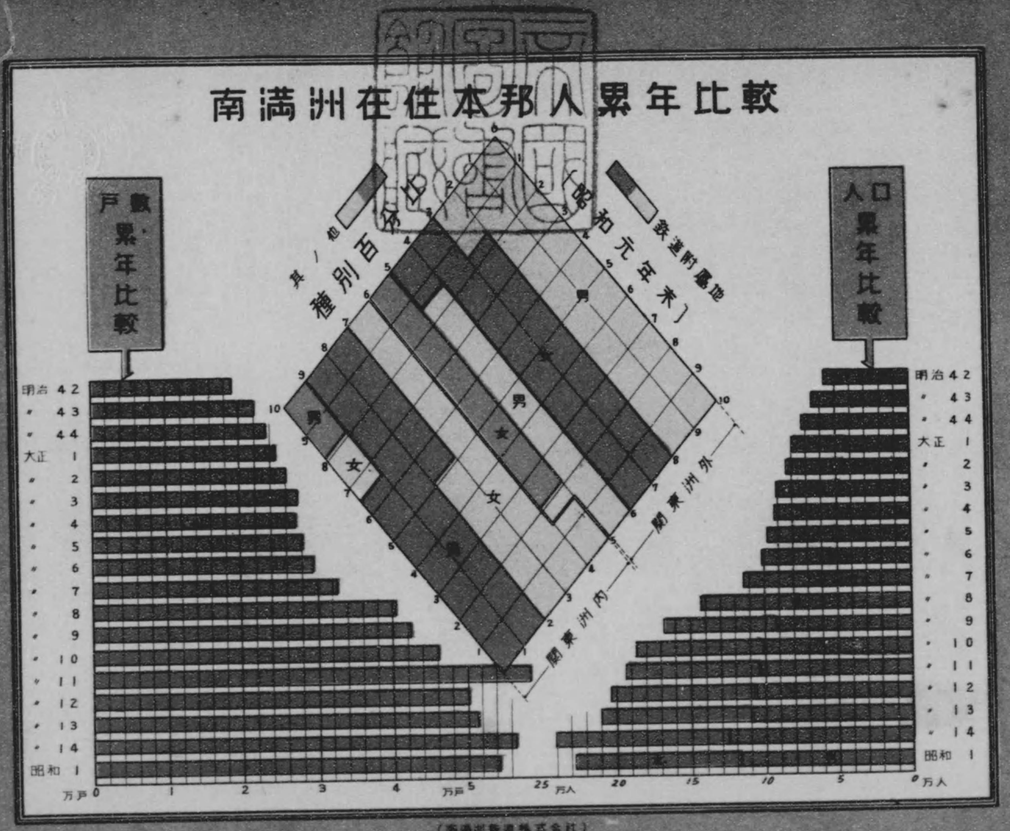
1 滿蒙交通略圖及本邦人分布圖……南滿洲鐵道株式會社
2 南滿洲在留本邦人累年比較……南滿洲鐵道株式會社
3 南滿洲及關東州ニ於ケル地方別現住人口及戶數……中日文化協會
4 關東廳歲入歲出……關東廳
5 滿洲ニ於ケル本邦投資額……中日文化協會
6 滿洲ニ於ケル日本側銀行……中日文化協會
7 滿洲ニ於ケル東洋拓殖株式會社貸出高……東洋拓殖株式會社
8 大連及奉天ニ於ケル手形交換高……中日文化協會
9 滿洲ニ於ケル本邦人職業別勞働貸銀……中日文化協會
10 南滿洲三港輸出價額及仕向國別……中日文化協會
11 南滿洲三港主要輸入額及仕出國別……中日文化協會
12 最近三ケ年南滿洲三港輸移出入高各國別……中日文化協會
13 滿洲三港ニ於ケル出入船舶……關東廳
14 南滿洲鐵道附屬地職業別人口……南滿洲鐵道株式會社
15 滿洲ニ於ケル日本內地人ノ死亡……關東廳
16 滿洲ニ於ケル氣溫……中日文化協會
17 滿蒙ニ於ケル耕地面積……南滿洲鐵道株式會社
18 滿洲ニ於ケル農產物收獲高並農家戶數……關東廳
19 滿洲ニ於ケル工場……中日文化協會
20 滿洲ニ於ケル工產額……中日文化協會
21 滿蒙ニ於ケル鑛產額……滿鐵地質調查所
22 滿洲ニ於ケル林業……中日文化協會
23 關東州ニ於ケル水產物……關東廳
24 滿洲ニ於ケル家畜及家禽……關東廳

欠

MISSING

南滿洲在住本邦人累年比較

南滿洲に住居する日本人が、最近どんな加速度を以て增してゐるか、或は累年中減少する事でもあるか、出來る事なら詳細に知りたいのは、內外齊しく希望するところであつた。依て茲には明治四十二年以來の計を採つて比較を試みたのである。土地の開拓が追々に進めば、從つて人口、戶數の增殖するのは必然な理由であつて、明治四十二年戶數僅に一九、一八四戶、人口五七、四七八人に過ぎなかつたが、大正十五年五四、一二〇戶、人口二二七、三〇一人を算するに至つた、昭和元年十二月末現在の關東洲の內外に於ける種別、人口戶數は、この累年計の一狀景を捕へ來つて男女別、一戶に住む平均人員、男百人に付女幾何の數を、稍詳しく參照せらるべきものであつた。大正十五年迄の增加率は、驚く程の急激とは決して言はれぬが、卽ち其處に南滿經營の着實と擧滅とが表はれるものと斷じてよろしい。南滿の殖民は、列國民種中、日本人程豐かな文化を以て着々進捗しつゝあるものは未だその比を見はい。恐らくやはり永久に、我が恩惠の、正しく且つ豐かなることを、國の內外から感謝せられるであらうと思ふ。



南滿州在住本邦人累年比較

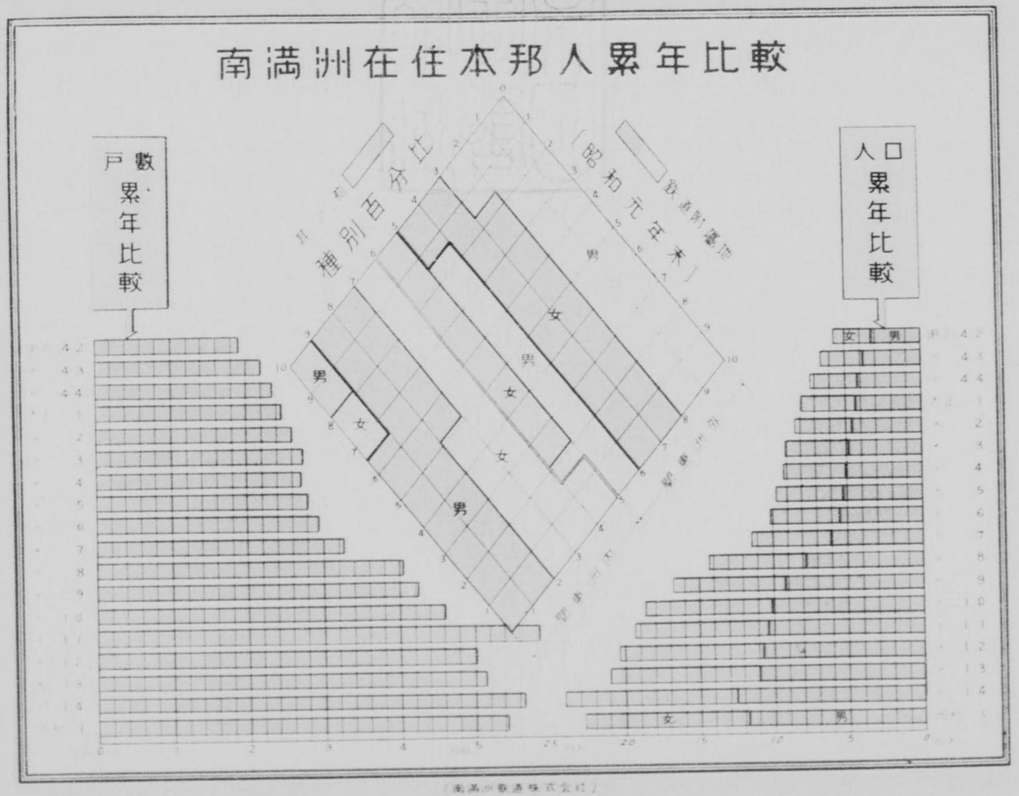
年次	戸數	人口 男	人口 女	人口 計	一戸平均人口	男百ニ付女	毎年百分増減率 戸數	毎年百分増減率 人口
	戸	人	人	人	人			
明治四十二年	19.184	33.762	23.716	57.478	3.0	70.4	—	—
明治四十三年	22.160	38.627	28.114	66.741	3.0	72.8	15.5	16.1
明治四十四年	23.434	41.791	31.599	73.390	3.1	75.8	5.7	10.0
大正一年	24.767	43.984	35.248	79.232	3.2	80.3	5.7	8.0
大正二年	26.034	46.602	38.071	84.673	3.3	81.7	5.1	6.9
大正三年	27.499	49.710	40.841	90.551	3.3	82.2	5.6	6.8
大正四年	27.151	50.117	42.027	92.144	3.4	84.9	1.3	1.8
大正五年	28.048	52.654	44.412	97.066	3.5	84.3	3.3	5.3
大正六年	29.569	55.298	47.307	102.605	3.5	85.5	5.4	5.7
大正七年	32.816	61.681	52.342	114.023	3.5	85.0	10.7	10.6
大正八年	40.468	78.446	61.928	143.374	3.6	82.8	22.7	26.3
大正九年	42.368	92.055	75.834	167.889	3.6	82.3	5.5	17.1
大正十年	45.925	101.339	85.325	186.664	3.9	84.2	8.4	11.2
大正十一年	58.875	104.086	89.890	193.976	4.1	86.4	6.4	3.9
大正十二年	50.145	107.466	95.703	203.169	4.1	89.1	1.7	2.0
大正十三年	51.483	110.032	100.268	210.300	4.1	91.1	2.7	3.5
大正十四年	56.669	126.282	114.986	241.268	4.3	91.1	10.1	14.7
大正十五年	54.120	118.251	109.050	227.301	4.2	92.2	減 4.5	減 5.8

昭和元年十二月末日現在

種別		戸數	人口 男	人口 女	人口 計	一戸平均人口	男百人ニ付女
		戸	人	人	人	人	人
關東州內	鐵道附屬地	1,899戸	4.301人	3.649人	7,950人	4.2人	8.49人
	其他	20,658	44.134	42.079	86.213	4.2	95.3
	計	22,557	48,435	45.728	94.163	4.2	94.4
關東州外	鐵道附屬地	23,370	49.058	45.037	94.095	4.0	91.8
	其他	8.193	20,758	18.285	39,043	4.8	88.1
	計	31,563	69,816	63.322	133,138	4.2	90.7
合計		54.120	118.251	109,050	227.301	4.2	92.2

註　南滿州鐵道株式會社調査

南滿洲在住本邦人累年比較



（南滿洲鐵道株式會社）

南滿州在住本邦人累年比較

年次	戸数	人口			一戸平均人口		男百人	毎年百分増減率		
		男	女	計	人口	男	女	戸数	人口	
明治四十二年	10484	33762	25216	58978	5.6	3.4				
明治四十三年	22169	38627	28511	66738	3.0	2.3	135	16.1		16.1
明治四十四年	25434	41701	31589	73290	2.9	2.3	132	6.7		10.0
大正一年	21767	43961	35218	79232	3.2	2.5	125	6.7		8.0
大正二年	25054	46042	38064	84673	3.3	2.5	121	5.1		6.9
大正三年	27399	48710	40841	89551	3.3	2.5	119	3.6		5.8
大正四年	27451	50117	42027	92144	3.4	2.5	119	1.5		2.9
大正五年	28048	52631	44112	96743	3.5	2.5	119	2.2		5.0
大正六年	29369	55298	47305	102603	3.5	2.5	117	4.7		6.0
大正七年	32816	61881	52312	114193	3.5	2.5	118	11.7		11.3
大正八年	40468	78416	64958	143374	3.6	2.5	121	23.3		25.6
大正九年	42567	92000	76831	168831	3.6	2.5	120	5.2		17.7
大正十年	45925	101334	84525	185859	3.9	2.5	120	7.9		10.1
大正十一年	48875	104056	89350	193406	4.1	2.6	116	6.4		4.1
大正十二年	50115	107466	96260	203726	4.1	2.6	111	2.5		5.3
大正十三年	51483	110052	100451	210503	4.1	2.6	109	2.7		3.3
大正十四年	56669	126282	118068	244350	4.3	2.8	106	10.1		16.1
大正十五年	54129	118251	109050	227301	4.2	2.7	108	4.5		7.0

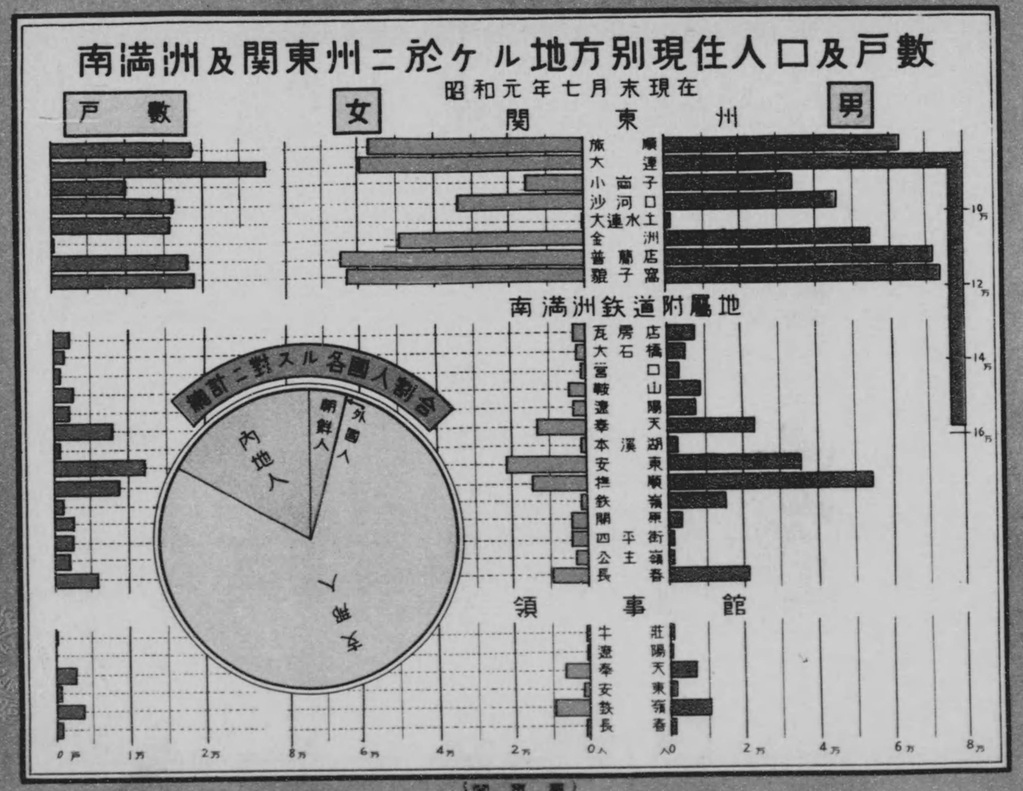
昭和元年十二月末日現在

種別		戸数	人口			一戸平均人口		男百人
			男	女	計	人口	日本人	女
関東州内	鉄道附属地	14000	43001	33649	76650	5.4	3.0	127.8
	其他	29068	41121	32069	73190	2.5	1.4	128.3
	計	43068	84122	65718	149840	3.4	2.1	128.0
関東州外	鉄道附属地	25820	49078	38687	87765	3.4	1.5	126.9
	其他	8109	25078	18253	43331	5.3	2.2	137.4
	計	33929	74156	56940	131096	3.9	1.7	130.2
合計		54129	118251	109050	227301	4.2	2.7	108.4

註　南滿州鐵道株式會社調査

南滿洲及關東州ニ於ケル地方別現住人口及戸數

人口と戸數の密集工合に依つてその地方の狀態が、あらゆる方面から判明する。たとへば大連などは逐年增加する一方といふ繁榮を示すばかりでなく、既にこの土地が今と將來とにかうなる地理の運命を有して居るといふ事が、この趨勢で明かになる一の證據であつた。げにや大連の戸數今や二八、六一三戸、人口一六七、二八一人（昭和元年七月末現在）を示し、此處に於ける我が內地人は男二七、六〇〇人、女二六、二八六人といふ大數で無論支那人を除き世界のどの國よりも勝つて居る。最近人口の增したものに普蘭店、貔子窩があつた。もはや旅順を凌駕して居ち、尙この後とも關東州中の優秀地となるであらう。南滿鐵道附屬の各地は、人口戸數とも大連、旅順などに比して華々しい數ではないが元來內地人の文化がこゝに雲集する傾向あり、從つて諸種の事業の必要上から追々人の集散の激しくなるのは言を俟たぬ處であつて安東の如きは朝鮮人が大層入り込んで居る。露人なども漁業、採金、炭坑業などに近來增したともかく之を通覽すると、關東州の內地人約九五、二〇六人、朝鮮人一、〇八〇人、計九九六、二八六人、南滿鐵道附近の內地人八八、〇四二人、朝鮮人一〇、一八四人、計九八、二二六人。領事館區域內の內地人五、八二五人、朝鮮人三二、五一四人、計三八、三三九人。これを總計して內地人一八九、〇七三人、朝鮮人の四三、七七八人、合計して二三二、八五一人となるわけで之が現在の大勢と見ていゝのである。



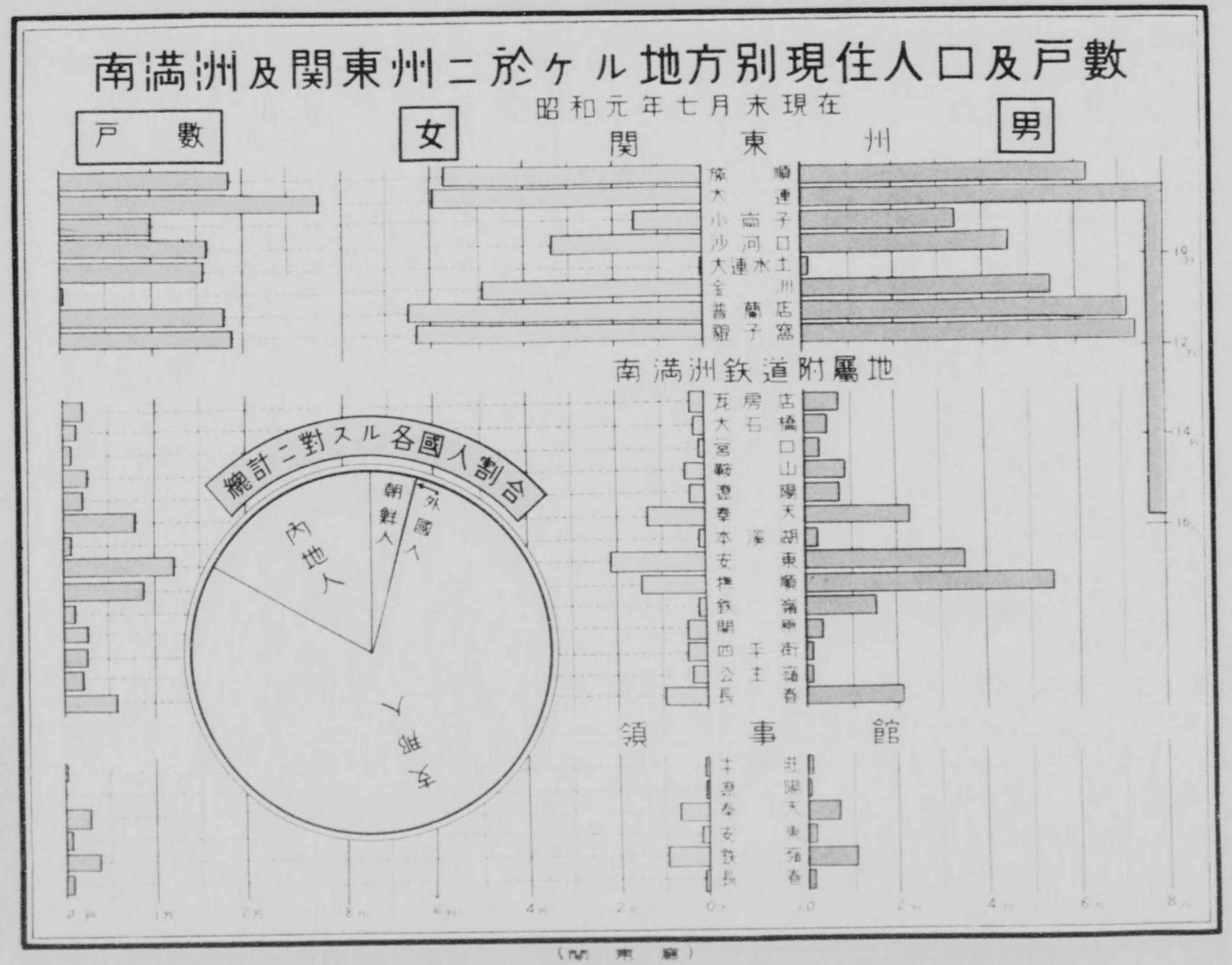
（關東廳）

南滿洲及關東州ニ於ケル地方別現住人口及戸數

（昭和二年七月末現在）

管轄別		戸數	日本人 内地人 男	日本人 内地人 女	日本人 朝鮮人 男	日本人 朝鮮人 女	支那人 男	支那人 女	外國人 男	外國人 女	合計 男	合計 女	合計 計
關東州	旅順	18.357	5,522	5,081	38	60	56.951	51.823	18	30	62.529	56.994	119.523
	大連	28.613	27.600	26.286	202	232	79.826	32.674	251	210	107.879	59.402	167.281
	小崗子	9.717	4.619	4.444	67	94	29.275	10.529	10	5	33.971	15.072	49.043
	沙河口	16.063	9.550	8.902	90	113	85.980	24.697	20	28	45.640	33.740	79.380
	大連水土	154	19	13	—	—	993	178	—	—	1.012	191	1.203
	金州	15.693	706	611	16	9	53.591	48.522	—	2	54.313	49.144	103.457
	普蘭店	17.845	518	432	44	27	71.090	64.257	—	—	71.652	64.716	136.368
	貔子窩	18.744	514	389	41	47	73.009	62.924	—	—	73.564	63.360	136.924
	計	125.587	49.048	46.158	498	582	400.715	295.604	299	275	450.560	342.619	793.179
南滿洲鐵道附屬地	瓦房店	2.234	1.580	1.470	26	28	5.476	2.137	—	—	7.051	3.635	10.686
	大石橋	1.439	1.580	1.439	13	22	3.164	1.134	—	—	4.757	2.595	7.352
	營口	939	1.161	1.130	43	57	1.628	501	2	5	2.834	1.693	4.527
	鞍山	2.769	3.204	2.817	58	49	5.295	1.836	—	1	8.557	4.706	13.263
	遼陽	2.083	2.620	2.408	12	20	4.856	1.149	—	—	7.489	3.577	11.065
	奉天	7.090	9.946	9.063	160	91	12.218	3.459	577	463	22.901	13.096	35.977
	本溪湖	951	1.268	1.254	30	32	1.060	382	—	—	2.358	1.668	4.029
	安東	12.120	5.760	5.634	3.948	3.313	25.645	11.570	6	4	35.359	20.521	55.880
	撫順	8.763	7.884	7.429	524	427	46.003	6.364	54	14	54.465	14.235	68.699
	鐵嶺	1.252	1.570	1.362	67	5	1.872	518	—	—	3.509	1.885	5.394
	開原	2.622	1.285	1.281	154	125	12.701	2.739	2	—	15.142	4.145	18.287
	四平街	2.612	1.778	1.568	175	113	8.389	2.431	1	—	10.343	4.112	14.455
	公主嶺	2.060	1.073	989	31	34	8.036	2.283	3	1	9.143	3.307	12.450
	長春	5.736	4.972	4.548	332	295	17.342	4.356	290	230	22.936	9.429	32.365
	計	52.670	45.650	42.392	5.573	4.611	153.685	40.862	935	718	205.803	88.585	294.426
領事館	牛莊	249	314	324	83	77	—	—	—	—	397	401	798
	遼陽	64	1.701	77	69	56	—	—	—	—	143	133	276
	奉天	2.895	704	1.601	5.013	4.516	—	—	—	—	6.714	6.117	12.831
	安東	528	149	121	1.227	1.147	—	—	—	—	1.376	1.268	2.644
	鐵嶺	3.761	463	500	10.054	8.614	—	—	—	—	10.517	9.114	19.631
	長春	558	248	253	920	738	—	—	—	—	1.168	991	2.159
	計	8.055	2.949	2.876	17.366	15.148	—	—	—	—	20.315	18.024	38.339
總計		186.321	97.647	91.426	23.437	20.341	554.400	336.466	1.234	993	676.718	449.226	1.125.944

（中日文化協會調査）



(關東廳)

南滿洲及關東州ニ於ケル地方別現住人口及戸數

(昭和二年七月末現在)

管轄別		戸數	日本人 內地人 男	日本人 內地人 女	日本人 朝鮮人 男	日本人 朝鮮人 女	支那人 男	支那人 女	外國人 男	外國人 女	合計 男	合計 女	合計 計
關東州	旅順	18,357	5,522	5,081	38	60	56,951	51,823	18	30	62,529	56,994	119,523
	大連	28,613	27,600	26,286	202	232	79,826	32,674	251	240	107,879	59,402	167,281
	小崗子	9,717	4,619	4,444	67	91	29,275	10,529	10	5	33,971	15,072	49,043
	沙河口	16,063	9,550	8,902	90	113	85,980	24,695	20	28	45,640	33,740	79,380
	大連水上	154	19	13			993	178			1,012	191	1,203
	金州	15,693	706	611	16	9	53,591	48,522		2	54,313	49,144	103,457
	普蘭店	17,845	518	432	44	27	71,090	64,257			71,652	64,716	136,368
	貔子窩	18,744	514	389	41	47	73,009	62,924			73,564	63,360	136,924
	計	125,587	49,048	46,158	498	582	400,715	295,604	299	275	450,560	342,619	793,179
南滿洲鐵道附屬地	瓦房店	2,234	1,589	1,470	26	28	5,476	2,137			7,051	3,635	10,686
	大石橋	1,439	1,580	1,439	13	22	3,161	1,134			4,757	2,595	7,352
	營口	939	1,161	1,130	43	57	1,628	501	2	5	2,834	1,693	4,527
	鞍山	2,769	3,204	2,817	58	49	5,295	1,836		1	8,557	4,706	13,263
	遼陽	2,083	2,620	2,408	12	20	4,856	1,149			7,489	3,577	11,065
	奉天	7,090	9,946	9,063	160	91	12,218	3,459	577	463	22,901	13,096	35,977
	本溪湖	951	1,268	1,254	30	32	1,060	382			2,358	1,668	4,029
	安東	12,120	5,760	5,634	3,948	3,313	25,615	11,570	6	4	35,359	20,521	55,880
	撫順	8,763	7,884	7,429	524	427	46,003	6,364	54	11	54,465	14,235	68,699
	鐵嶺	1,252	1,570	1,362	67	5	1,872	518			3,509	1,885	5,394
	開原	2,622	1,285	1,281	154	125	12,701	2,739	2		15,142	4,145	18,287
	四平街	2,612	1,778	1,568	175	113	8,389	2,431	1		10,343	4,112	14,455
	公主嶺	2,060	1,073	989	31	34	8,036	2,283	3	1	9,143	3,307	12,450
	長春	5,736	4,972	4,548	332	295	17,342	4,356	290	230	22,936	9,429	32,365
	計	52,670	45,650	42,392	5,573	4,611	153,685	40,862	935	718	205,803	88,585	294,426
領事館	牛莊	249	314	324	83	77					397	401	798
	遼陽	64	1,701	77	69	56					143	133	276
	奉天	2,895	704	1,601	5,013	4,516					6,714	6,117	12,831
	安東	528	149	121	1,227	1,117					1,376	1,268	2,644
	鐵嶺	3,761	463	500	10,054	8,614					10,517	9,114	19,631
	長春	558	248	253	920	738					1,168	991	2,159
	計	8,055	2,949	2,876	17,366	15,148					20,315	18,024	38,339
總計		186,321	97,647	91,426	23,437	20,341	554,400	336,466	1,234	993	676,718	449,226	1,125,944

(中日文化協會調査)

關東廳歲入歲出

明治三十九年創立された、關東都督府の會計は、臨時事件費から支辨せられたが、四十年三月これを特別會計とし、其の歲入及び一般會計の補充金をもつて、歲出にあてる事に規定された。關東州居住民が出す地方稅其の他の、收入を以て、教育衞生、勸業など住民の幸福に關係のある費用を支辨せしめるものである。關東廳の歲計は、特別會計と、地方費會計とに區分されて居るが、特別會計は租稅及び稅外收入と、一般會計からの補充金を以て、歲入として居り地租、所得、酒、煙草、鹽、取引所の諸稅などは之に屬する種目である。地方費會計は關東長官の管理に屬し地方稅、特許料其の他の收入を以て歲入とし地方行政費の支辨にあてゝ居る事恰かも內地の制度と似て居るものがあつた。昭和二年度の出入豫算を見、明治四十二年以來の累年比較を見ると大正八年以來急激な高騰を示して居るのは一は世界戰爭の影響と一は關東州に於ける本邦人の發展とに依るものであつて日本內外の仔細に看る可きものがあらうと思ふ。

關東廳歲入歲出（昭和二年度歲入歲出豫算）

累年比較

年度	歲入	歲出
明治四十二年度	5,648,404円	4,617,689円
明治四十三年度	6,642,418	5,771,335
明治四十四年度	6,652,425	5,499,297
大正一年度	6,162,770	5,359,503
大正二年度	5,538,755	4,429,252
大正三年度	5,490,093	4,116,899
大正四年度	5,563,458	4,118,924
大正五年度	6,280,324	4,208,003
大正六年度	7,725,224	4,612,984
大正七年度	9,875,959	9,895,854
大正八年度	12,098,707	9,557,200
大正九年度	14,224,280	11,705,727
大正十年度	16,803,840	13,792,790
大正十一年度	19,343,996	16,791,855
大正十二年度	19,099,715	15,603,904
大正十三年度	18,717,247	15,237,571
大正十四年度	17,947,721	14,036,413
昭和元年度	17,947,721	14,036,413

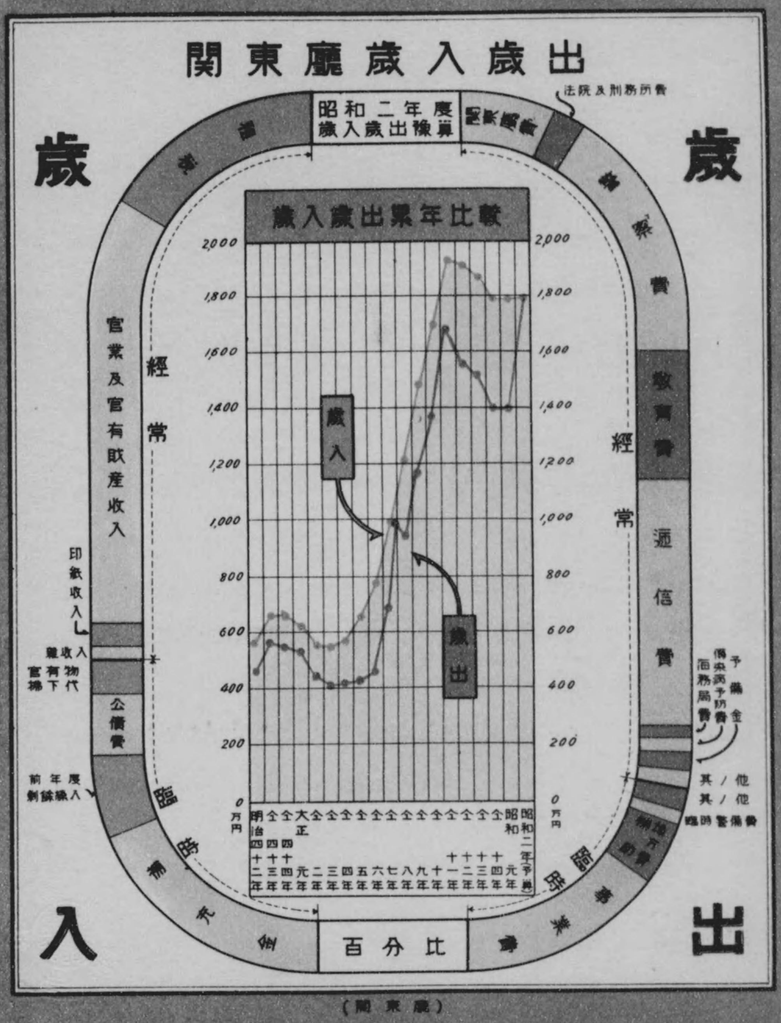
歲入

	項目	豫算額
經常	租稅	3,389,029円
	官業及官有財産收入	7,150,429
	印紙收入	444,217
	雜收入	322,199
	計	11,305,874
臨時	官有物拂下代	402,598
	補充金	4,000,000
	公債金	1,000,000
	前年度剩餘金繰入	1,206,731
	事業費資金借入金	
	計	9,609,329
總計		17,915,203

歲出

	項目	豫算額
經常	關東廳費	1,510,475円
	法院及刑務所費	482,263
	警察費	3,595,135
	教育費	2,191,352
	遞信費	4,396,812
	海務局	1,153,845
	醫院費	112,677
	傳染病豫防費	161,170
	國債整理基金	35,159
	特別會計繰入	124,634
	諸支出金	58,207
	豫備金	300,000
	合計	13,485,729
臨時	事業費	3,194,382
	土地審查委員會費	7,940
	臨時戶口調查費	
	學資臨時加給	
	勞働統計調查費	30,000
	地方費補助	1,000,000
	臨時支那語獎勵費	13,500
	臨時警備費	183,652
	退職特別賜金	
	合計	4,429,474
總計		17,915,203

註　關東廳調查　關東廳統計要覽ニ據ル



（關東廳）

關東廳歲入歲出（昭和二年度歲入歲出豫算）

累年比較

年度	歲入	歲出
明治四十二年度	5,648,404	4,617,689
明治四十三年度	6,642,418	5,771,335
明治四十四年度	6,652,425	5,499,297
大正一年度	6,162,770	5,359,503
大正二年度	5,538,755	4,429,252
大正三年度	5,490,093	4,116,899
大正四年度	5,563,458	4,118,924
大正五年度	6,280,324	4,208,003
大正六年度	7,725,224	4,612,984
大正七年度	9,875,959	9,895,854
大正八年度	12,098,707	9,557,200
大正九年度	14,224,280	11,705,727
大正十年度	16,803,840	13,792,790
大正十一年度	19,343,996	16,791,855
大正十二年度	19,099,715	15,603,904
大正十三年度	18,717,247	15,237,571
大正十四年度	17,947,721	14,036,413
昭和元年度	17,947,721	14,036,413

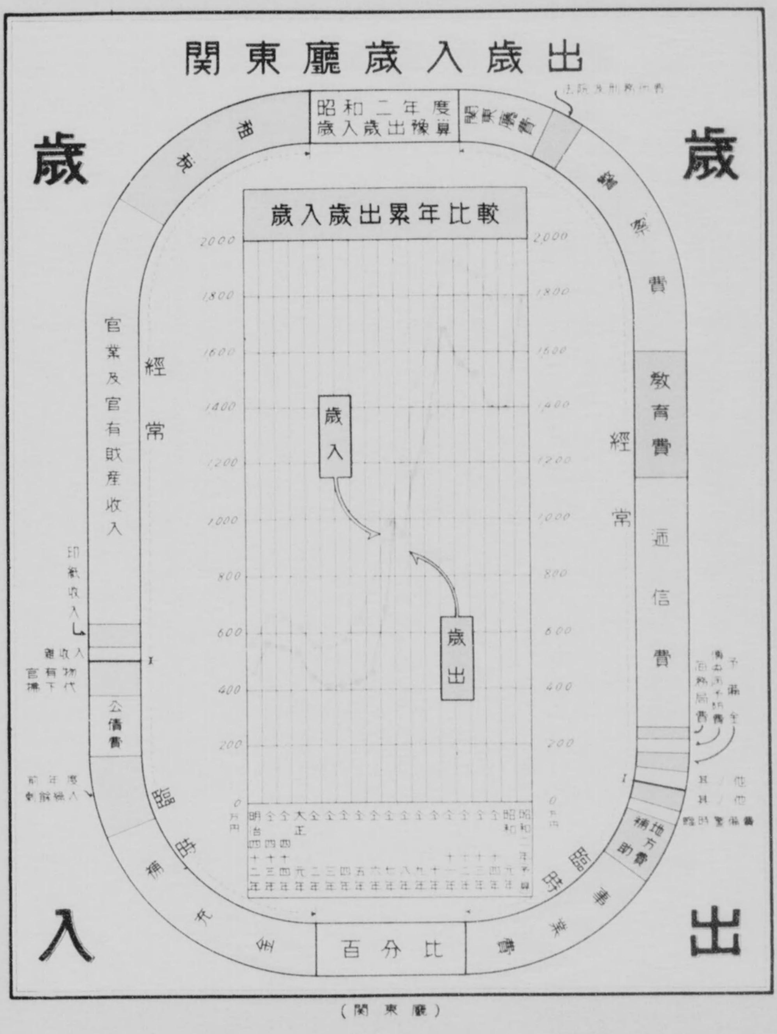
註　關東廳調査　關東廳統計要覽ニ據ル

歲入

項目		豫算額
經常	租稅	3,389,029
	官業及官有財產收入	7,150,429
	印紙收入	444,217
	雜收入	322,199
	計	11,305,874
臨時	官有物拂下代	402,598
	補充金	4,000,000
	公債金	1,000,000
	前年度剩餘金繰入	1,206,731
	事業費資金借入金	
	計	9,609,329
總計		17,915,203

歲出

項目		豫算額
經常	關東廳費	1,510,475
	法院及刑務所費	482,263
	警察費	3,595,135
	教育費	2,191,352
	遞信費	4,396,812
	海務局	1,153,845
	醫院費	112,677
	傳染病豫防費	161,170
	國債整理基金	35,159
	特別會計繰入	124,634
	諸支出金	58,207
	豫備金	300,000
	合計	13,485,729
臨時	事業費	3,194,382
	土地審査委員會費	7,940
	臨時戶口調査費	
	學資臨時加給	
	勞働統計調査費	30,000
	地方費補助	1,000,000
	臨時支那語養勵費	13,500
	臨時警備費	183,652
	退職特別賜金	
	合計	4,429,474
總計		17,915,203



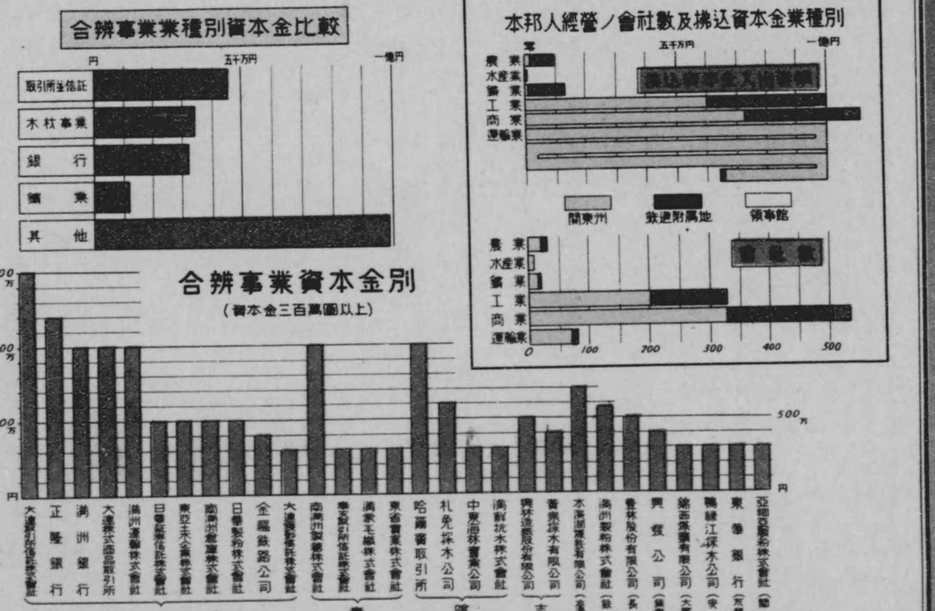
（關東廳）

滿洲ニ於ケル本邦投資額

日華合辨事業といふことは、今では殆ど日本内地の一般人からは忘却せられた傾のあるものであるが、茲に掲げた會社及び事業名を仔細に見て、先づ意外なる根底の深さと、事業に關する將來とが、脈々として思ひ出され、且つ又一種の意義ある覺悟も感ずることであらうと思ふ。本邦人の滿洲に投資する狀況を列擧することも、この點では決して徒爾ではなかつた。今こゝに三百萬圓以上の資金を有する會社の重るる物を採つても、實はこんなにあり、而も内地人には親しからざる名目も有るのであつて着々効果を奏して居る。假に合辨事業のみを見ても、種別から推すと取引所並信託の四千五百萬圓が一位、木材の三千四百萬圓が二位、多かるべき筈の銀行三千二百萬圓が三位であつた。鑛業は恐らく將來一層發展せらるべきであらう。從つて大連の取引信託會社が一千五百萬圓を擁し、正隆銀行以下何れも之よりは少しく不足である。又本邦人經營の會社も大連の五九五社、拂込資金四億六千餘萬圓は、他地の追隨を許さぬものがあり、奉天の一二九社などは、奥地の開拓がこゝ迄展伸したことは悦びに堪えぬ。

滿洲ニ於ケル本邦投資額

（昭和二年四月末現在）



（中日文化協會）

滿洲ニ於ケル本邦投資額

合辨事業資本金別（資本金三百萬圓以上）

名稱	所在地名	資本額
大連取引所信託株式會社	大連	15,000,000円
正隆銀行	大連	12,000,000
滿洲銀行	大連	10,000,000
大連株式商品取引所	大連	10,000,000
哈爾賓取引所	哈爾賓	10,000,000
滿洲運輸株式會社	大連	10,000,000
南滿洲製糖株式會社	奉天	10,000,000
本溪湖煤鐵有限公司	本溪湖	7,000,000
札免採木公司	哈爾賓	6,000,000
滿洲製粉株式會社	鐵嶺	5,750,000
豐材股份有限公司	長春	5,000,000
興林造紙股份有限公司	吉林	5,000,000
日華證券信託株式會社	大連	5,000,000
東亞土木企業株式會社	大連	5,000,000
南滿洲倉庫株式會社	大連	5,000,000
中華製粉株式會社	大連	5,000,000
黃泉採木有限公司	吉林	4,000,000
興發公司	家鉞家店	4,000,000
金福鐵路公司	大連	4,000,000
奉天取引所信託株式會社	奉天	3,500,000
錦西煤鑛有限公司	大窯溝	3,000,000
中東海林實業公司	哈爾賓	3,000,000
滿鮮杭木株式會社	哈爾賓	3,000,000
鴨綠江採木公司	安東	3,000,000
東華銀行	瓦房店	3,000,000
大連鉞鈔信託株式會社	大連	3,000,000
滿蒙毛織株式會社	奉天	3,000,000
東省實業株式會社	奉天	3,000,000
亞細亞製粉株式會社	開原	3,000,000

合辨事業總資本金並事業別

業種別	資本金
鑛業	11,500,000円
木材事業	34,000,000
銀行	32,125,000
取引所並信託	45,500,000
其他	98,990,000
合計	222,115,000

本邦人經營ノ會社

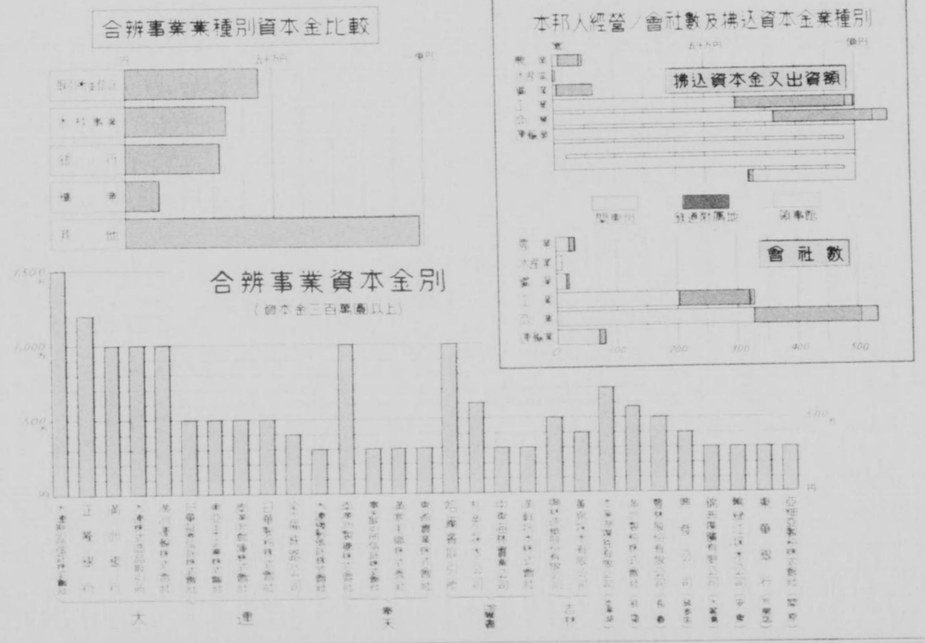
營業種別	關東洲		鐵道附屬地	
	會社數	拂込資本金又ハ出資額	會社數	拂込資本金又ハ出資額
農業	20	1,940,000	10	6,392,500
水産業	7	799,600	——	——
鑛業	14	1,124,300	5	12,350,850
工業	203	60,301,050	113	36,742,582
商業	326	72,639,992	183	34,157,637
運輸業	72	334,668,000	8	1,090,000
計	642	471,472,942	319	90,733,568

營業種別	領事館		合計	
	會社數	拂込資本金又ハ出資額	會社數	拂込資本金又ハ出資額
農業	10	1,000,000	31	9,332,500
水産業	——	——	7	799,600
鑛業	——	——	19	13,475,100
工業	11	2,788,425	326	99,830,057
商業	25	4,349,000	534	111,146,629
運輸業	1	100,000	81	335,858,000
計	37	8,235,425	998	570,441,935

註　中日文化協會調査　滿蒙年鑑ニ據ル

滿洲ニ於ケル本邦投資額

（昭和二年四月末現在）



（中日文化協會）

滿洲ニ於ケル本邦投資額

合辨事業資本金別（資本金三百萬圓以上）

名稱	所在地名	資本額
大連取引所信託株式會社	大連	15,000,000
正隆銀行	大連	12,000,000
滿洲銀行	大連	10,000,000
大連株式商品取引所	大連	10,000,000
哈爾賓取引所	哈爾賓	10,000,000
滿洲運輸株式會社	大連	10,000,000
南滿洲製糖株式會社	奉天	10,000,000
本溪湖煤鐵有限公司	本溪湖	7,000,000
札免採木公司	哈爾賓	6,000,000
滿洲製粉株式會社	鐵嶺	5,750,000
豐材股份有限公司	長春	5,000,000
興林造紙股份有限公司	吉林	5,000,000
日華證券信託株式會社	大連	5,000,000
東亞土木企業株式會社	大連	5,000,000
南滿洲倉庫株式會社	大連	5,000,000
中華製粉株式會社	大連	5,000,000
黃泉採木有限公司	吉林	4,000,000
興發公司	家錢家店	4,000,000
金福鐵路公司	大連	4,000,000
奉天取引所信託株式會社	奉天	3,500,000
錦西煤鑛有限公司	大窰溝	3,000,000
中東海林實業公司	哈爾賓	3,000,000
滿鮮杭木株式會社	哈爾賓	3,000,000
鴨綠江採木公司	安東	3,000,000
東華銀行	瓦房店	3,000,000
大連錢鈔信託株式會社	大連	3,000,000
滿蒙毛織株式會社	奉天	3,000,000
東省實業株式會社	奉天	3,000,000
亞細亞製粉株式會社	開原	3,000,000

合辨事業總資本金並事業別

業種別	資本金
鑛業	11,500,000
木材事業	34,000,000
銀行	32,125,000
取引所並信託	45,500,000
其他	98,990,000
合計	222,115,000

本邦人經營ノ會社

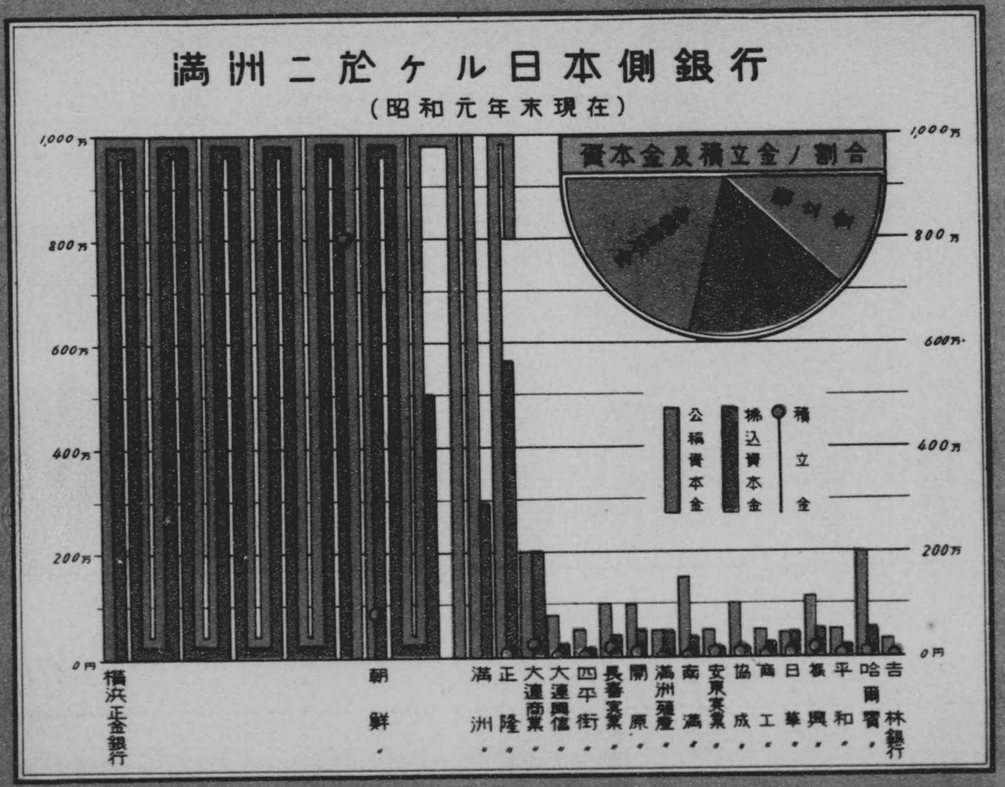
營業種別	關東洲		鐵道附屬地	
	會社數	拂込資本金又ハ出資額	會社數	拂込資本金又ハ出資額
農業	20	1,940,000	10	6,392,500
水産業	7	799,600		
鑛業	14	1,124,300	5	12,350,850
工業	203	60,301,050	113	36,742,582
商業	326	72,639,992	183	34,157,637
運輸業	72	334,668,000	8	1,090,000
計	642	471,472,942	319	90,733,568

營業種別	領事館		合計	
	會社數	拂込資本金又ハ出資額	會社數	拂込資本金又ハ出資額
農業	10	1,000,000	31	9,332,500
水産業			7	799,600
鑛業			19	13,475,100
工業	11	2,788,425	326	99,830,057
商業	25	4,349,000	534	111,146,629
運輸業	1	100,000	81	335,858,000
計	37	8,235,425	998	570,441,935

註　中日文化協會調査　滿蒙年鑑　據ル

滿洲ニ於ケル日本側銀行

滿洲にある日本側の金融機關としては、此の圖表にある銀行の外、東洋拓殖會社、講會業者(信託)、金融組合、信用組合等もあるが、何と云つても一番勢力を振ふものは正金銀行であつた。荒涼未開なる滿洲の野を、此處迄開拓した根源は、實にこの金融の妥當なる努力であつて、殊に正金は日露戰爭當時からの經過を持つもので、卽ち軍資金の支辨に充てる爲め一億五千萬圓の軍用手票を發行したに始まり、之が買收の必要上正金牛莊支店を開設したのが、明治三十三年一月であつた。之が滿洲に於ける日本側の金融機關の嚆矢であつて、以後銀行券の發行となり、滿洲内本邦人の經濟的發展の異常なこと、相俟つて、いよ/\その機能を發揮する事となつたのである。正金は銀券の發行權を有して爲替業務に當つて居るが、大正四年設立の朝鮮銀行は金券の發行權を持ち、主として滿洲に於ける主力金融機關となつた。これは大正六年十一月、正金の特殊權力を、朝鮮銀行に移管して、一般金融の中樞たらしめんとした結果なのである。右の正金、朝鮮、東洋拓殖と三者鼎立、本邦人の發展に着々資せんとして努力して居るのは悦びに堪えぬ。



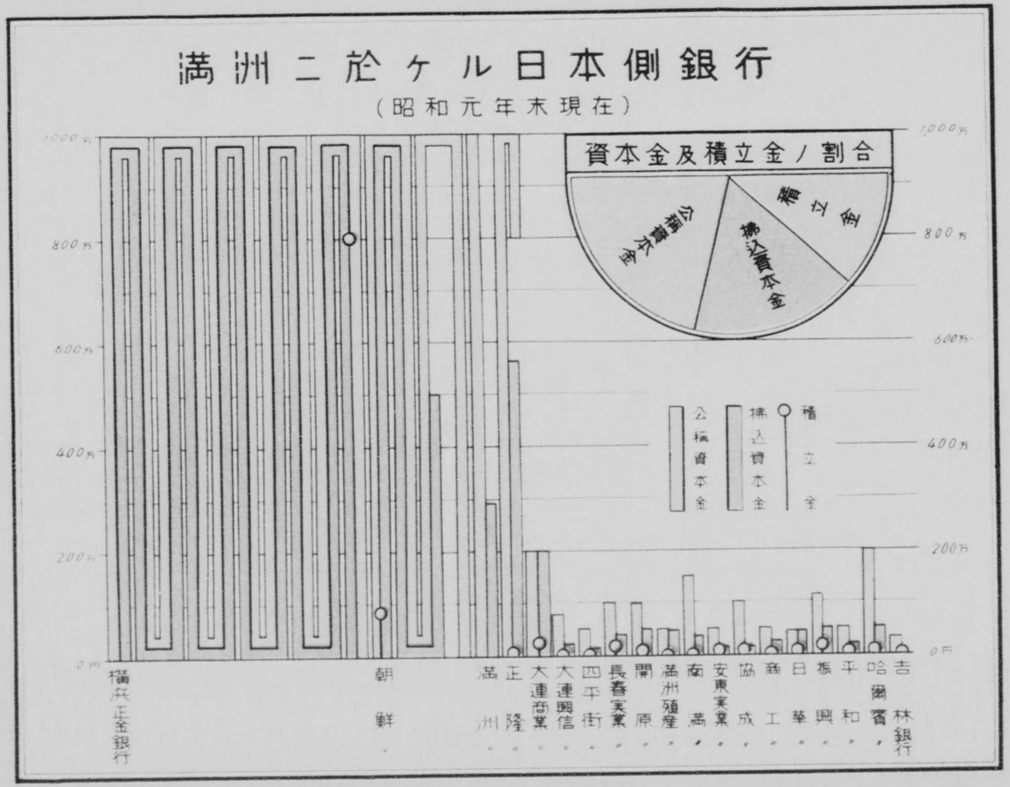
滿洲ニ於ケル日本側銀行（昭和元年度末現在）

名稱	設立年月	公稱資本金	拂込資本金	本店所在地	積立金
朝鮮銀行	大正四年八月	40,000,000円	25,000,000円	京城	821,000円
横濱正金銀行	明治三十九年二月	100,000,000	100,000,000	横濱	92,500,000
正隆銀行	明治四十一年一月	12,000,000	5,624,375	大連	70,000
滿洲銀行	大正十二年七月	10,000,000	2,906,662	大連	——
大連商業銀行	大正七年七月	2,000,000	2,000,000	大連	201,000
大連興信銀行	大正四年十一月	500,000	200,000	大連	35,000
四平街銀行	大正七年三月	500,000	151,250	四平街	5,500
長春實業銀行	大正六年十二月	1,000,000	400,000	長春	192,600
開原銀行	大正八年十月	1,000,000	500,000	開原	125,500
滿洲殖産銀行	大正九年二月	500,000	500,000	奉天	8,700
南滿銀行	大正八年十一月	1,500,000	375,000	鞍山	28,931
安東實業銀行	大正七年五月	500,000	125,000	安東	87,770
協成銀行	大正九年三月	1,000,000	250,000	安東	53,889
商工銀行	大正二年四月	500,000	275,000	遼陽	10,900
日華銀行	大正八年十一月	450,000	450,000	鐵嶺	70,942 洋50,000
振興銀行	大正七年五月	1,175,000	500,000	營口	146,250
平和銀行	大正九年一月	500,000	200,000	吉林	65,570
哈爾賓銀行	大正十年十一月	2,000,000	500,000	哈爾賓	41,292
吉林銀行	大正九年二月	300,000	75,000	吉林	6,500
計		178,125,000	140,032,287	計	洋50,000 94,471,344

註　中日文化協會調査　滿蒙年鑑ニ據ル

滿洲ニ於ケル日本側銀行

（昭和元年末現在）



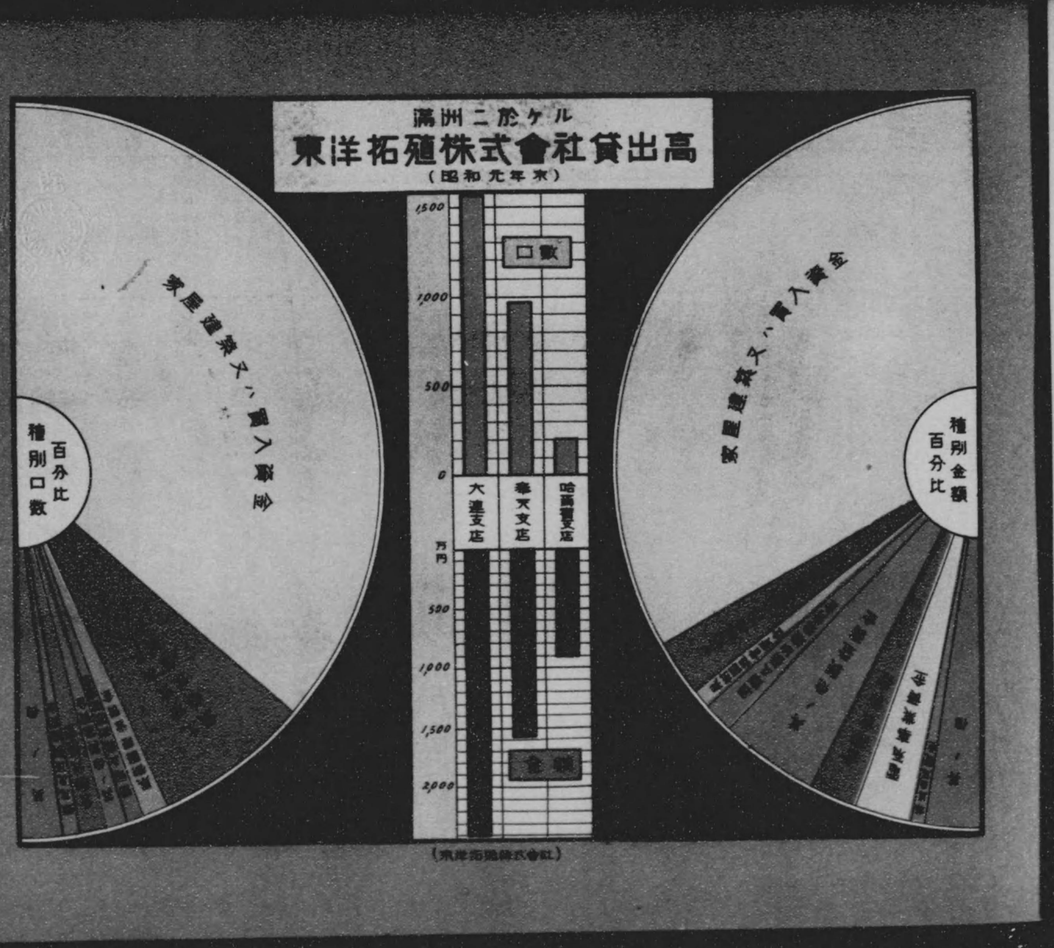
滿洲ニ於ケル日本側銀行　昭和元年度末現在

名稱	設立年月	公稱資本金	拂込資本金	本店所在地	積立金
朝鮮銀行	大正四年八月	100,000,000	25,000,000	京城	821,000
橫濱正金銀行	明治三十九年二月	100,000,000	100,000,000	橫濱	32,500,000
正隆銀行	明治四十一年一月	12,000,000	5,624,375	大連	70,000
滿洲銀行	大正十二年七月	10,000,000	2,500,562	大連	
大連商業銀行	大正七年七月	2,000,000	2,000,000	大連	201,000
大連興信銀行	大正四年十一月	500,000	500,000	大連	35,000
四平街銀行	大正七年三月	500,000	125,250	四平街	5,500
長春實業銀行	大正六年十二月	1,000,000	400,000	長春	192,600
開原銀行	大正八年十月	1,000,000	500,000	開原	125,500
滿洲殖産銀行	大正九年三月	500,000	500,000	奉天	8,200
南滿銀行	大正八年十一月	1,500,000	375,000	鞍山	28,931
安東實業銀行	大正七年五月	500,000	125,000	安東	87,770
協成銀行	大正九年三月	1,000,000	250,000	安東	52,855
商工銀行	大正二年四月	500,000	275,000	奉天	10,900
日華銀行	大正八年十一月	450,000	450,000	鐵嶺	70,942
振興銀行	大正七年五月	1,175,000	500,000	營口	50,000
平和銀行	大正九年一月	500,000	250,000	吉林	14,250
哈爾賓銀行	大正十年十一月	2,000,000	500,000	哈爾賓	65,570
吉林銀行	大正九年二月	500,000	75,000	吉林	11,292
					50,000
計		178,125,000	140,032,287	計	91,471,311

註　中日文化協會調査　滿蒙年鑑ニ據ル

滿洲ニ於ケル東洋拓殖株式會社貸出高

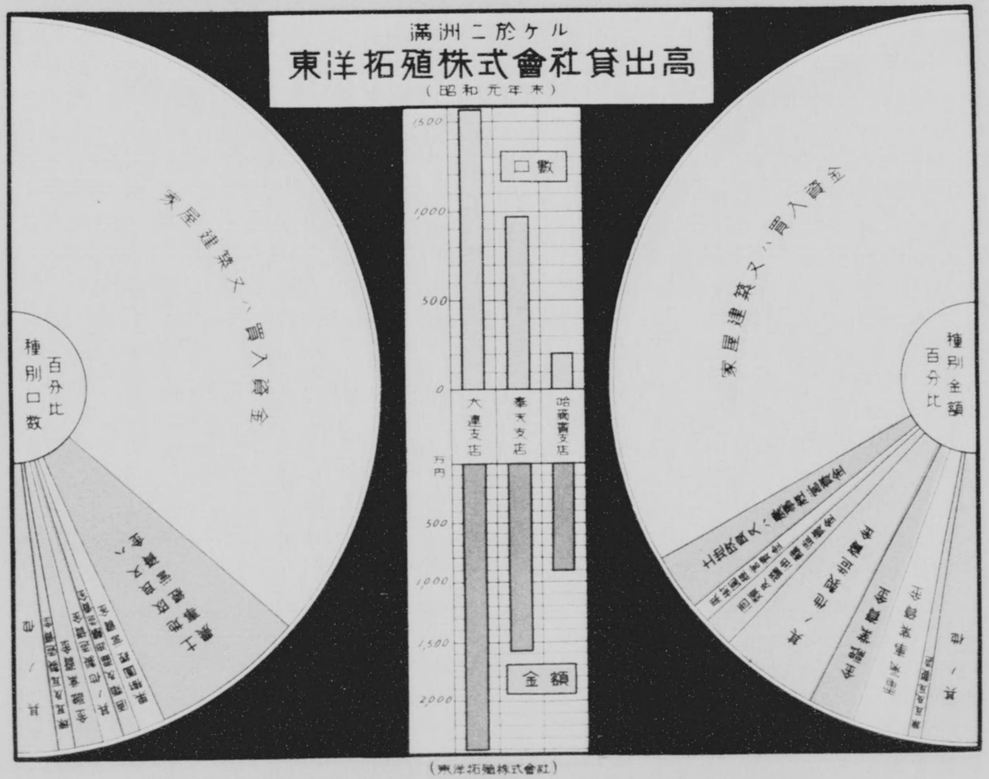
東洋拓殖會社の南滿に於ける雄飛は大きいものであつて、金融の機關中でも主として不動産の貸出を行つて居る、こゝに大連、奉天、ハルピン三支店、昭和元年末貸出高の比較を一見すると、東拓の本旨と、この支店の所在地の三都が、何物に金を要し、何者に要せざるやを明らかに知ることが出來る一興がある。從つてその貸出高の多寡はかうなると問題ではなく却つてこの長短の二つが注目の的とならねばならぬ。先づ三都市街地では最も莫大なる貸出をしたのは家屋建築買入資金である。これは村落には及んで居らぬ、大連の日數一、一四六、金額千九百餘萬圓が首位、奉天、ハルピンといふ順位になつて居るが、大連に比しては甚しく劣る、この以後の種目と日數とは百分比に明かである。大連にある教育資金、運輸交通資金その他が、奉天になく、又奉天、大連に無くてハルピンにのみ在るものがあり、卽ち東拓の手の屆く場所には、要不要を見る目が、こゝに至る產業有無の一大事に常に遭遇してゐたのである。



滿洲ニ於ケル東洋拓殖株式會社貸出高（昭和元年末）

種別	大連支店		奉天支店		哈爾賓支店		合計	
	口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額
		円		円		円		円
家屋建築又ハ買入資金 市街地	1,146	19,261.087	732	8,281.479	165	4,815.593	2,043	32,358.159
家屋建築又ハ買入資金 村落	—	—	—	—	—	—	—	—
土地改良農事經營資金	267	1,339.062	89	1,683.971	1	5.000	357	3,028.033
林業資金	—	—	17	365.812	—	—	17	365.812
果樹園經營資金	49	577.413	6	111.469	—	—	55	688.882
棉花耕作資金	7	30.200	—	—	—	—	7	30.200
牧場經營資金	14	118.709	3	22.669	1	5.000	18	146.378
鑛業資金	—	—	5	376.618	—	—	5	376.618
酒類醬油醸造資金	13	250.779	18	200.222	3	1,048.900	34	1,499.901
澱粉製造資金	3	49.399	—	—	1	45.000	4	94.399
紙製造資金	1	60.000	—	—	—	—	1	60.000
海產物加工資金	5	46.053	—	—	—	—	5	46.053
工場經營資金	—	—	—	—	4	110.000	4	110.000
精米業資金	4	18.636	—	—	—	—	4	18.636
其他製造資金	27	1,423.238	22	2,505.184	2	90.000	51	4,018.422
金融業資金	—	—	60	2,040.362	—	—	60	2,040.362
運輸交通資金	3	30.400	—	—	—	—	3	30.400
電氣事業資金	—	—	—	—	6	2,379.000	6	2,379.000
油房資金	—	—	—	—	1	50.000	1	50.000
敎育資金	2	80.329	—	—	2	59.316	4	139.645
衞生資金	—	—	—	—	2	87.000	2	87.000
其他	20	589.122	7	68.855	6	323.600	33	981.577
煉瓦及瓦製造資金	11	283.193	15	141.708	—	—	26	424.901
合計	1,572	24,157.620	974	15,798.349	194	9,018.409	2,740	48,974.378

註　東洋拓殖株式會社調査



（東洋拓殖株式會社）

滿洲ニ於ケル東洋拓殖株式會社貸出高（昭和元年末）

種別	大連支店		奉天支店		哈爾濱支店		合計	
	口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額
家屋建築又ハ買入資金 市街地	1,146	19,261,087	732	8,281,479	165	1,815,593	2,043	32,358,159
家屋建築又ハ買入資金 村落								
土地改良農事經營資金	267	1,339,062	89	1,683,971	1	5,000	357	3,028,033
林業資金			17	365,812			17	365,812
果樹園經營資金	49	577,413	6	111,469			55	688,882
棉花耕作資金	7	30,200					7	30,200
牧場經營資金	14	118,709	3	22,669	1	5,000	18	146,378
鑛業資金			5	376,618			5	376,618
酒類醬油醸造資金	13	250,779	18	200,222	3	1,048,900	34	1,499,901
澱粉製造資金	3	49,399			1	45,000	4	94,399
紙製造資金	1	60,000					1	60,000
海產物加工資金	5	46,053					5	46,053
工場經營資金					4	110,000	4	110,000
精米業資金	4	18,636					4	18,636
其他製造資金	27	1,423,238	22	2,505,184	2	90,000	51	4,018,422
金融業資金			60	2,040,362			60	2,040,362
運輸交通資金	3	30,400					3	30,400
電氣事業資金					6	2,379,000	6	2,379,000
油房資金					1	50,000	1	50,000
教育資金	2	80,329			2	59,316	4	139,645
衛生資金					2	87,000	2	87,000
其他	20	589,122	7	68,855	6	323,600	33	981,577
煉瓦及瓦製造資金	11	283,193	15	141,708			26	424,901
合計	1,572	24,157,620	974	15,798,349	194	9,018,409	2,740	48,974,378

註　東洋拓殖株式會社調査

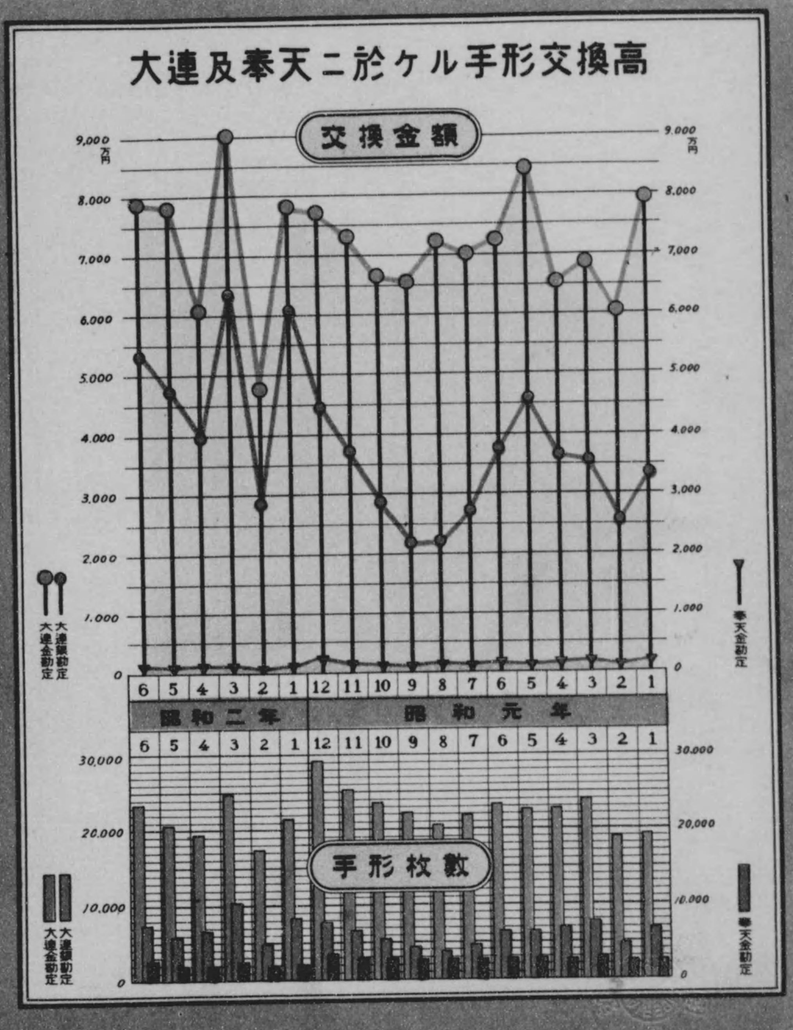
大連及奉天ニ於ケル手形交換高

歐洲戰當時は、南滿地方の金融界も目覺しい華々しさであつた。榮華は久しからず、やがて一大反動が襲來すると、破綻した銀行なども出來、慌てゝ引締め策を講じたり、緊縮運動をやつたりしたが、未だに地方的には全癒して居らぬものが多いのである。地方的の消長といふものを、大連と、奉天の二市街に探つて見ると、よくこの間の調子が分る、たとへば手形交換金高に於ても、大連の昭和元、二年はや既に月別の周期ともいふべき變化を示すのに、奉天は殆ど差別がなく、殊にその高では兩者圖の如き相違を示してゐるのである。金と銀との勘定にはもとより高低はあるが、昭和二年三月、大連の金勘定九千萬圓を突破したことは近頃に於ける快心事であつた。大連は南滿唯一の咽喉港、年に四五百萬噸の貨物と、三千隻の汽船を呑吐する雄大なる姿を想えば、恐らく將來ともいよ／＼金融界の激甚なる進展を見る事疑ひない。少くとも之を以て近き過去と將來とを推想するとが出來る。

大連及奉天ニ於ケル手形交換高

年月	大連 金勘定 手形枚數	大連 金勘定 交換金額	大連 銀勘定 手形枚數	大連 銀勘定 交換金額	年月	奉天 金勘定 手形枚數	奉天 金勘定 交換金額
大正十五年 一月	19.095	79.831.596	6.898	33.692.889	大正十五年 一月	2.319	2.430.117
大正十五年 二月	18.727	60.202.831	4.650	25.529.879	大正十五年 二月	2.293	1.944.210
大正十五年 三月	23.917	68.839.362	7.678	35.793.439	大正十五年 三月	2.829	2.364.489
大正十五年 四月	22.621	65.531.277	6.796	36.835.374	大正十五年 四月	2.530	2.010.839
大正十五年 五月	22.565	84.533.148	6.331	45.956.914	大正十五年 五月	2.608	1.575.587
大正十五年 六月	23.188	72.680.911	6.318	37.711.914	大正十五年 六月	2.658	2.067.199
大正十五年 七月	21.704	70.094.639	4.404	27.291.215	大正十五年 七月	2.669	1.627.885
大正十五年 八月	20.405	72.485.051	3.679	22.315.538	大正十五年 八月	2.436	1.902.885
大正十五年 九月	22.114	65.589.261	4.182	22.100.149	大正十五年 九月	2.530	1.619.398
大正十五年 十月	23.585	66.901.894	5.362	28.526.578	大正十五年 十月	2.636	1.700.038
大正十五年十一月	25.221	73.399.234	6.600	37.295.876	大正十五年十一月	2.957	2.096.091
大正十五年十二月	29.172	77.445.909	7.632	44.659.684	大正十五年十二月	3.305	2.927.562
計	272.314	857.535.113	70.530	397.689.449	計	31.770	24.266.300
昭和二年一月	21.474	78.360.370	8.181	60.950.358	昭和二年一月	2.051	1.713.225
昭和二年二月	17.392	47.721.933	4.789	28.978.718	昭和二年二月	1.819	1.297.665
昭和二年三月	24.793	90.060.619	10.214	63.688.977	昭和二年三月	2.324	1.764.707
昭和二年四月	19.315	60.708.983	6.467	39.855.911	昭和二年四月	1.813	1.785.872
昭和二年五月	20.593	78.241.554	5.729	47.300.985	昭和二年五月	1.796	1.468.593
昭和二年六月	23.310	79.094.041	7.275	53.292.291	昭和二年六月	2.542	1.843.293
計	126.877	434.187.500	42.655	294.067.240	計	12.345	9.878.360

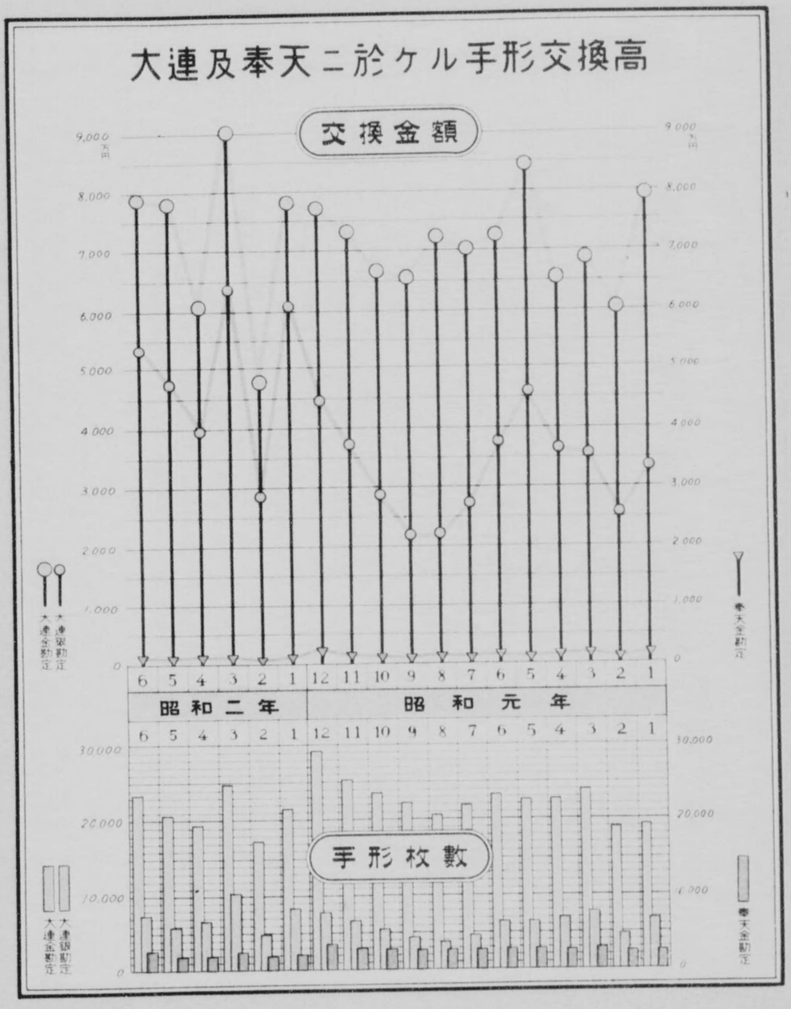
註　中日文化協會調査　滿蒙年鑑ニ據ル



大連及奉天ニ於ケル手形交換高

年月	大連 金勘定 手形枚数	大連 金勘定 交換金額	大連 銀勘定 手形枚数	大連 銀勘定 交換金額	年月	奉天 金勘定 手形枚数	奉天 金勘定 交換金額
大正十五年一月	19.095	79.831.506	6.898	33.092.880	大正十五年一月	2.319	2.430.117
大正十五年二月	18.727	60.202.831	4.650	25.520.879	大正十五年二月	2.203	1.944.210
大正十五年三月	23.917	68.839.362	7.678	35.793.439	大正十五年三月	2.829	2.364.489
大正十五年四月	22.621	65.561.277	6.796	36.385.374	大正十五年四月	2.530	2.010.830
大正十五年五月	22.565	84.533.148	6.331	45.956.914	大正十五年五月	2.608	1.575.587
大正十五年六月	23.188	72.680.911	6.318	37.711.914	大正十五年六月	2.658	2.067.199
大正十五年七月	21.704	70.094.639	4.404	27.291.215	大正十五年七月	2.669	1.627.885
大正十五年八月	20.405	72.485.051	3.679	22.315.538	大正十五年八月	2.436	1.902.885
大正十五年九月	22.111	65.589.261	4.182	22.100.149	大正十五年九月	2.530	1.619.398
大正十五年十月	23.585	66.901.894	5.362	28.526.578	大正十五年十月	2.636	1.700.038
大正十五年十一月	25.221	73.399.234	6.600	37.295.876	大正十五年十一月	2.957	2.096.091
大正十五年十二月	29.172	77.445.909	7.632	44.650.684	大正十五年十二月	3.305	2.927.562
計	272.314	857.535.113	70.530	397.689.449	計	31.770	24.266.300
昭和二年一月	21.474	78.360.870	8.181	60.950.358	昭和二年一月	2.051	1.713.223
昭和二年二月	17.892	47.721.933	4.789	28.978.718	昭和二年二月	1.819	1.297.663
昭和二年三月	24.793	90.060.619	10.214	63.688.977	昭和二年三月	2.321	1.764.707
昭和二年四月	19.315	60.708.988	6.467	39.855.911	昭和二年四月	1.815	1.785.872
昭和二年五月	20.593	78.241.554	5.720	47.300.985	昭和二年五月	1.796	1.468.593
昭和二年六月	23.810	79.094.041	7.275	53.292.291	昭和二年六月	2.542	1.843.293
計	126.877	434.187.500	42.655	294.067.240	計	12.345	9.878.360

註　中日文化協會調査　滿蒙年鑑ニ據ル



滿洲ニ於ケル本邦人職業別勞働賃銀

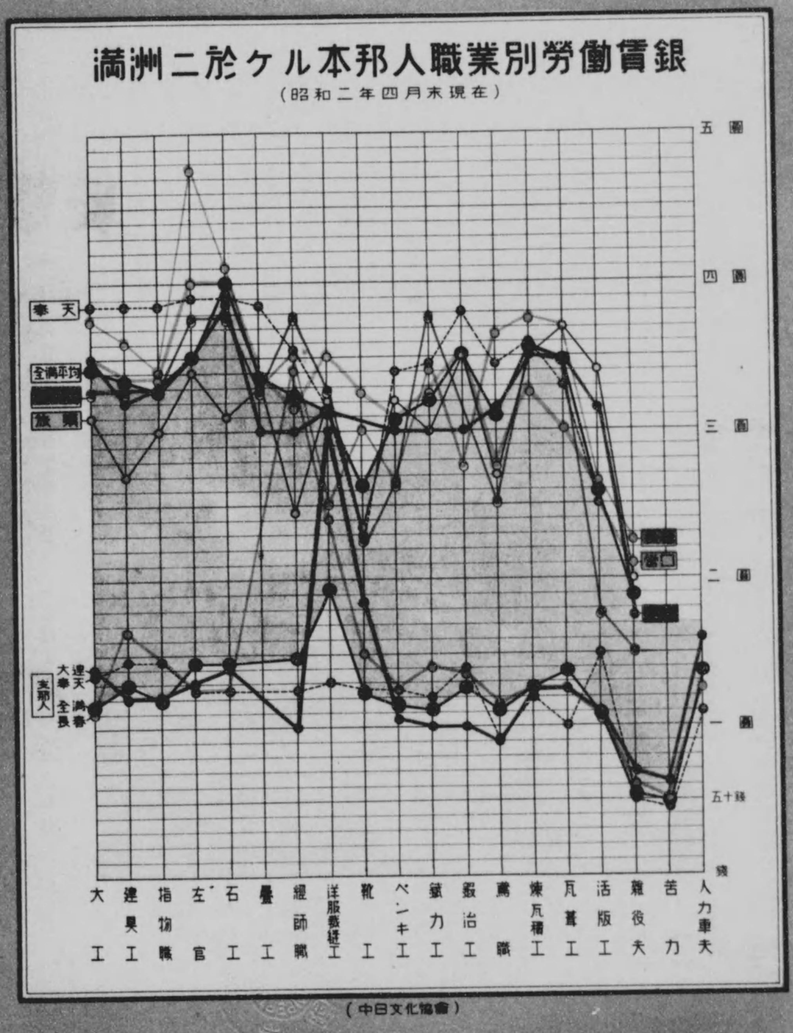
これは昭和二年四月末調査によるものであるが、滿洲主要都市の勞働賃銀は、日本人も朝鮮人も、支那人もさしたる變化はなく、寧ろ一般的には低落の調子さへ見え、大正十四年指數一〇〇とすると、この年は九五强位のところであつた。大連初めこゝに列記した都市の一般產業及び勞働の有樣を概觀しても、何れも現狀維持の狀況であるから、洋服工、靴工、活版工なども、別段高率になつた譯でも無い。只、建築界が少しく旺んであつた處から、日本人の此方面に關係を持つ技術者の左官、石工、指物、建具工、大工、疊屋などが、卽ち十、十一月の交に相當な率を示して居るのであつた、それでも各都市で各々相違はあるのである、最も高貸の石工が、大連、營口で四圓であるが、旅順では三圓十錢、長春では四圓七十五錢、といふ樣に皆差があること、他の職業些として然りであつて、概して日本人は支那人よりは高かつた。支那人の最も高貸なものに、大連の洋服工三圓、長春の三圓四十錢といふのがあつた。

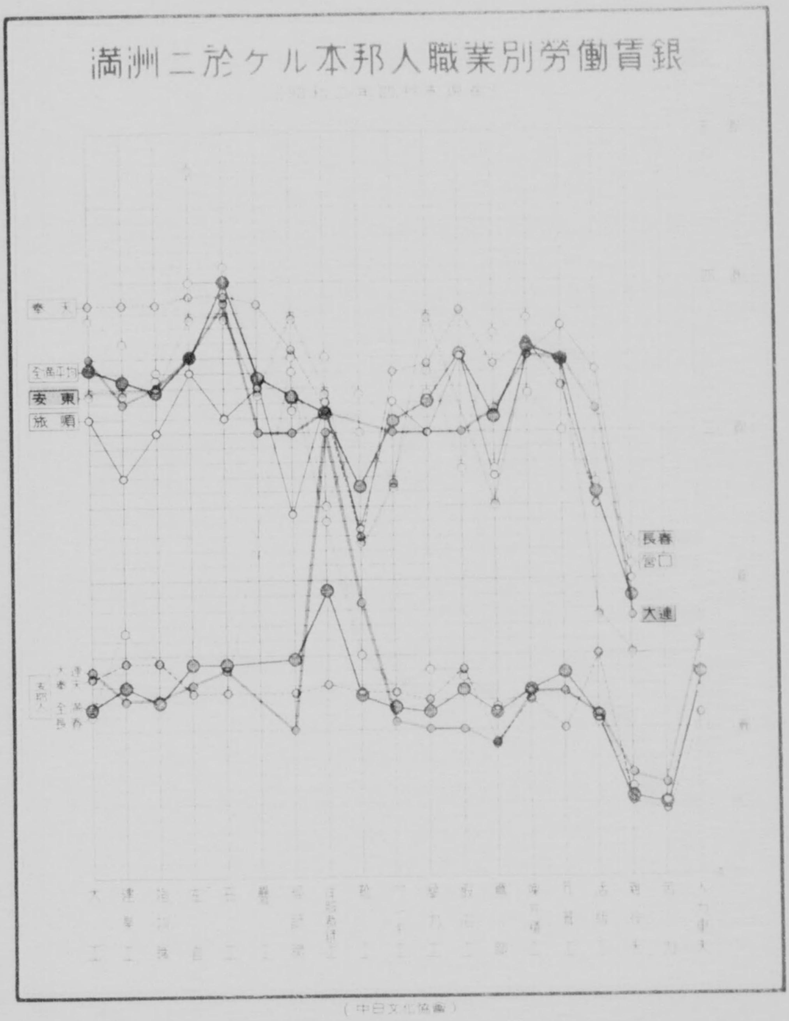
滿洲ニ於ケル本邦人職業別勞働賃銀 （昭和二年四月末現在）

職種別	旅順		大連		營口		遼陽		奉天	
	日本人	支那人	日本人	支那人	日本人	支那人	日本人	支那人	日本人	支那人
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
大工職	3.10	1.25	3.50	1.40	3.50	1.10	2.00	0.50	3.85	1.35
建具職	2.70	1.10	3.20	1.20	3.35	1.10	—	—	3.85	1.45
指物職	3.00	1.20	3.30	1.20	3.35	1.10	2.50	0.50	3.85	1.45
左官職	3.40	1.40	3.50	1.30	4.00	1.50	—	—	3.90	1.25
石工職	3.10	1.10	4.00	1.40	4.00	1.75	—	—	3.90	1.25
疊職	3.30	—	3.00	—	3.25	—	2.75	—	3.85	—
經師職	2.45	1.00	3.00	1.00	3.51	11.0	—	—	3.55	1.25
洋服裁縫職	3.20	1.10	3.15	3.00	3.50	2.00	—	1.20	3.15	1.30
靴工職	2.35	1.10	—	1.85	3.25	0.95	—	0.55	2.30	1.25
ペンキ職	3.20	1.05	3.00	1.05	3.00	1.10	—	—	3.40	1.25
鍛力職	3.00	1.30	3.00	1.00	3.25	1.10	—	0.45	3.45	1.20
鍛冶職	3.50	1.40	3.00	1.00	3.50	1.10	—	0.60	3.80	1.40
鳶職	2.70	0.75	3.15	0.90	2.75	0.80	—	—	3.45	0.91
煉瓦積職	3.50	1.25	3.50	1.20	3.25	1.10	—	—	3.60	1.25
瓦葺職	3.70	1.60	3.50	1.00	3.00	1.10	—	—	3.30	1.25
活版職	3.40	1.10	3.15	1.50	2.50	0.75	—	0.80	2.50	1.10
雜役夫	2.00	0.47	1.75	0.50	2.10	—	1.60	0.50	—	2.60
苦力	—	0.45	—	0.45	—	0.45	—	0.27	—	0.50
人力車夫	—	1.75	—	1.10	—	0.90	—	0.65	—	1.25

職種別	安東		鐵嶺		開原		長春	
	日本人	支那人	日本人	支那人	日本人	支那人	日本人	支那人
	円	円	円	円	円	円	円	円
大工職	3.25	1.50	3.80	1.25	3.50	1.10	3.75	1.10
建具職	3.25	1.50	3.50	1.25	3.25	1.10	3.60	1.65
指物職	3.25	1.50	3.50	1.25	3.25	1.12	3.40	1.45
左官職	3.75	2.25	3.80	1.15	3.75	1.15	4.75	1.25
石工職	3.75	2.25	3.80	1.15	4.25	1.40	4.10	1.25
疊職	3.25	—	3.80	—	3.75	—	3.30	—
經師職	2.75	1.75	3.50	1.15	3.75	1.10	3.50	3.40
洋服裁縫職	3.25	—	3.00	1.95	3.25	2.50	2.50	2.40
靴工職	2.25	1.25	—	—	—	1.40	3.00	1.50
ペンキ職	2 62	1.25	3.40	1.25	3.25	1.10	2.65	1.25
鍛力職	3.75	1.25	3.50	1.25	3.50	1.10	3.40	1.40
鍛冶職	3.50	1.60	3.50	1.15	3.50	1.25	3.75	1.35
鳶職	2.50	1.50	3.50	1.25	—	1.10	3.65	1.15
煉瓦積職	3.50	1.75	3.80	1.20	—	1.05	3.75	1.25
瓦葺職	3.50	2.00	3.60	—	—	—	3.75	1.25
活版職	1.75	1.25	—	1.15	—	1.00	2.65	1.05
雜役夫	1.50	0.95	—	0.45	2.25	0.74	2.25	0.70
苦力	—	0.65	—	0.65	—	0.42	—	0.62
人力車夫	—	1.00	—	1.00	—	1.35	—	1.60

註　中日文化協會調査　滿蒙年鑑ニ據ル





（中日文化協會）

南滿洲三港輸出價額及仕向國別

南滿洲に於ける主要の三港、卽ち大連・營口・安東の輸出入、及び最近三ヶ年間に亘る交易の狀況を、これから概觀して、我等の深い留意を試みることゝしよう。先づ輸出から始めると、昭和元年度價格三億七千餘萬圓の中、主要なる仕向地はやはり日本であつて、支那之に亞ぐが朝鮮半島へは、地理の上から近接して居るが、事情日本內地の半數にも到らぬのは現狀としては仕方が無い、卽ちこゝに猶開拓の餘地が存する。輸出物品の首位を占めるものに豆粕があつた。日本へは五千萬圓を超え他の何國にも之には及ばぬ。この原料の大豆は粕よりは甚しく劣り、殊に石炭コークス類よりも不足な一千四百萬圓餘に過ぎぬ。近來北米合衆國へ行くものに油脂がある。豆油の二百餘萬圓と比しては四分ノ一に過ぎぬが、將來唯一の發展物となるは疑ひない。支那本土への價格は、現在の戰禍さへ收まつたなら倍々昂騰して行くことであらう。只、憂へるところは、支那の爭亂が、常に交易の心理に及ぼして日本に對する輸出入が稀薄となつて行くことであつた。大正十一年以來の移出額を見ても目覺しい計數を示さぬのは、主として此處に歸するかとも思はれるのである。

南滿洲三港主要輸移出品價額及仕向國別

（大連、營口、安東）（昭和元年度）　（單位海關兩）

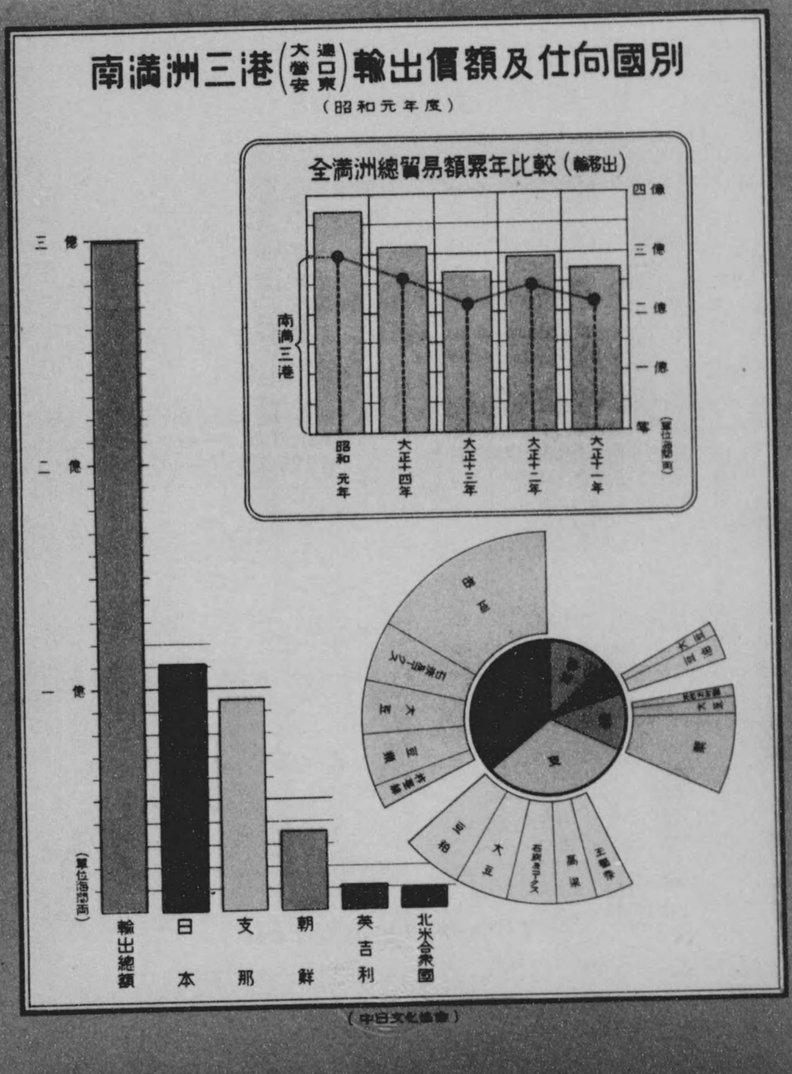
品目＼國別	日本		朝鮮		英吉利		北米合衆國		支那		其他共計	
	價額		價額		價額		價額		價額		價額	
豆粕	50.843.000		3.791.902		——		799.311		15.714.025		72.956.517	
大豆	14.318.236		332.086		3.158.721		7.140		13.740.299		47.313.730	
石炭及コークス	16.065.262		2.885.637		292.871		364.075		12.445.024		35.201.694	
豆油	11.902		61.922		7.252.615		2.108.002		273.769		27.875.559	
粟	236.464		21.189.705		——		807		2.122.060		23.459.041	
高粱	507.253		297.834		5.803		——		11.141.074		11.959.905	
柞蚕絲	7.075.517		11.514		——		67.476		3.339.408		10.493.915	
玉蜀黍	340.181		9.234		——		105.270		8.959.250		9.413.935	
豆類	14.318.236		819.897		6.132		25.553		1.616.505		7.154.730	
鐵及製品	4.065.942		296.731		——		——		237.847		4.831.528	
木材及竹類	56.714		3.035.846		——		1.436		1.740.510		4.624.655	
雜品	1.392.573		277.873		1.235		286		2.006.565		4.329.764	
種子	1.421.176		21.042		24.631		89.642		126.115		2.094.921	
瓜子	99.658		3.824		——		2.613		1.476.612		1.970.687	
穀物	104.796		391.716		8.971		2.959		385.457		1.270.350	
支那酒	31.323		15.141		——		1.706		1.136.495		1.216.002	
油脂	165.623		27.743		57.262		534.961		273.169		1.176.694	
屑絹糸	157.551		——		——		——		869.139		1.027.677	
其他	6.004.018		1.698.191		456.176		4.247.390		8.407.212		21.627.437	
合計	411.477.052		36.168.664		11.552.528		9.047.188		94.811.271		299.506.287	

註　中日文化協會調査　滿蒙年鑑ニ據ル

全滿洲總貿易額累年比較

（輸移出）　（單位海關兩）

年次＼管區別	南滿三港（大連、營口、安東）	哈爾賓	愛琿	琿春	龍井村	計
大正十一年	219.929.547	49.265.919	3.780.958	512.641	1.112.841	274.661.906
大正十二年	246.748.055	42.111.969	2.753.920	478.360	1.836.636	293.928.940
大正十三年	213.440.692	51.805.345	1.665.163	430.735	1.676.147	269.018.082
大正十四年	259.731.626	49.766.013	1.311.240	540.412	1.018.903	312.3[illegible]8.194
昭和元年	399.506.287	65.497.242	1.469.314	1.374.101	2.895.454	370.742.398



南滿洲三港主要輸移出品價額及仕向國別

大連、營口、安東

[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

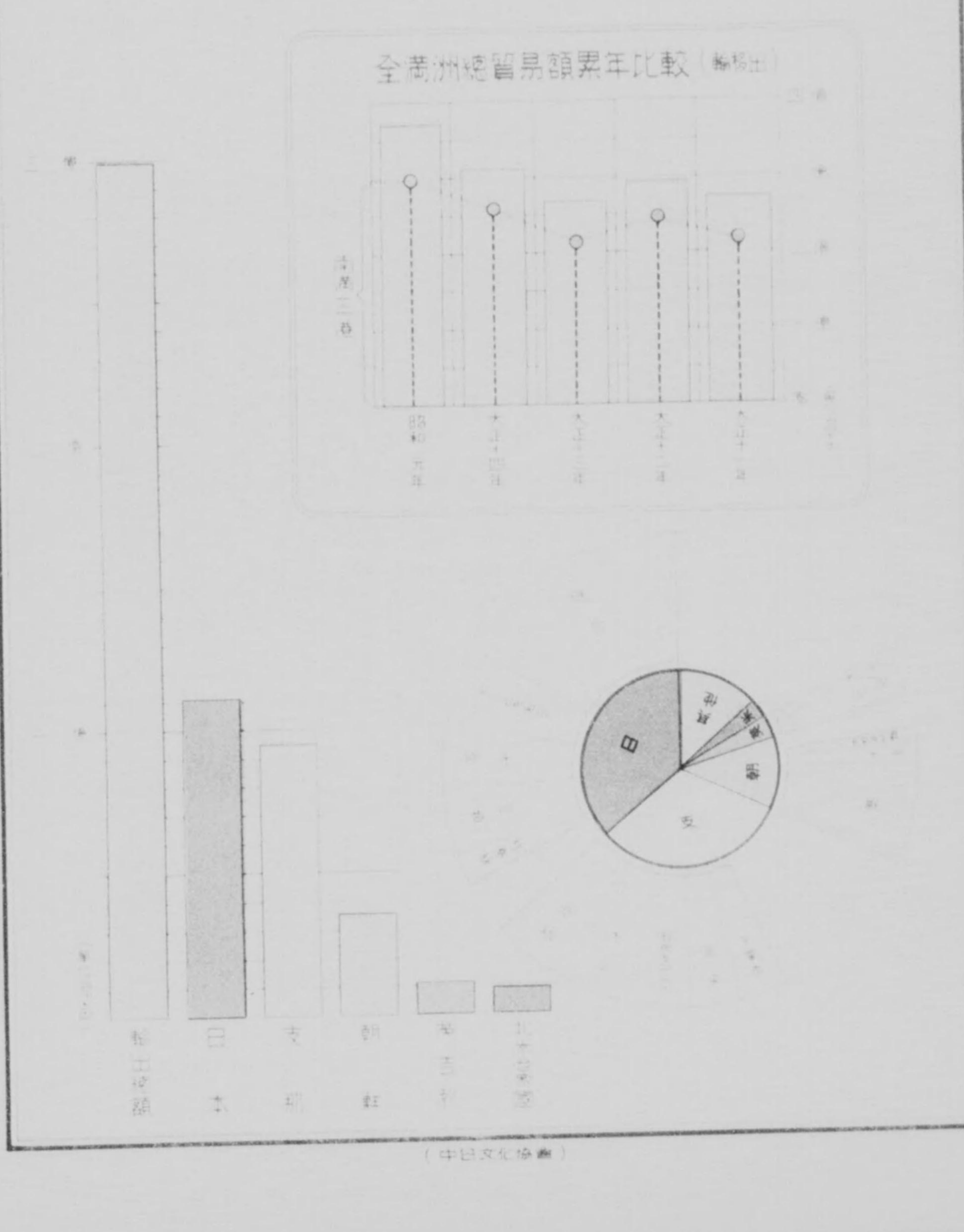
註　中日文化協會調査 [illegible]

全滿洲總貿易額累年比較

（輸　移　出）

年次	大連、營口、安東	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	計
大正十一年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大正十二年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大正十三年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大正十四年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
昭和元年	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

南滿洲三港（大連・營口・安東）輸出價額及仕向國別



（中日文化協會）

南滿洲三港主要輸入價額及仕出國別

次にこの三港の昭和元年度に於ける輸入價格と仕出國別、並に主要物貨の品目とを一見する事としよう。先づ入り込む國別から云へば圖の如く日本の四一%が首位であつた。支那諸港の三一%之に亞ぎ、他はこの二つに比して云ふに足らぬ。主要品目別では何としても綿織物の五八、二六四、八八四兩が第一、その中日本の三千六百餘萬兩は、全數の上からしても優位にあるこの三港を通過して支那本土に及ぼす日本の綿織物は、當業者及び爲政家の、必ず將來を考へねばならぬ問題の唯一であらう。他はこれより遙かに劣るも、麥粉、綿織糸、麻袋等は、香港北米などの垂涎に堪へぬところで、地の利上の勝利なのであつた。但しもとより品別に依つて日本よりは數等上に行く物がある、たとへば毛綿交織、刻煙草、染塗料などは日本より支那の方が大きい。米國の石油、紙卷、葉卷葉の日本、支那よりも勝る如き、國産の交易に及ぼす一點が、こゝにも露骨に表はれて居るは、各々戒愼を要する事である。とにかく全滿洲の貿易全體に於ける三港の勢力は、無人の野を行く威風があつた。日本人はこの趨勢を、遺憾ながらあまりよく知つて居らぬのである。

南滿洲三港主要輸移入品價額及仕出國別（昭和元年度）

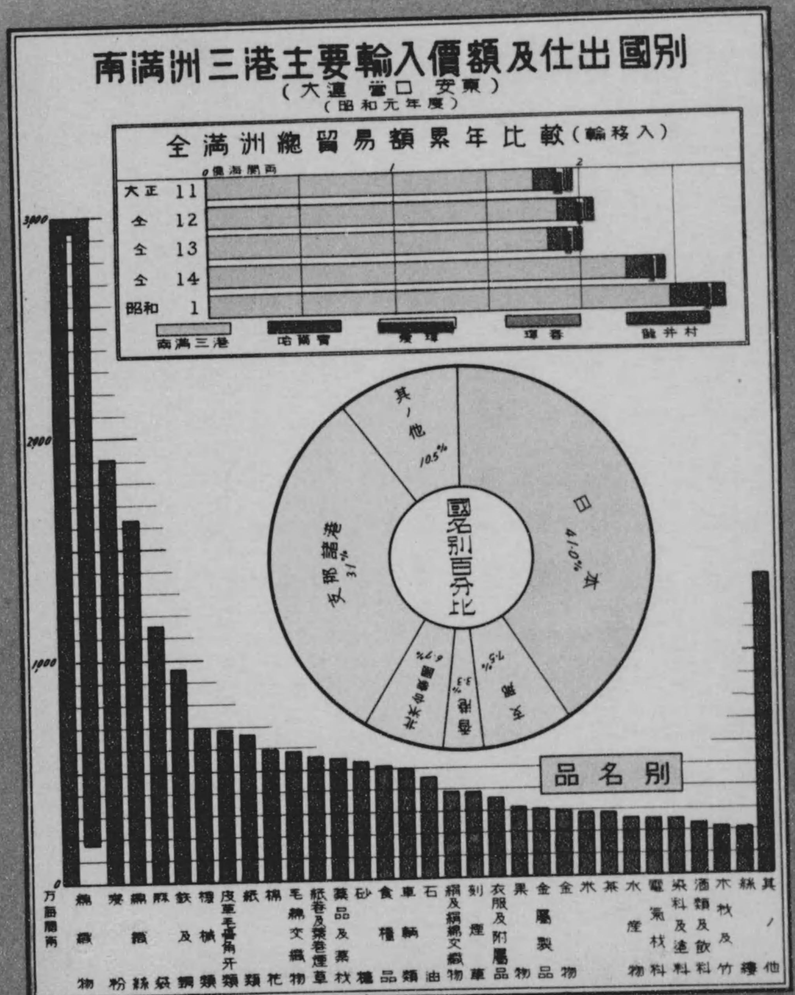
（大連、營口、安東）　（單位海關兩）

品名＼國別	日本	支那	香港	北米合衆國	支那諸港	其他共計
	價額	價額	價額	價額	價額	價額
綿織物	36.538.917	3.734.228	1.176	54.089	17.394.847	58.264.884
麥粉	4.668.403	81.096	——	2.458.511	8.861.219	19.144.635
綿織絲	3.634.078	79.367	——	——	12.608.481	16.322.297
麻袋	6.149.610	573.177	3.751.093	——	656.557	11.502.937
鐵及鋼	3.791.748	1.268.419	16.815	1.485.885	42.297	9.615.321
機械類	3.732.682	519.240	1.666	454.205	171.748	6.961.352
皮革毛骨角牙類	1.088.040	303.716	527.295	425.482	3.520.080	6.826.886
紙類	2.442.938	255.424	22.640	328.286	3.291.416	6.662.724
棉花	2.751.489	8.917	——	——	3.077.773	5.929.697
毛綿交織物	760.721	2.757.663	1.176	17.253	5.749	5.877.477
紙巻及葉巻煙草	37.555	705.955	9.563	1.853.568	2.996.044	5.664.185
藥品及藥材	2.002.463	323.260	195.176	60.818	1.038.523	5.478.234
砂糖	2.265.113	202.032	1.404.291	16	27.253	5.266.084
食料品	1.632.115	363.604	129.034	133.275	2.590.227	5.092.607
車輛類	3.056.755	306.415	——	948.064	1.305	4.924.701
石油	220.153	560.644	——	3.789.733	——	4.574.628
絹及絹綿織物	184.733	30.463	——	1.146	3.601.624	5.889.092
刻煙草	361.448	1.002.985	8.265	900.161	1.452.116	3.800.400
衣類及附屬品	2.359.356	142.860	4.116	159.132	557.527	3.533.241
果物	1.613.100	122.512	50.560	105.131	886.337	3.146.680
金屬製品	2.247.968	219.814	78.663	93.157	93.346	3.033.802
金物	1.147.906	253.478	4.069	130.449	839.619	2.940.559
米	854.066	199.915	644.747	——	828.276	2.881.763
茶	125.590	10.089	6.355	——	2.619.875	2.793.141
水産物	1.454.723	97.811	73.331	40.103	313.258	2.631.691
電氣材料	2.015.259	183.278	46	140.688	19.288	2.602.306
染料及塗料	408.565	1.634.360	118.173	46.204	94.104	2.562.783
酒類及飲料	1.671.828	106.502	180	——	373.898	2.375.952
木材及竹	843.063	96.182	36.614	199.608	247.663	2.173.265
絲繭	689.671	217.933	139.690	——	574.983	2.149.269
其他	5.434.485	1.102.567	14.348	1.434.204	3.960.611	13.517.576
合計	102.723.578	18.371.273	7.924.797	16.519.820	77.134.397	248.134.219

全滿洲總貿易額累年比較（輸移入）　（單位海關兩）

年次＼管區別	南滿三港	哈爾賓	愛琿	琿春	龍井村	合計
大正十一年	175.333.657	12.916.831	5.085.120	1.008.924	2.187.540	196.432.072
大正十二年	188.042.348	10.349.021	4.370.843	1.103.862	3.189.154	207.055.228
大正十三年	182.326.927	10.110.455	4.063.749	1.173.196	2.974.143	200.648.470
大正十四年	224.627.109	13.403.262	2.619.805	1.150.224	2.921.105	244.721.505
昭和元年	248.134.219	20.991.858	2.652.051	781.194	4.281.297	276.840.619

註　中日文化協會調査　滿蒙年鑑ニ據ル



南滿洲三港主要輸移入品價額及仕出國別（昭和元年度）

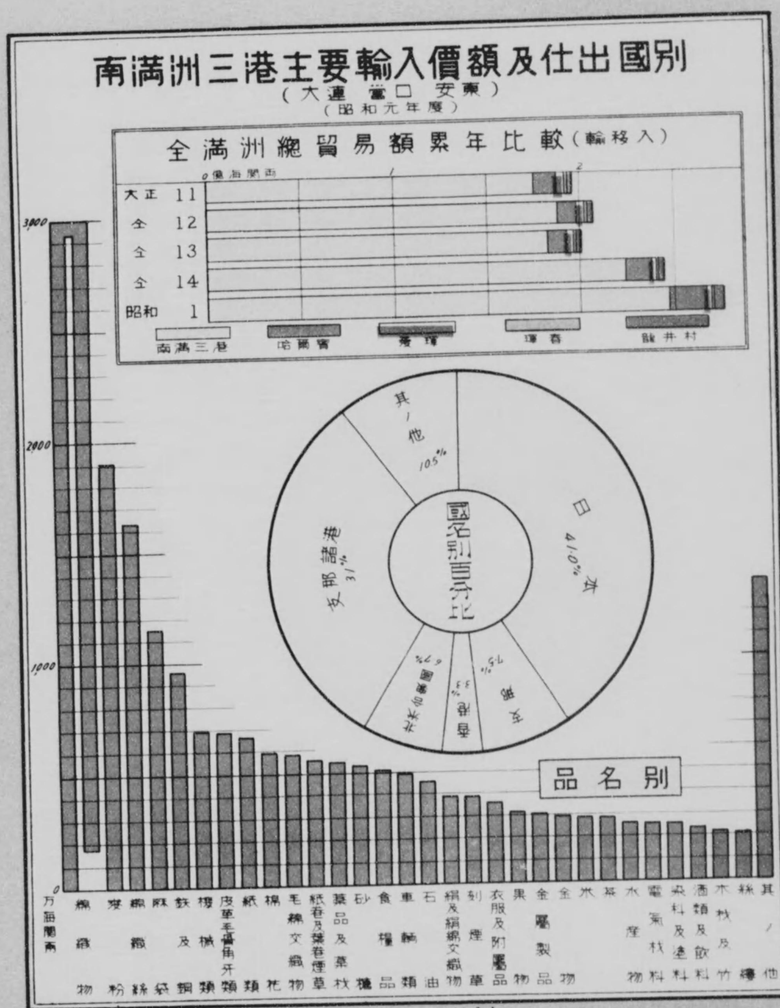
（大連、營口、安東）　（單位海關兩）

品名＼國別	日本 價額	支那 價額	香港 價額	北米合衆國 價額	支那諸港 價額	其他共計 價額
綿織物	36,538,917	3,734,228	1,176	54,089	17,394,847	58,264,884
麥粉	4,668,403	81,096		2,458,511	8,861,219	19,144,635
綿絲	3,634,078	79,367			12,608,481	16,322,297
麻袋	6,149,610	573,177	3,751,093		656,557	11,502,937
鐵及鋼	3,791,748	1,268,419	16,815	1,485,885	42,297	9,615,321
機械類	3,732,682	519,240	1,666	454,205	171,718	6,961,352
皮革毛骨角牙類	1,088,040	363,716	527,295	425,482	3,520,080	6,826,886
紙類	2,442,938	255,424	22,640	328,286	3,291,416	6,662,724
棉花	2,751,489	8,917			3,077,773	5,929,697
毛綿交織物	760,721	2,757,663	1,176	17,253	5,749	5,877,477
紙卷及葉卷煙草	37,555	705,955	9,563	1,853,568	2,996,044	5,664,185
藥品及藥材	2,002,463	323,260	195,176	60,818	1,038,523	5,478,234
砂糖	2,265,113	202,032	1,404,291	16	27,253	5,266,084
食料品	1,632,115	363,604	129,034	133,275	2,590,227	5,092,607
車輛類	3,056,755	306,415		948,064	1,305	4,924,701
石油	220,153	560,644		3,789,733		4,574,628
絹及絹綿織物	184,733	30,463		1,146	3,601,624	5,889,092
刻煙草	361,448	1,002,985	8,265	900,161	1,452,116	3,800,400
衣類及附屬品	2,359,356	142,860	4,116	159,132	557,527	3,533,241
果物	1,613,100	122,512	50,560	105,131	886,337	3,146,680
金屬製品	2,247,968	219,814	78,663	93,157	93,346	3,033,802
金物	1,147,906	253,478	4,069	130,449	839,619	2,940,559
米	854,066	199,915	644,747		828,276	2,881,763
茶	125,590	10,089	6,355		2,619,875	2,793,141
水產物	1,454,723	97,811	73,331	40,103	313,258	2,631,691
電氣材料	2,015,259	183,278	46	140,688	19,288	2,602,306
染料及塗料	408,565	1,634,360	118,173	46,204	94,104	2,562,783
酒類及飲料	1,671,828	106,502	180		373,898	2,375,952
木材及竹	843,063	96,182	36,614	199,608	247,663	2,173,265
絲繭	689,671	217,933	139,690		574,983	2,149,269
其他	5,434,485	1,102,567	14,348	1,434,204	3,960,611	13,517,576
合計	102,723,578	18,371,273	7,924,797	16,519,820	77,134,397	248,134,219

全滿洲總貿易額累年比較（輸移入）　（單位海關兩）

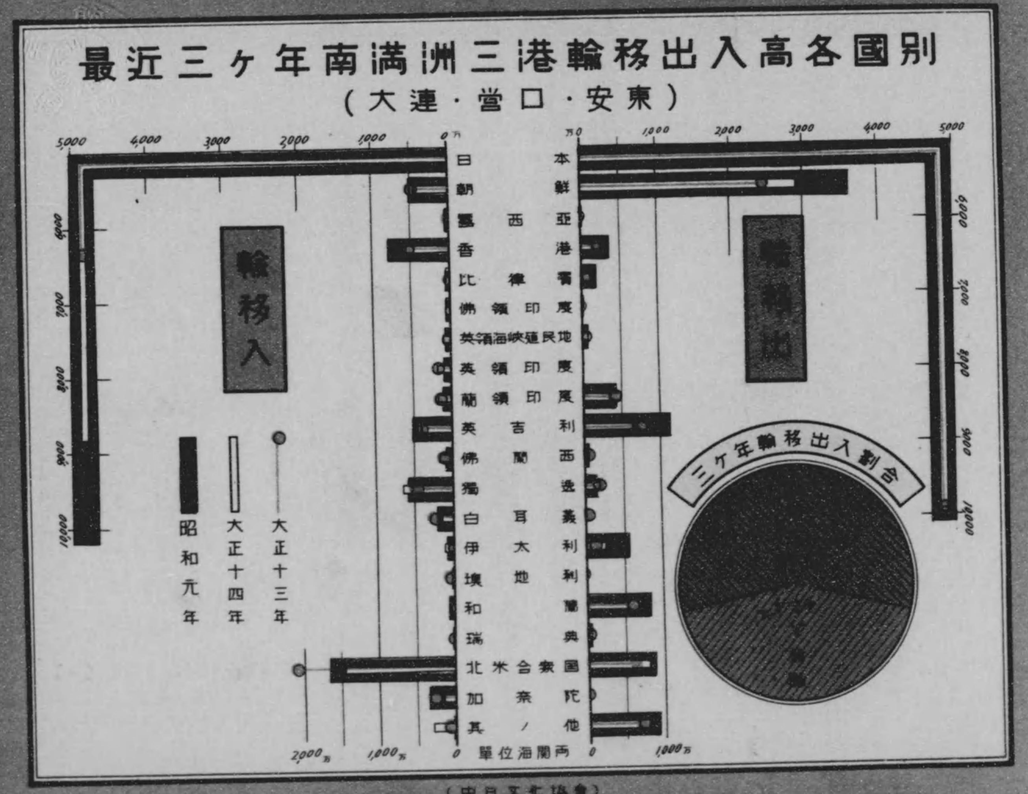
年次＼管區別	南滿三港	哈爾賓	愛琿	琿春	龍井村	合計
大正十一年	175,333,657	12,916,831	5,085,120	1,008,924	2,187,540	196,432,072
大正十二年	188,042,348	10,349,021	4,370,843	1,103,862	3,189,154	207,055,228
大正十三年	182,326,927	10,110,455	4,063,749	1,173,196	2,974,143	200,648,470
大正十四年	224,627,109	13,403,262	2,619,805	1,150,224	2,921,105	244,721,505
昭和元年	248,134,219	20,991,858	2,652,051	781,194	4,281,297	276,840,619

註　中日文化協會調査　滿蒙年鑑ニ據ル



最近三ヶ年南滿洲三港輸移出入高各國別

今度はこの三港が最近三ヶ年間、卽ち大年十三年から昭和元年度に至る間の輸出入活躍の跡と、これに關係ある各國別とを概觀しよう。先づ三ヶ年を平均すると、出入の割合は輸移出五七・五%、輸移入四二・四%で輸出の方が大に優つてゐた。この兩者とも三港關係國別中、何としても南滿そのもの、經營政策上、我國が第一と成つて居るのは慶賀に堪えぬ點であつて、十三年の計日本の一億六千餘萬兩が、三年後の昭和元年では二億一千四百餘萬兩となり、而も出入ともに次第に接近せんとする傾向を表はして來たのである。朝鮮への輸出も、移入に比しては順次目覺しい數量である。朝鮮とは反對に北米の如きは元年度移入一千六百萬兩、移出の九百萬兩よりは遙に多いが、而も移入は大正十三年度より不足なのである。移出が殖ゑると占めたものである。香港の如き代表租借地を相手とする交易は、南滿三港のみならず日本內地の商工業家が最も考究すべき處であらう。英本土が後から捻出する勢、從つて他の關係諸國も亦常に注意を怠らず、つまり二重の交易心理を象はして來るからである。



（中日文化協會）

最近三ヶ年南滿洲三港輸移出入品價額國別累年比較

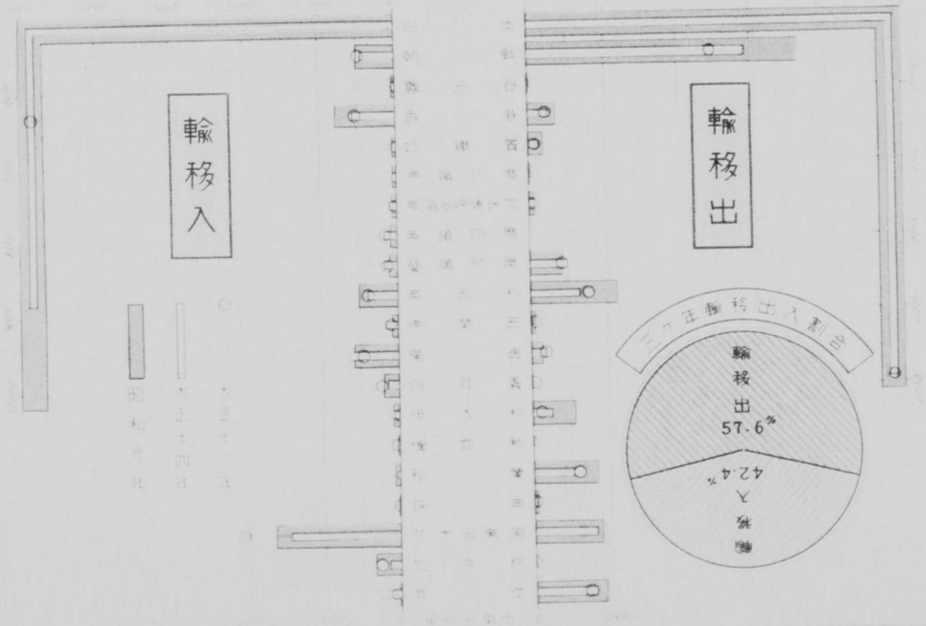
（大連、營口、安東）　（單位海關兩）

年次 / 國別	大正拾三年			大正拾四年			昭和元年		
	輸移入	輸移出	計	輸移入	輸移出	計	輸移入	輸移出	計
日本	63.407.789	99.193.906	162.601.695	88.265.699	99.256.715	187.522.414	102.723.578	111.477.052	214.200.630
朝鮮	4.865.381	24.442.655	29.308.036	4.256.281	29.078.871	33.335.152	4.953.425	36.168.664	41.122.089
露西亞	61.271	162.692	223.963	56.943	142.733	199.676	138.863	13.758	152.621
香港	5.079.055	2.249.509	7.328.564	5.495.114	2.668.726	8.163.840	7.924.797	3.664.985	11.589.782
澳門	704	—	704	202	—	202	264	40	304
比律賓	18.887	870.386	889.273	41.055	1.267.597	1.308.652	48.781	1.949.727	1.998.508
佛領印度	881	50.400	51.281	89.930	101.960	191.890	152.457	156.599	309.056
暹羅	—	—	—	—	—	—	1.080	—	1.080
英領海峽殖民地	311.268	411.570	722.838	511.222	652.641	1.163.863	443.048	649.258	1.092.306
英領印度	1.344.311	22	1.344.333	1.492.832	7.862	1.500.694	694.975	170	695.145
蘭領印度	1.209.932	4.137.080	5.347.012	1.443.981	4.914.181	6.358.162	940.285	4.085.665	5.025.950
英吉利	3.958.372	7.605.660	11.564.032	3.903.346	6.400.678	10.304.024	5.010.269	11.525.528	16.562.797
佛蘭西	836.588	685.306	1.521.894	1.349.278	277.824	1.627.102	529.874	424.565	954.439
獨逸	4.562.242	2.016.628	6.578.870	6.380.616	1.985.115	8.365.731	5.556.133	1.575.124	7.131.257
白耳義	2.104.284	401.027	2.505.311	1.380.988	447.338	1.828.326	1.959.327	30.099	1.989.426
伊太利	177.177	1.221.996	1.399.173	963.087	2.691.268	3.654.355	531.887	5.723.507	6.255.394
瑞西	17.410	12	17.422	40.007	—	40.007	3.628	—	3.628
墺地利	318.641	124	318.765	6.652	—	6.652	6.363	—	6.363
和蘭	203.423	6.179.116	6.382.539	203.187	5.236.117	5.439.304	488.024	8.475.417	8.963.441
瑞典	277.855	371.629	649.484	24.401	251.515	275.916	11.676	369.750	381.429
諾威	96.327	3.828	100.155	1.328.420	150	1.328.570	1.910	367.960	369.870
西班牙	8.968	—	8.968	—	98.628	98.628	—	110.160	110.190
丁抹	28.826	24.023	52.849	23.381	5.645	29.026	10.520	2.589	13.109
芬蘭	—	—	—	—	—	—	378	—	378
ルクセンブルグ	—	—	27.269.478	—	—	—	3.587	—	3.587
北米合洲國	20.991.658	6.277.820	2.612.525	14.390.763	8.134.613	22.525.376	16.519.820	9.047.188	25.567.008
加奈陀	2.504.544	107.981	—	1.348.025	20.229	1.368.254	3.247.882	—	3.247.882
南亞米利加諸國	—	—	—	—	—	—	—	9.748	9.748
濠洲	9.813	3.024	12.837	10.476	2.403	12.879	6.808	15.191	21.999
其他	538.870	7.357.312	7.896.182	699.872	8.126.507	8.826.379	718.946	8.825.272	9.544.218
計	112.934.477	163.773.706	276.708.183	133.705.758	171.499.316	305.475.074	152.628.585	204.695.016	357.323.601

註　中日文化協會調查　滿蒙年鑑ニ據ル

最近三ヶ年南滿洲三港輸移出入高各國別

（大連・營口・安東）



（中日文化協會）

最近三ヶ年南滿洲三港輸移出入品價額國別累年比較

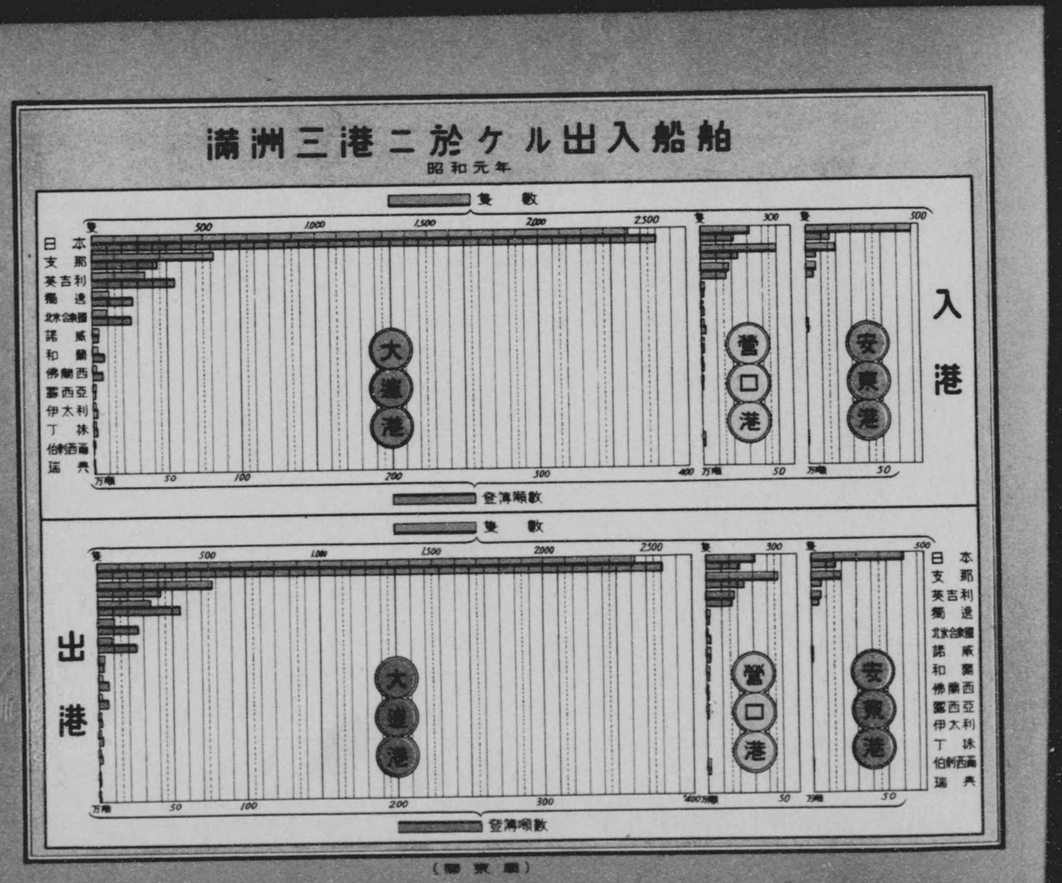
（大連、營口、安東）

年次	大正拾三年			大正拾四年			昭和元年		
國別	輸移入	輸移出	計	輸移入	輸移出	計	輸移入	輸移出	計
日本	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
朝鮮	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
露西亞	61,271	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
香港	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
澳門	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
北洋諸島	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
國領印度	881	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
英領印度	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
蘭領印度	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
英吉利	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
佛蘭西	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
利國	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
白耳義	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
伊太利	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
瑞西	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
墨國	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
和蘭	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
瑞典	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
諾威	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
西班牙	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
丁抹	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
芬蘭	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
北米合衆國	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
加奈陀	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
澳洲	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
其他	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

註　中日文化協會調査「滿蒙年鑑」據ル

滿洲三港ニ於ケル出入船舶

昭和元年度大連、營口、安東に於ける世界各國の出入船數と噸數とを見ると、何と云つても大連に及ぶものは無い。大連は古き歴史を持ち、既に露國時代に設備が計畫せられて完成に至らなかつたのを、滿鐵社が修築し、大正十二年度までに三千九百萬圓を投じて完成した。岸壁の長さ約一萬三千五百尺、五千噸級の汽船三十四五隻を同時に横付けにすると云ふ雄大な港で有るから、年六百萬噸の貨物と三千隻の汽船を呑吐するのは無理も無い。其の内日本が勿論双つ乍ら一位であつて、二百三十隻の英國は、支那を除いて第二位であり、獨逸これに亞ぐの有樣であつた。獨逸より隻數の不足な米國は噸數で前者と同等ならんとして居る。營口、安東は大連に比べて到底問題にはならなかつた。營口は遼河河口を溯る十四哩の右岸に有り、河水が增減するに從つて船が自由ならず、大切な冬期に氷結する。安東も又歴史は古いが、鴨綠江の水利を主としたから、卽ち現在地の利に於て大連を羨やまねばならなかつたので有る。



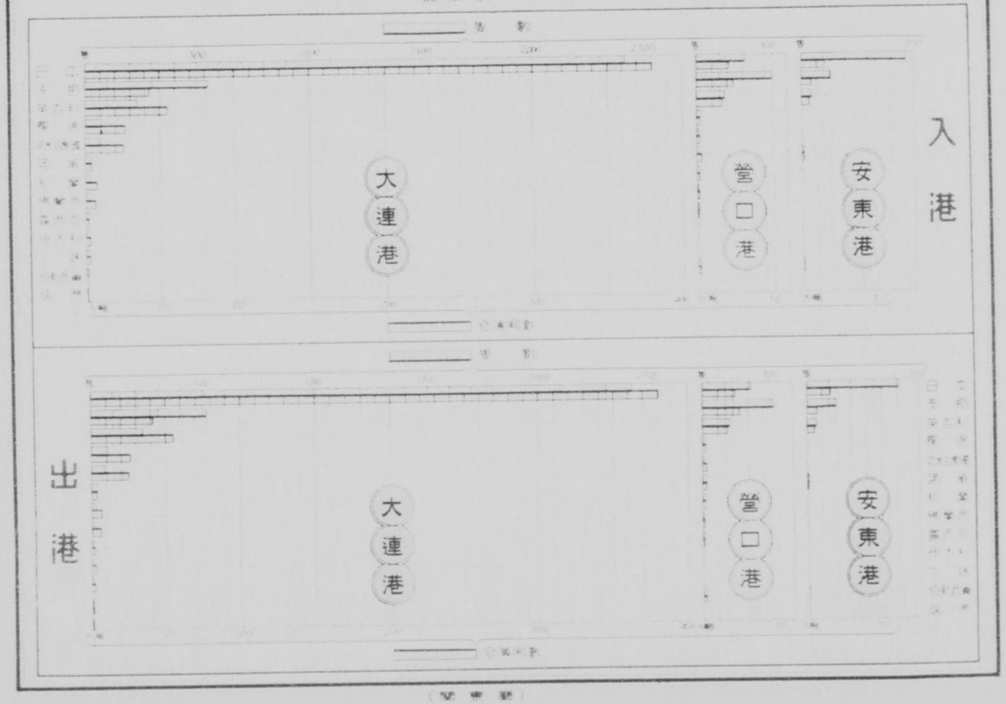
滿洲三港ニ於ケル出入船舶（昭和元年）

國別	大連港				安東港				營口港			
	入港		出港		入港		出港		入港		出港	
	隻數	登簿噸數	隻數	登簿噸數	隻數	登簿噸數	隻數	登簿噸數	隻數	登簿噸數	隻數	登簿噸數
日本	2.415	3,800,694噸	2.419	3,803,646噸	466	154,520噸	406	154,520噸	207	213,290噸	205	208,752噸
英吉利	230	553.284	231	558.636	41	49.483	41	49.483	120	161.029	115	154.766
支那	545	431.170	520	415.151	128	63.181	128	63.181	332	245.342	313	230.903
獨逸	71	269.618	71	269.618	—	—	—	—	10	13.511	10	13.511
北米合衆國	63	255.838	63	255.839	—	—	—	—	3	13.140	3	13.140
和蘭	21	74.067	20	70.432	—	—	—	—	5	7.572	5	7.572
佛蘭西	13	56.227	13	56.224	—	—	—	—	1	4.094	1	4.014
諾威	28	37.214	28	37.214	2	3.608	2	3.608	16	19.413	15	18.757
伊太利	5	23.213	5	23.213	—	—	—	—	—	—	—	—
丁抹	5	19.355	5	19.355	—	—	—	—	—	—	—	—
露西亞	7	8.580	7	8.580	—	—	—	—	2	1.772	2	1.772
瑞典	1	4.329	1	4.329	—	—	—	—	—	—	—	—
伯剌西爾	2	2.046	2	2.006	1	1.023	1	1.023	4	4.092	4	4.092
計	2.406	5,535,632	3,385	5,524,282	638	271,815	578	271,815	700	683,255	673	657,359

註　關東廳調査　關東廳統計要覽ニ據ル

滿洲三港ニ於ケル出入船舶

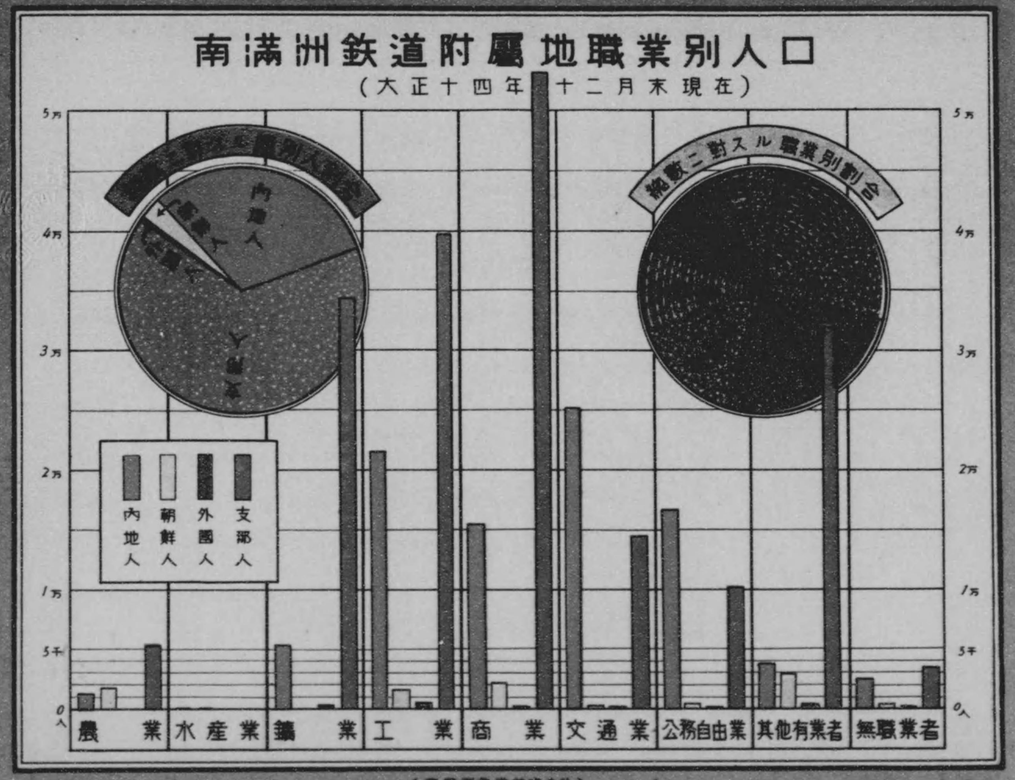
昭和元年



滿洲三港ニ於ケル出入船舶

南滿洲鐵道附屬地職業別人口

南滿鐵道の附屬地に住んで居る、支那人、日本人及外國人の職業別人口を見ると、支那人は論外として、日本人(內地人)、朝鮮人、外國人と云ふ、順位になつて居る、殊に水產業を除き、他の職業が支那人一手の獨占に係るやうな觀があるのは、土地柄とはいへ殘念な話で、商業の本業者二四九九三人、從屬者一七七〇二人と云ふが如き此れを日本內地人の本業者六〇九〇人、從屬者九三六〇人と比較しては、問題にならぬ。只支那人を凌ぐものは、交通業、公務自由業だけであつて、これは滿鐵に附屬する職業としては日本人として、當然な發達といふ可きものであらう。外國人も工業及び鑛業に進出すべき機運が表はれて居る、これは恐らく、將來に待つ可きものであらう。南滿鐵道會社が、創業以來附屬地に於ける公共施設と、地方經營の爲に費やした金は莫大なものでたとへば、地方部の費用だけで、七千百八拾二萬六千餘圓に達して居る、この背景に包まれた以上の職業は、發展するばかりであること疑ひない。



（南滿洲鐵道株式會社）

南滿洲鐵道附屬地在留本邦人職業別人口（大正十四年末現在）

職業別	日本人 内地人 男 本業者	従属者	女 本業者	従属者	計 本業者	従属者	朝鮮人 男 本業者	従属者	女 本業者	従属者	計 本業者	従属者
農業	411	319	16	631	427	950	166	151	19	247	185	398
水産業	31	17	—	51	31	68	2	2	—	3	2	5
鑛業	1.496	1.133	27	2.606	1.523	3.739	8	5	—	3	8	8
工業	6.840	4.679	247	9.603	7.087	14.282	620	346	169	657	789	1.003
商業	4.755	3.156	1.335	6.204	6.090	9.360	724	465	111	903	835	1.368
交通業	7.724	5.698	415	11.352	8.139	17.050	108	79	—	153	108	232
公務自由業	4.601	3.450	1.789	6.779	6.390	10.229	138	122	53	192	191	314
其他有業者	965	708	823	1.318	1.788	2.029	922	644	108	1.175	1.030	1.819
無職者	116	1.351	51	784	167	2.135	59	157	—	151	59	308
合計	26.939	20.511	4.703	39.328	31.642	59.839	2.747	1.971	460	3.484	3.207	5.455

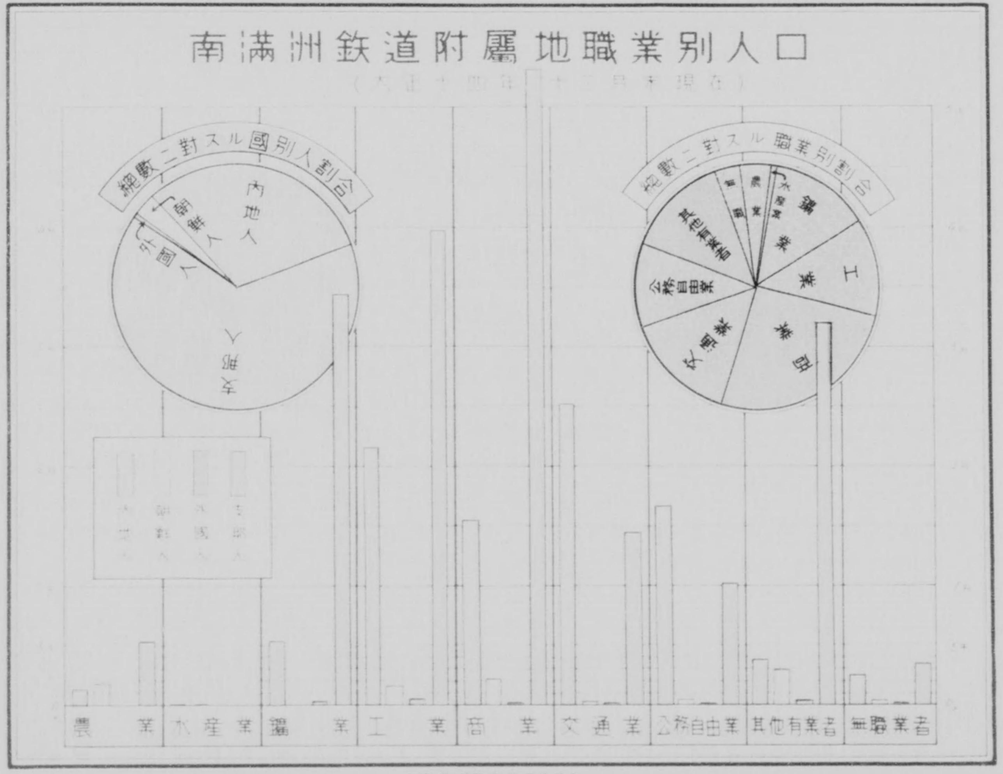
南滿洲鐵道附屬地在留外國人職業別人口

職業別	中華民國人 男 本業者	従属者	女 本業者	従属者	計 本業者	従属者	外國人 男 本業者	従属者	女 本業者	従属者	計 本業者	従属者	計 男 本業者	従属者	女 本業者	従属者	計 本業者	従属者
農業	1.924	1.295	8	2.177	1.932	3.472	1	3	—	1	1	4	2.502	1.768	43	3.056	2.549	4.824
水産業	48	8	—	5	48	13	—	—	—	—	—	—	81	27	—	59	81	86
鑛業	29.125	2.348	2	2.887	29.127	5.235	64	11	—	25	64	36	30.693	3.497	29	5.521	30.722	9.058
工業	24.508	7.004	323	7.760	24.831	14.764	98	42	9	87	107	129	32.066	12.071	748	18.107	32.814	30.178
商業	34.208	9.097	785	8.605	34.993	17.702	185	104	44	193	229	297	39.872	12.822	2.275	15.905	42.147	28.727
交通業	7.865	2.481	7	3.845	7.872	6.326	68	14	19	55	87	69	15.765	8.272	441	15.405	16.206	23.677
公務自由業	4.180	1.866	1.812	2.328	5.992	4.194	77	19	11	54	88	73	8.996	5.457	3.665	9.353	12.661	14.810
其他有業者	21.242	4.584	880	6.901	22.122	11.485	90	59	22	69	112	128	23.219	5.995	1.833	9.463	25.052	15.458
無職者	415	1.785	13	1.180	428	2.965	1	27	—	26	1	53	591	3.320	64	2.141	655	5.461
合計	123.515	30.468	3.830	35.688	127.345	66.156	584	279	105	510	689	789	153.785	53.229	9.098	79.010	162.883	132.239

註　南滿洲鐵道株式會社調査　大正十四年統計年表ニ據ル

南滿洲鐵道附屬地職業別人口

（大正十四年十二月末現在）



（南滿洲鐵道株式會社）

南滿洲鐵道附屬地在留本邦人職業別人口

職業別	日本人											
	內地人				朝鮮人				外國人			
	男		女		計		男		女		計	
	本業者	營業者	本業者	營業者	本業者	營業者	本業者	營業者	本業者	營業者	本業者	營業者
農業	414	319	16	651	83	96	16	1	1	1	18	2
水産業	31	17		51	31		9				9	
鑛業	1,496	1,133	27	2,096	1,523	3,759						
工業	4,840	1,579	247	9,005	7,017	14,217	623	40	163	1	1,829	1,862
商業	1,536	3,150	1,335	6,201	6,094	9,799	121	66	117	9	1,365	1,566
交通業	3,724	5,026	415	11,677	8,139	17,000	1			1	10	1
公務自由業	1,094	3,150	1,789	6,779	6,099	10,229	1	1	1	1	101	3
其他有業者	1,067	3,168	833	6,318	1,788	2,079	922	644	1,106	1,171	1,640	1,810
無職業者	1,1	1,351	3	2,781	1,167	2,1	1	1		1	1	1
合計	6,9	20,341	4,503	39,378	31,642	60,829	2,747	1,764	1,400	2,184	3,096	3,480

南滿洲鐵道附屬地在留外國人職業別人口

職業別	朝鮮人						外國人					
	男		女		計		男		女		計	
	本業者	營業者	本業者	營業者	本業者	營業者	本業者	營業者	本業者	營業者	本業者	營業者
農業	1,924	1,295	8	2,177	1,932	3,472	1	3		1	1	4
水産業	48	8		3	48	13						
鑛業	29,125	2,348	2	2,887	29,127	5,235	64	41		25	61	66
工業	24,508	7,004	325	7,760	24,831	14,764	98	49	9	87	107	136
商業	34,208	9,007	785	8,606	34,993	17,702	185	194	14	193	229	297
交通業	7,860	2,381	7	3,847	7,872	6,328	68	14	19	55	87	69
公務自由業	4,180	1,856	1,842	2,328	5,992	4,194	77	19	11	34	88	73
其他有業者	21,242	4,584	880	6,901	22,122	11,485	99	59	22	69	112	128
無職業者	415	1,785	13	1,180	428	2,965	1	27		26	1	53
合計	123,515	30,408	3,850	35,688	127,345	66,156	584	279	105	340	689	579

註　南滿洲鐵道株式會社調査　大正十四年統計年表ヲ據ル

滿洲ニ於ケル日本内地人ノ死亡

この表は滿洲にある同胞の、悲しむべき死亡の概況をこゝに擧げて、先づいかなる現狀にあるかを示すと倶に、尙行々彼の別天地に心を注ぐ人々のすべての參考の基點とならしめようとしたものである。第一に注意すべきは日本内地人の死亡率が一歳二歳の乳兒に多いことであつて、殊に一歳男三六六人、女三一二人、計六七八人といふに至つては、氣温、時期、卽ち四圍の事情からとはいひ見るに忍びない事實であつた。二歳の計三三七人も憂ふべき數であり、社會問題として充分なる施設を必要とする。二十一乃至二十五歳の二〇〇人も寧ろ奇異なる大數であり、此の割合には五十五歳以上の率が極めて低い、之を支那人の數と死因別とを比較して見ると、そこには又自ら合點の行くべきいろ〳〵な實相が横はつてゐた。支那人の神經系統及び呼吸器病、消化器病は、殆ど歷史的傳統的であり、日本人と比してこんなに數の相違があるのである。結核なども甚しい數であつた。月別に見ると日本人の方がさしたる變化もないに、支那人は病氣の差異からかやうに月の差を生じて居る。これらも見逃せぬ問題とせねばならぬ。

滿洲ニ於ケル日本內地人ノ死亡

死因別

病別	日本人	支那人
全身病	263	1,778
精身病	17	19
神經系病	153	5,348
循環器病	162	227
耳病	2	4
眼及其附屬病	—	2
鼻咽喉病	3	277
呼吸器病	641	3,488
消化器病	495	2,975
運動器病	6	20
皮膚及其附屬病	12	116
泌尿生殖器病	143	259
外傷	72	134
溺死及縊死	20	114
畸形	1	—
妊婦及産	12	113
急性中毒	25	85
慢性中毒	7	28
新生物	39	56
寄生蟲	—	1
脚氣	75	12
傳染病 痲瘋病	—	—
傳染病 結核	363	1,040
傳染病 花柳病	8	43
傳染病 其他傳染病	694	595
死因不詳	4	14
計	3,217	16,743

註　關東廳調査

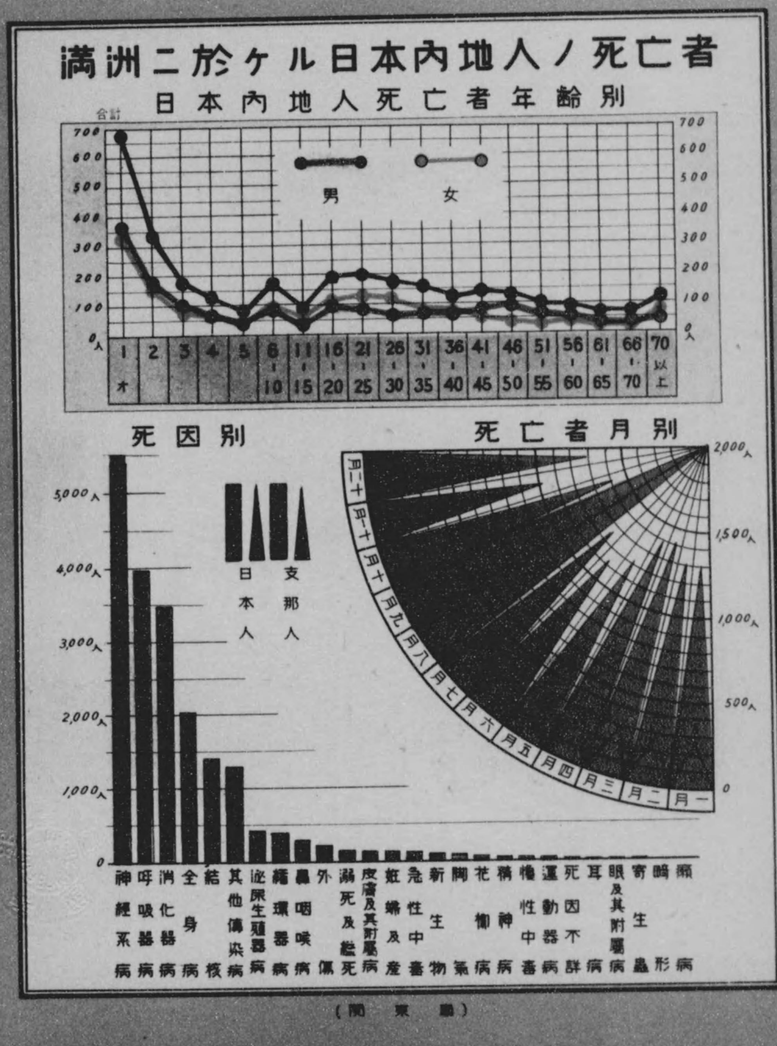
關東廳統計要覽ニ據ル

日本內地人死亡者年齡別

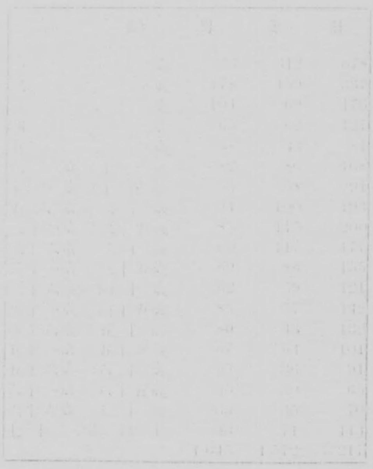
年齡	男	女	計
一歲	366	312	678
二歲	178	159	337
三歲	104	69	173
四歲	65	62	127
五歲	38	43	81
六歲＝十歲	82	86	168
十一歲＝十五歲	33	58	91
十六歲＝二十歲	94	100	194
二十一歲＝二十五歲	85	115	200
二十六歲＝三十歲	60	117	177
三十一歲＝三十五歲	69	86	155
三十六歲＝四十歲	62	59	121
四十一歲＝四十五歲	85	57	142
四十六歲＝五十歲	89	43	132
五十一歲＝五十五歲	67	34	101
五十六歲＝六十歲	55	36	91
六十一歲＝六十五歲	35	30	65
六十六歲＝七十歲	35	35	70
七十一歲以上	43	71	114
計	1,645	1,572	3,217

死亡者月別

月別	日本內地人 男	日本內地人 女	日本內地人 計	支那人
一月	136	124	260	1,306
二月	145	132	277	1,306
三月	146	147	293	1,423
四月	140	141	281	1,402
五月	129	137	266	1,221
六月	143	157	300	1,120
七月	178	162	334	1,269
八月	141	136	277	1,986
九月	140	131	271	1,973
十月	110	111	221	1,413
十一月	123	95	218	1,027
十二月	114	99	213	1,297
計	1,645	1,572	3,217	16,743

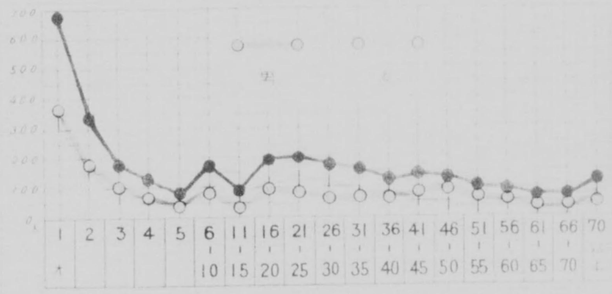


（關東廳）

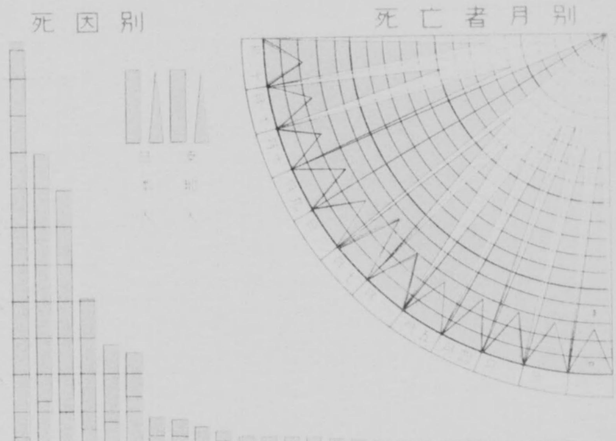


滿洲ニ於ケル日本内地人ノ死亡者

日本内地人死亡者年齢別



死因別



死亡者月別

滿洲ニ於ケル氣溫

滿洲の氣温は所謂大陸的であつて、寒暑の差が甚しいのと、乾燥性が高いのとがその特性である。乾燥の甚しいのは、降水量が不足で蒸發が大なる結果であつて、一概に滿洲が移住し難い氣候であると言はれるのも、この大陸氣温の爲であつた。然し仔細に考究して見ると、夏期などは、同じ緯度にある日本内地の諸都市よりは、遙に高温であるから、農作物などの發育は殊の外よろしい。只冬の寒氣ばかりが、酷く想像せられるのであつた。尤一日の内ともすれば二十度位の差が生じ、この晝夜の差が四五日乃至一週日位に所謂週期的に來るところから三寒四温といふのが生れるのである。大陸は海岸よりは温度の傳達が早いから、卽ち日本などに比べると、何でも季節が一ヶ月位早く來るといふ面白い現象を示してゐるのであつた。土地が廣いところから、旅順、大連、營口、奉天、長春の五都市に於ける一ヶ年間の氣温を比較しても、はやこんなに差違があるので、之を更に下段列國の主要都市並に日本の各都市と比較して見ると、大連の氣温がおよそ奈何なる位置にあるかゞ極めて明らかに分る。卽ち平均して巴里、秋田と稍肖しいといふから略々想像がつくことであらうと思ふ。

滿洲ニ於ケル氣溫

昭和元年中平均氣溫（攝氏）

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
旅順	−3.6	−1.7	3.0	9.2	14.5	20.4	22.8	24.4	20.0	12.5	7.6	−4.0	10.4
大連	−4.6	−2.1	2.9	9.9	14.9	21.2	23.1	24.4	16.7	11.7	6.6	−5.4	10.2
營口	−8.6	−4.7	1.1	8.9	17·2	22.0	25.0	24.6	18.6	8.7	2.1	−10.2	8.7
奉天	−11.6	−6.3	−2.1	8.2	18.7	22.9	25.5	24.2	17.5	6.7	0.4	−13.2	7.8
長春	−17.2	−11.2	−3.6	5.6	17.8	21.0	24.0	22.1	15.9	4.3	−1.3	−16·3	4.9

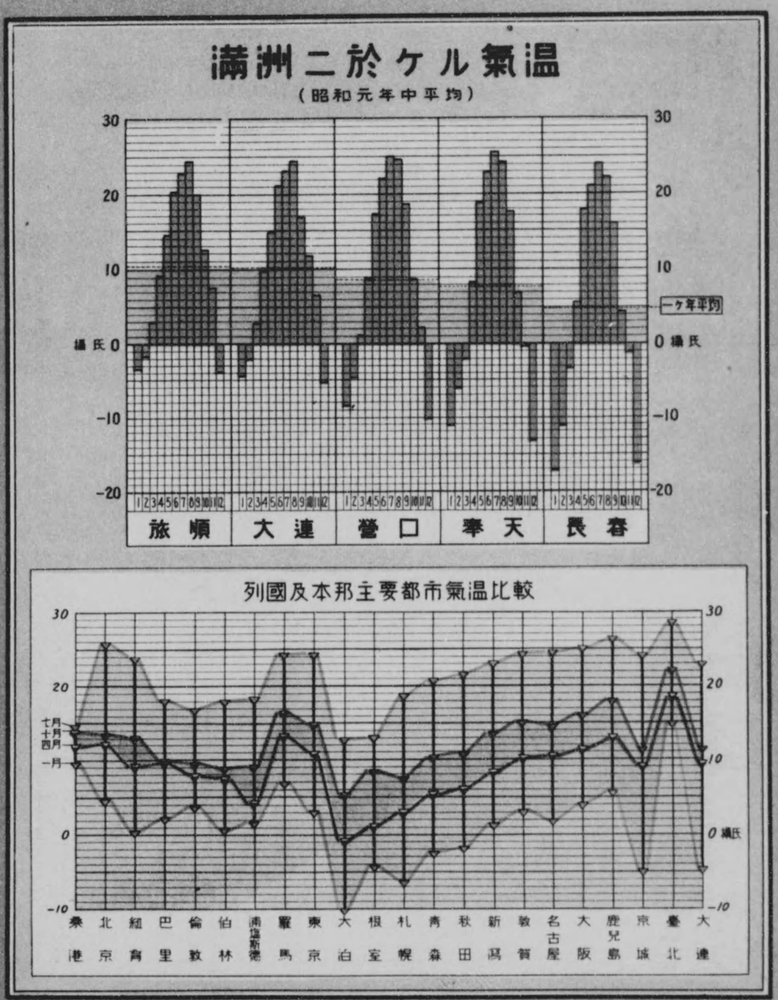
註　中日文化協會編滿蒙年鑑ニ據ル

列國及本邦主要都市氣溫比較（攝氏）

地名	平均	一月	四月	七月	十月
桑港	12.7	9.7	12.1	14.1	14.7
北京	11.7	4·7	13.7	26.0	12.5
紐育	11.3	0.5	9.5	24.0	13.3
巴里	10.0	2.3	9.9	18.3	10.1
倫敦	9.8	3.7	8.1	17.0	9.7
伯林	8.5	0.7	7.7	18.1	9.0
浦鹽斯德	4.7	1.7	4.5	18.6	9.3
羅馬	13.7	7.0	13.6	24.5	16.6
東京	15.9	3.2	11.1	24.5	15.0
大泊	2.9	−10.0	−0.6	13.0	5.5
根室	5.5	−4.3	1.4	13.2	8.5
札幌	6.9	−6.2	3.3	18.9	7.6
青森	9.3	−2.4	5.7	21.0	10.5
秋田	10.4	−1.8	6.3	21.8	11.0
新潟	12.6	1.4	8.5	23.3	13.8
敦賀	14.1	3.2	10.6	24.6	15.1
名古屋	14.5	2.0	10.9	24.7	14.7
大阪	15.1	4.1	11.7	25.2	16.2
鹿兒島	16.7	5.8	13.3	26.5	18.1
京城	10.8	−4.9	9.4	24.3	11.6
臺北	21.6	15·0	18.9	28.7	22.3
大連	10.2	−4.6	9.9	23.1	11.7

註　列國都市氣溫ハ內閣統計局編列國要勢要覽ニ據ル
本邦氣溫ハ內閣統計局編統計年鑑ニ據ル（昭和元年）

滿洲ニ於ケル東洋拓殖株式會社貸出高（昭和元年末）



（中日文化協會）

滿洲ニ於ケル氣溫

昭和元年中平均氣温（攝氏）

地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
旅順	−3.6	−1.7	3.0	9.2	14.5	20.4	22.8	24.4	20.0	12.5	7.6	−3.0	10.4
大連	−4.6	−2.1	2.9	9.9	14.9	21.2	23.1	24.4	16.7	11.7	6.6	−5.1	10.2
營口	−8.6	−4.7	1.1	8.9	17·2	22.0	25.0	24.6	18.6	8.7	2.1	−10.2	8.7
奉天	−11.6	−6.3	−2.1	8.2	18.7	22.9	25.5	24.2	17.5	6.7	0.4	−13.2	7.8
長春	−17.2	−11.2	−3.6	5.6	17.8	21.0	24.0	22.1	15.9	4.3	−1.3	−16·3	4.9

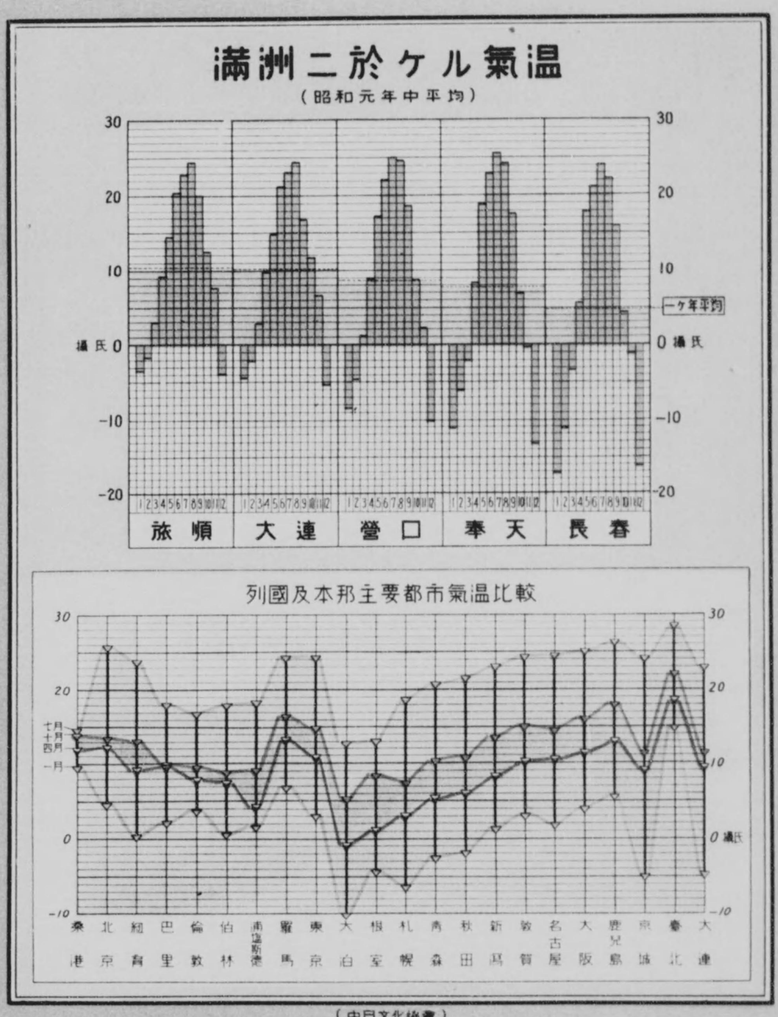
註　中日文化協會編滿蒙年鑑ニ據ル

列國及本邦主要都市氣溫比較（攝氏）

地名	平均	一月	四月	七月	十月
桑港	12.7	9.7	12.1	14.1	14.7
北京	11.7	4·7	13.7	26.0	12.5
紐育	11.3	0.5	9.5	24.0	13.3
巴里	10.0	2.3	9.9	18.3	10.1
倫敦	9.8	3.7	8.1	17.0	9.7
伯林	8.5	0.7	7.7	18.1	9.0
浦鹽斯德	4.7	1.7	4.5	18.6	9.3
羅馬	13.7	7.0	13.6	24.5	16.6
東京	15.9	3.2	11.1	24.5	15.0
大泊	2.9	−10.0	−0.6	13.0	5.5
根室	5.5	−4.3	1.4	13.2	8.5
札幌	6.9	−6.2	3.3	18.9	7.6
青森	9.3	−2.4	5.7	21.0	10.5
秋田	10.4	−1.8	6.3	21.8	11.0
新潟	12.6	1.4	8.5	23.3	13.8
敦賀	14.1	3.2	10.6	24.6	15.1
名古屋	14.5	2.0	10.9	24.7	14.7
大阪	15.1	4.1	11.7	25.2	16.2
鹿兒島	16.7	5.8	13.3	26.5	18.1
京城	10.8	−4.9	9.4	24.3	11.6
臺北	21.6	15·0	18.9	28.7	22.3
大連	10.2	−4.6	9.9	23.1	11.7

註　列國都市氣温ハ內閣統計局編列國要勢要覽ニ據ル
本邦氣温ハ內閣統計局編統計年鑑ニ據ル（昭和元年）

滿洲ニ於ケル東洋拓殖株式會社貸出高（昭和元年末）



（中日文化協會）

滿蒙ニ於ケル耕地面積

現在滿蒙の可耕地面積は二千五百萬餘町歩もあるがその内現に耕作せられてゐる土地が約一千萬町歩、その殘りは未だに茅草の曠原であつて、未開地が年々開拓されてゆく面積が、先づ平均二十萬餘町歩であるから、これを墾拓して完全な農作物を出すまでにするには五十年の歳月を要する譯になる。元來農業が滿蒙の主なる業である癖に、住民の文化が低いところから農法も原始的であつた。科學的に誘導することが最初の急務であり、之に據つて耕作全般の方策を教へたならば、將來恐るべき經濟力の主點となつて顯はれるであらう。農作物の種類から見ては、大豆が最大なもので、滿洲の年產額實に二千八百萬石と云はれ、尙毎年增加を示して居る、作付面積三千一百萬餘町歩、素晴しいものと云はねばならぬ。之に亞ぐのが高粱で、北支那の主食物であること、我が國の米と同樣で、作付面積二千五百萬餘町歩、而もこれほど副作業に必要なものもなく、これほど有利に役立てるものもたんとない。その他の種別は反別面積とともに觀察すべきである。

滿蒙ニ於ケル耕地面積

農作物作付面積（種類別）

品名	作付面積
高粱	25.114.800㌶
粟	19.473.700
玉蜀黍	9.869.400
大豆	31.092.500
小豆	2·126.100
其他豆類	1.271.600
大麥	2.783.800
小麥	8.799.400
稗	1.817.800
黍	2.795.100
水稻	1.028.700
陸稻	1.168.400
其他	6.992.800

（地方別）

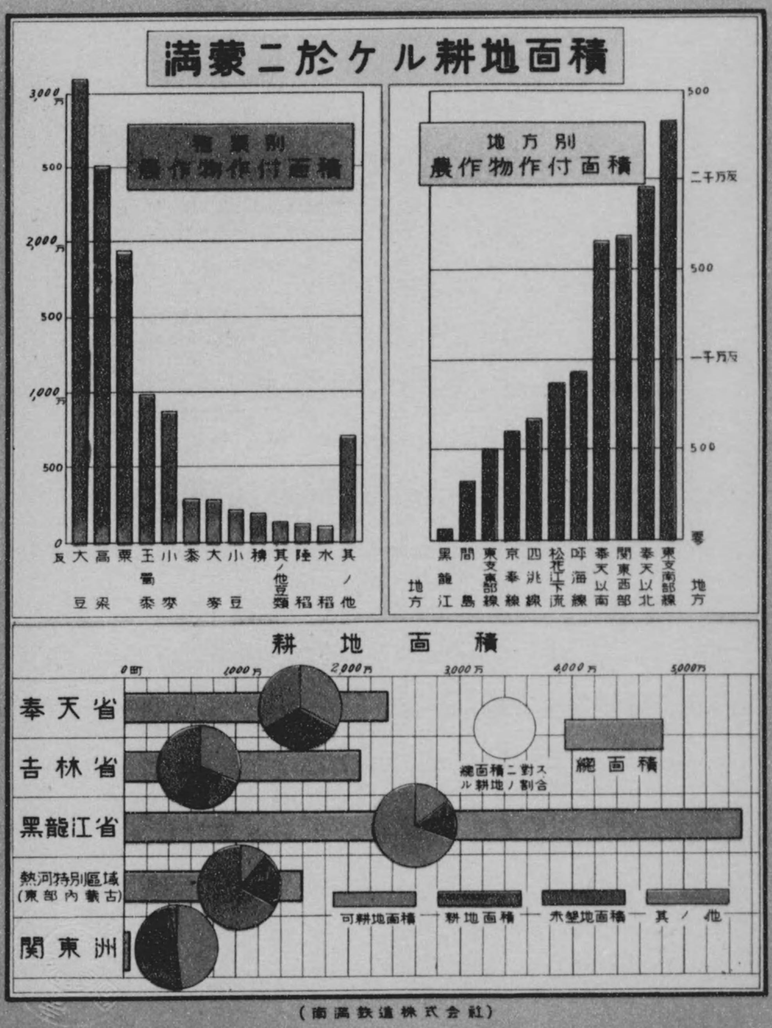
地方別	作付面積
奉天以南地方	16.361.700㌶
奉天以北地方	19.598.900
京奉線地方	5.812.200
四洮線地方	6.590.600
東支南部線地方	23.271.100
東支東部線地方	5.014.700
松花江下流地方	8.730.900
呼海線地方	9.312.500
關東西部地方	16.766.500
黑龍江地方	310.500
間島地方	3.054.700

耕地面積

（單位町）

地方別	總面積	可耕地面積	耕地面積	未墾地面積
奉天省	23.577.986	7.797.616	5.167.997㌶	2.629.619㌶
吉林省	21.172.101	6.263.550	3.493.843	2.769.707
黑龍江省	55.240.431	8.350.222	2.955.234	5.394.988
計	99.990.518	22.411.358	11.617.074	10.794.314
熱河特別區域（東部內蒙古）	15.823.410	3.317.372	1.593.214	1.124.158
滿蒙合計	115.813.928	25.728.760	13.210.288	12.518.472
關東州	340.808	163.804	148.056	15.748

註　南滿洲鐵道株式會社調査



（南滿鉄道株式会社）

滿蒙ニ於ケル耕地面積

農作物作付面積（種類別）

品名	作付面積
高粱	25,111,800
粟	19,475,700
玉蜀黍	9,869,400
大豆	31,062,500
小豆	2,126,100
其他豆類	1,271,600
大麥	2,783,800
小麥	8,790,400
稗	1,817,800
黍	2,795,100
水稻	1,028,700
陸稻	1,165,400
其他	6,992,800

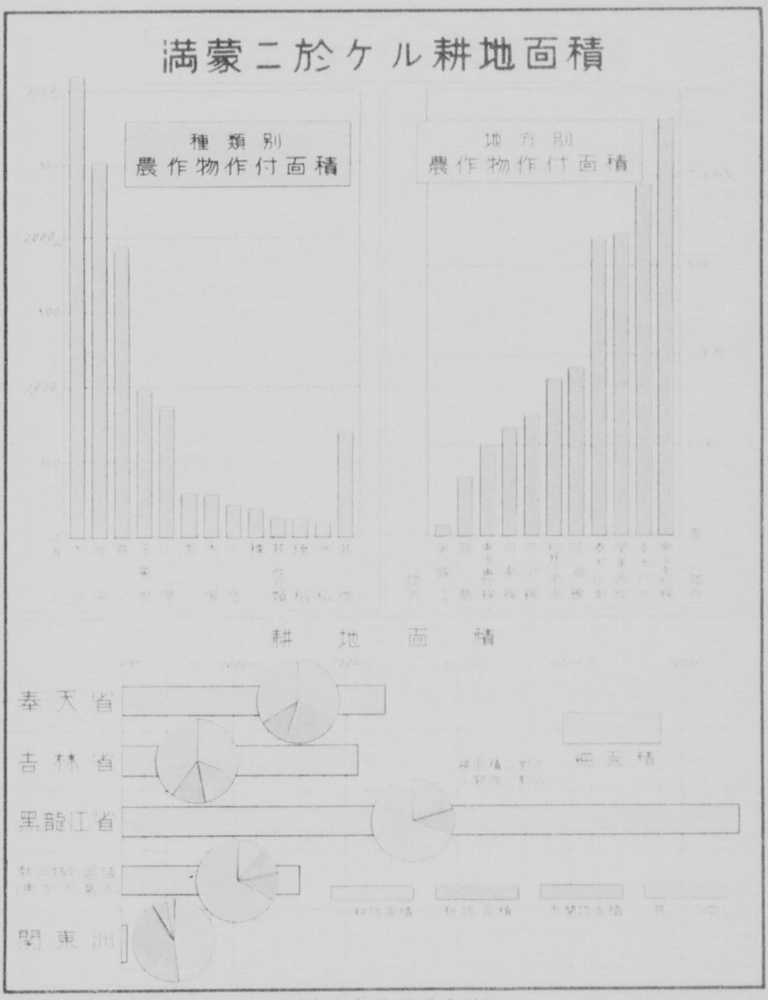
農作物作付面積（地方別）

地方別	作付面積
奉天省南部地方	10,301,700
奉天省北部地方	10,585,900
奉天省地方	3,812,200
開原縣地方	6,530,600
東支南部線地方	25,271,100
東支東部線地方	5,011,200
哈爾濱地方	8,730,500
吉林縣地方	9,412,500
關東西部地方	16,760,500
黑龍江地方	5,410,500
間島地方	3,654,700

耕地面積

地方別	總面積	可耕地面積	耕地面積	未墾地面積
奉天省	23,527,980	7,707,616	5,167,307	2,540,419
吉林省	21,172,101	6,268,570	3,493,813	2,769,707
黑龍江省	55,240,431	8,350,222	2,955,334	5,394,888
計	99,940,518	22,326,408	11,617,074	10,704,514
熱河省及關東州	15,873,410	3,517,372	1,503,214	1,121,158
滿蒙合計	115,813,928	25,528,760	13,210,288	12,318,172
間島	310,808	163,804	148,056	15,748

註　南滿洲鐵道株式會社調査

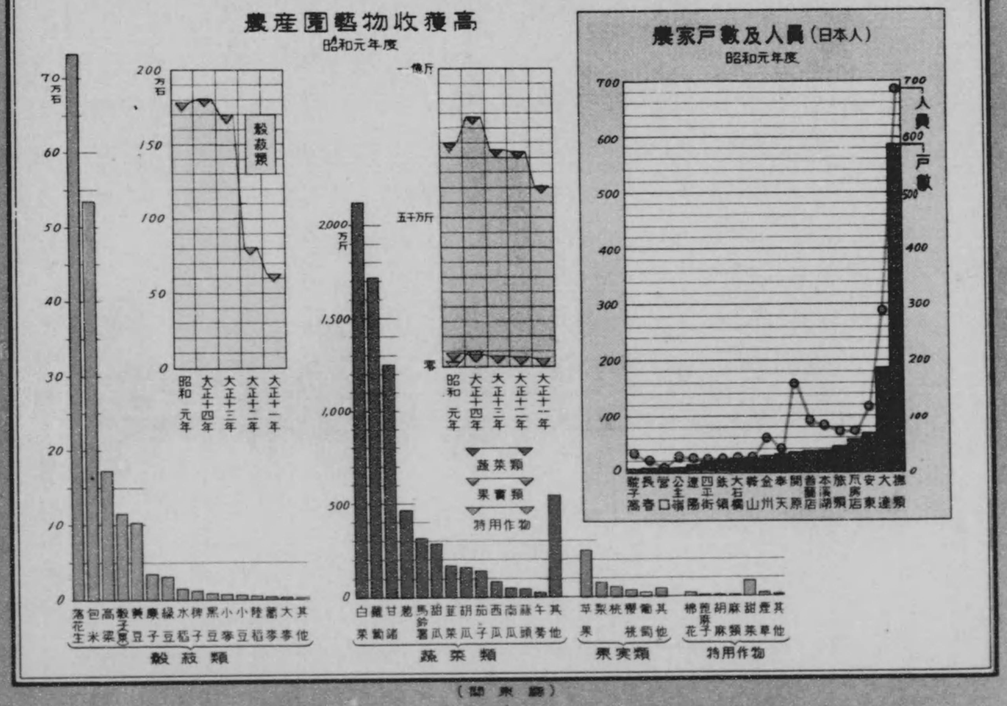


（南滿洲鐵道株式會社）

滿洲ニ於ケル農產物收穫高並農家戸數

滿洲に於ける日本人の農家戸數は、累年多きを算するやうになつたが、一方滿鐵社では、支那在來の農耕方法を改良せんとして、大正十二年公主嶺と熊岳城とに農學校を建て、支那人の子弟に對して簡易な農事智識を授け、これ迄の粗放なる方法を改良することに熱心した結果、內外相俟つて極めて立派なる效果を、着々揚げるやうになつたのである。日本人の農家は戸數人員ともに撫順最も多く、戸數五八六、人員六八五、大連は二位にあるが戸數一八五、人員二八八、遙に劣る。安東、瓦房店等更に之よりも少數であるが、何れは將來徐々と堅實な數を增すのであらう。又農產園藝物の收獲高を一見すると我々の非常な興味を今更ながら喚起するものが多かつた。穀菽類に於ける落花生が、昭和元年度七三一、七七二石の高を示して居るのは、普通關東豆、南京豆などの俗稱に背かぬものであり、包米の五三四、五七六石、これ亦大きいものであつた。蔬菜の中白菜の二一、二五八、五七四斤と蘿蔔の一七、二五五、六二二斤とは既に定評のあるもので、甘藍の如きは日ならずして白菜の域に達するであらう、滿洲の曠野はその開拓次第、一層我等の視聽を驚かすべき作物をこの世に表はす事であらう。

滿洲ニ於ケル農産物收獲高並農家戸數



（關東廳）

滿洲ニ於ケル農産物收獲高並農家戸數（昭和元年度）

穀菽類

種類別	收獲高	種類別	收獲高
包米	534.576石	綠豆	30.024石
高粱	177.772	黑豆	9.630
穀子(粟)	115.319	小豆	5.095
糜子	34.165	落花生	731.772
稗子	11.663	水稻	14.656
大麥	2.245	陸稻	4.281
小麥	7.151	其他	960
蕎麥	2.891	計	1.785.402
黃豆	103.162		

蔬菜類

種類別	收獲高	種類別	收獲高
蘿蔔	17.255.622斤	西瓜	866.252斤
葱	4.746.318	南瓜	515.246
茄子	1.484.413	甘藷	12.586.000
午旁	246.008	馬鈴薯	3.214.400
白菜	21.258.574	其他	5.099.899
韮菜	1.704.208	計	74.009.484
蒜頭	494.392		
胡瓜	1.610.817		
甜瓜	2.927.335		

果實類

種類別	收獲高
葡萄	199.964斤
桃	513.631
苹果	2.551.062
梨	782.111
櫻桃	37.796
其他	413.843
計	4.498.407

特用作物

種類別	收獲高
棉花	176.675斤
蓖麻子	27.524
胡麻	28.309
麻類	26.410
甜菜	844.963
煙草	72.332
其他	30.986
計	1.217.199

收獲高累年比較

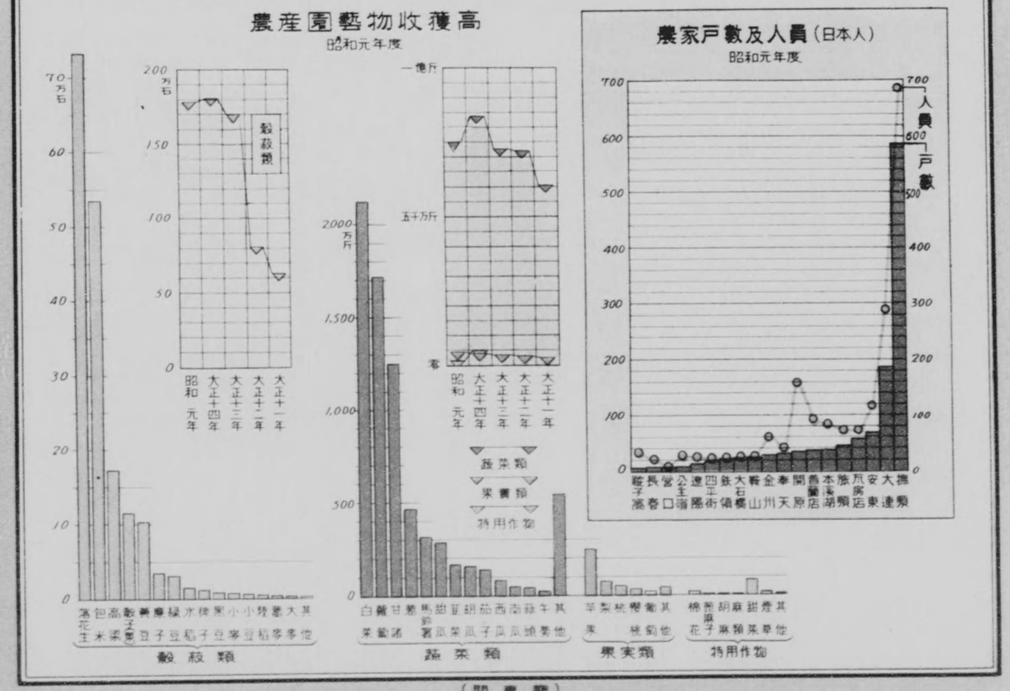
種類別＼年次	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年	大正十一年
穀菽類	1.785.402石	1.806.397石	1.595.174石	805.921支那石	638.523支那石
蔬菜類	74.009.484斤	83.791.705斤	72.532.064斤	72.089.028支那斤	60.993.197支那斤
果實類	4.498.407	3.756.497	3.018.173	2.933.989	2.540.464
特用作物	1.217.199	4.954.371	—	—	—

農家數及人員

地方別	日本人 戸數	日本人 人員	支那人 戸數	支那人 人員	合計 戸數	合計 人員	地方別	日本人 戸數	日本人 人員	支那人 戸數	支那人 人員	合計 戸數	合計 人員
旅順	45戸	74人	10.989戸	27.477人	11.034戸	27.551人	奉天	33	42	7戸	38人	40戸	80人
大連	185	288	8.594	29.151	8.769	29.439	本溪湖	38	84	3	7	41	91
金州	29	61	9.740	22.224	9.769	22.285	安東	67	119	70	142	137	261
普蘭店	37	96	14.807	68.786	14.844	68.882	撫順	586	685	43	68	629	753
貔子窩	6	35	12.669	69.441	12.675	69.476	鐵嶺	21	24	37	72	58	96
瓦房店	58	74	175	366	233	440	開原	35	160	33	133	68	293
大石橋	22	26	158	175	180	201	四平街	19	23	64	207	83	230
營口	8	9	7	32	15	41	公主嶺	9	30	38	114	47	144
鞍山	25	28	29	51	54	79	長春	8	22	25	140	33	162
遼陽	14	25	2	99	16	124	計	1.245	1.905	57.480	218.723	58.725	220.628

註　關東廳調査　關東廳統計要覽ニ據ル

滿洲ニ於ケル農産物收獲高並農家戸數



（關東廳）

滿洲ニ於ケル農産物收獲高並農家戸數（昭和元年度）

穀菽類

種類別	收獲高	種類別	收獲高
包米	534.576石	綠豆	30,024石
高粱	177.772	黑豆	9,630
穀子（粟）	115.319	小豆	5,095
糜子	34.165	落花生	731.772
稗子	11.663	水稻	14,656
大麥	2.245	陸稻	4.281
小麥	7.151	其他	960
蕎麥	2.891	計	1,785.402
黃豆	103.162		

蔬菜類

種類別	收獲高	種類別	收獲高
蘿蔔	17.255.622斤	西瓜	866.252斤
葱	4.746.318	南瓜	515.246
茄子	1.484.413	甘藷	12.586.000
午旁	246.008	馬鈴薯	3.214.400
白菜	21.258.574	其他	5.099.899
韭菜	1.704.208	計	74.009.484
蒜頭	494.392		
胡瓜	1.610.817		
甜瓜	2.927.335		

果實類

種類別	收獲高
葡萄	199.964斤
桃	513.631
苹果	2.551.062
梨	782.111
櫻桃	37.796
其他	413.843
計	4.498.407

特用作物

種類別	收獲高
棉花	176.675斤
苴麻子	27.524
胡麻	28.309
麻類	26.410
甜菜	844.963
煙草	72.332
其他	30.986
計	1.217.199

收獲高累年比較

種類別＼年次	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年	大正十一年
穀菽類	1.785.402石	1.806.397石	1.595.174石	805.921金票石	638.523金票石
蔬菜類	74.009.484斤	83.791.705斤	72.532.064斤	72.089.028金票斤	60.993.197金票斤
果實類	4.498.407	3.756.497	3.018.173	2.933.989	2.540.464
特用作物	1.217.199	4.954.371			

農家數及人員

地方別	日本人 戸數	日本人 人員	支那人 戸數	支那人 人員	合計 戸數	合計 人員
旅順	45戸	74人	10,989戸	27.477人	11.034戸	27.551人
大連	185	288	8,594	29.151	8.769	29.439
金州	29	61	9.740	22.224	9.769	22.285
普蘭店	37	96	14.807	68.786	14.844	68.882
貔子窩	6	35	12.669	69.441	12.675	69.476
瓦房店	58	74	175	366	233	440
大石橋	22	26	158	175	180	201
營口	8	9	7	32	15	41
鞍山	25	28	29	51	54	79
遼陽	14	25	2	99	16	124
奉天	33	42	7	38	40	80
本溪湖	38	84	3	7	41	91
安東	67	119	70	142	137	261
撫順	586	685	43	68	629	753
鐵嶺	21	24	37	72	58	96
開原	35	160	33	133	68	293
四平街	19	23	64	207	83	230
公主嶺	9	30	38	114	47	144
長春	8	22	25	140	33	162
計	1.245	1,905	57,480	218.723	58.725	220.628

註　關東廳調査　關東廳統計要覽ニ據ル

滿洲ニ於ケル工場

製油、製粉、醸酒は滿洲の三大主要工業であつた。滿洲は農産、畜産、鑛産、林産の原料が無限に豊富であるから、燃料の容易に獲られる事と相俟つて、工業を興すには實に持つて來いの天然好適地であつた。然し、支那本來の家内的工作即ち豆油を採取する舊法から、今日の機械工業に立ち直つたのは、極めて近代の事でたとへば、施政當時營口の一角に小さな搾油工場の有つたものが、間もなく今日の狀況となり、明治四十二年頃と比較して見れば生産額でもはや既に二十有餘倍とはなつた。隔世の感とは之をいふのであらう。こゝに大正十年から昭和元年に至る迄の工場數、職工延人員數、資本金額を比較して見ても、かやうに堅實なる發展を示して居るのであつた。職工は現在、數では支那人に及ばぬが、之は主として勞働賃銀の低廉と募集の容易とから來るので、その代り變化も激しいが、日本人も大正十四年の如きは大に增した。工場別種目名を一見しても、その數と比べて、更に大規模な工場が續々表はれ行くべき機運が、ほの見えてゐることは疑ひない。

滿洲ニ於ケル工場（昭和元年末調査）

工場別	工場數	職工延人員			資本金
		日本人	支那人	計	
染織工場	47	303.183人	3.027.037人	3.330.220人	18.343.300円
機械及器具工場	116	485.080	1.676.650	2.161.730	19.832.282
化學工場	207	94.680	2.818.293	2.913.301	63.266.531
飲食物工場	165	119.967	1.088.293	1.208.260	41.619.325
雜工場	125	206.260	989.023	1.195.283	15.372.900
特別工場	25	657.443	1.532.666	2.195.109	97.790.300
計	685	1.868.613	11.132.290	13.000.903	256.224.438

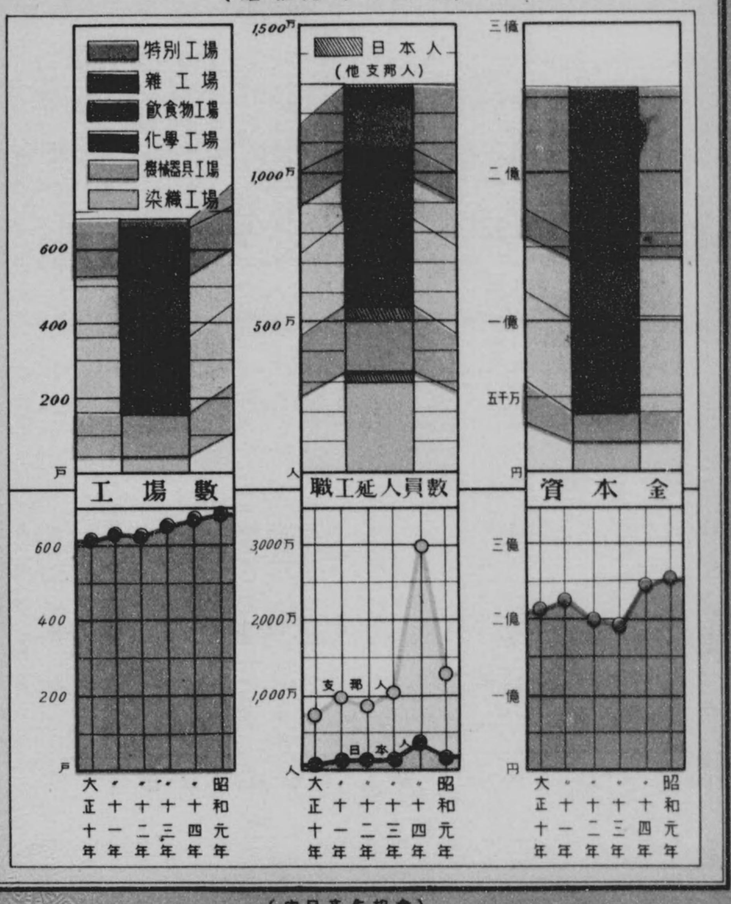
累年比較

年度	工場數	職工延人員			資本金
		日本人	支那人	計	
大正十年	621	771.253人	6.388.749人	7.160.502人	212.742.051円
大正十一年	637	1.291.574	8.379.349	9.670.923	226.778.352
大正十二年	633	1.292.193	7.257.853	8.550.288	200.827.607
大正十三年	658	1.394.559	8.757.507	10.155.288	192.936.596
大正十四年	674	3.867.415	25.846.002	29.713.417	247.117.878
昭和元年	685	1.868.613	11.132.290	13.000.903	256.224.438

註　中日文化協會　滿蒙年鑑ニ據ル

滿洲ニ於ケル工場

（昭和元年末調査）



（中日文化協會）

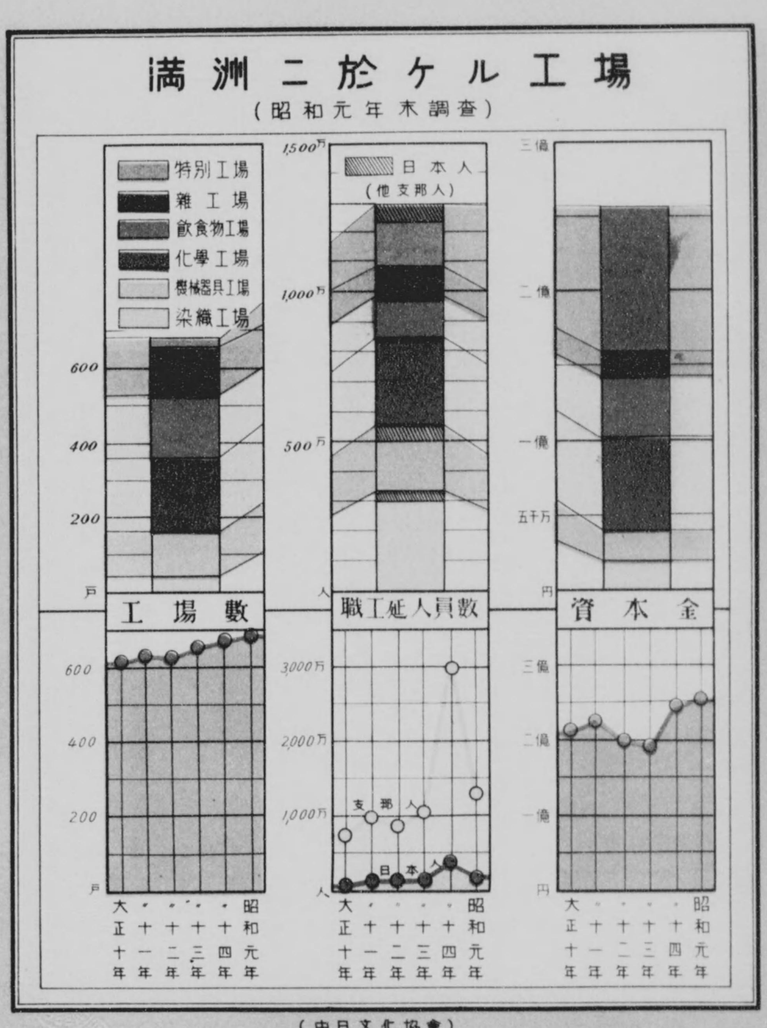
滿洲ニ於ケル工場（昭和元年末調査）

工場別	工場數	職工延人員			資本金
		日本人	支那人	計	
染織工場	47	303.183人	3.027.037人	3.330.220人	18.343.300円
機械及器具工場	116	485.080	1.676.650	2.161.730	19.832.282
化學工場	207	94.680	2.818.293	2.913.301	63.266.531
飲食物工場	165	119.967	1.088.293	1.208.260	41.619.325
雜工場	125	206.260	989.023	1.195.283	15.372.900
特別工場	25	657.443	1.532.666	2.195.109	97.790.300
計	685	1.868.613	11.132.290	13.000.903	256.224.438

累年比較

年度	工場數	職工延人員			資本金
		日本人	支那人	計	
大正十年	621	771.253人	6.388.749人	7.160.502人	212.742.051円
大正十一年	637	1.291.574	8.379.349	9.670.923	226.778.352
大正十二年	633	1.292.193	7.257.853	8.550.288	200.827.607
大正十三年	658	1.394.559	8.757.507	10.155.288	192.936.596
大正十四年	674	3.867.415	25.846.002	29.713.417	247.117.878
昭和元年	685	1.868.613	11.132.290	13.000.903	256.224.438

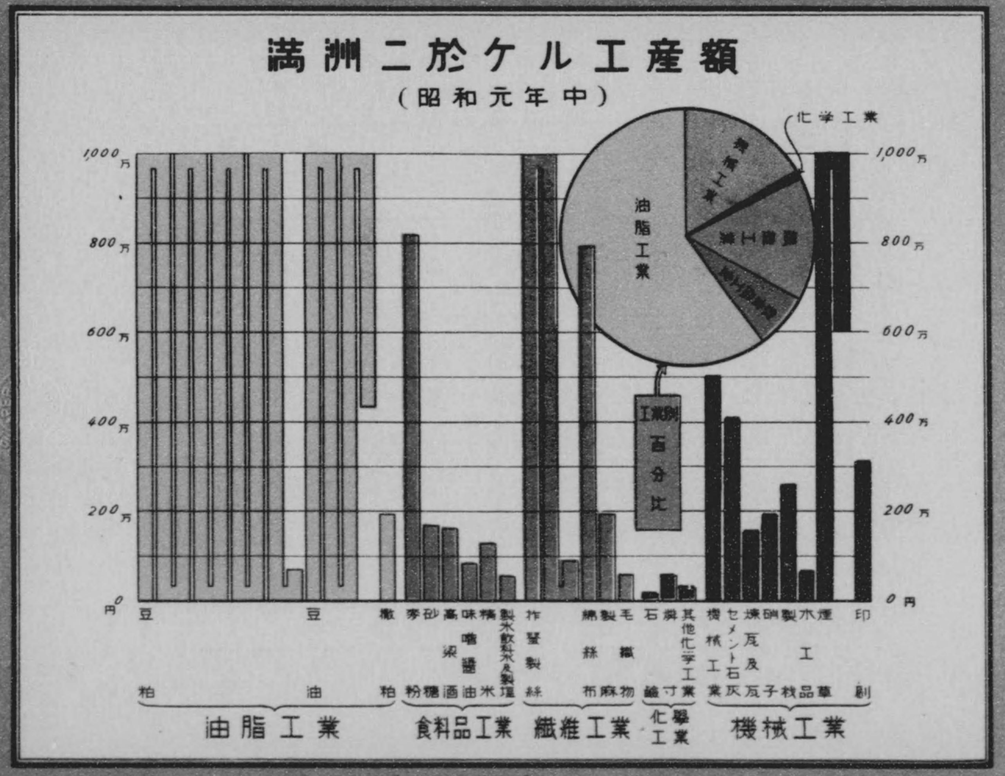
註　中日文化協會　滿蒙年鑑ニ據ル



（中日文化協會）

滿洲ニ於ケル工産額

誰やらが滿洲は大豆の國と云つた。こゝに五種の工産物を並べて比較して見ても、深く此の感想が是認される。滿洲の工業は何といつても南滿鐵道沿線附近の工業を以て全滿の第一とする。就中支那全國民の日常から切り離すことの出來ぬ油脂は、今や世界的の工産物となつた、その内豆粕の昭和元年中の産額八千餘萬圓などは、他の何物にも優る誇りであつて、豆油の三千五百餘萬圓も亦大きい。之に亞ぐのは繊細工業の柞蠶製糸二千餘萬圓である。柞蠶の原蠶は全滿中到る所に遍滿し、而も近頃は歐米婦人衣裳界の必需品となつた。のみならず此の製糸技術といふものが、實は本邦人を以て世界第一とする所から逐年かやうに進んで來たのである。之は普通の製綿糸類を蹴破して近き將來には刮目すべき實現となるであらう。五種類各品目の工産に關する原料は滿洲には豐富なのであるから、適當なる施設と支那勞働者の常癖罷業とを注意して進んだならまだ〳〵發展の餘地はあらう。只恐るべきは財界緊縮の餘波尚未だ貸出を手控えて居ることと、一は支那勞働者思想の變化が餘り激甚に來ることであつた。



（中日文化協會）

滿洲ニ於ケル工産額

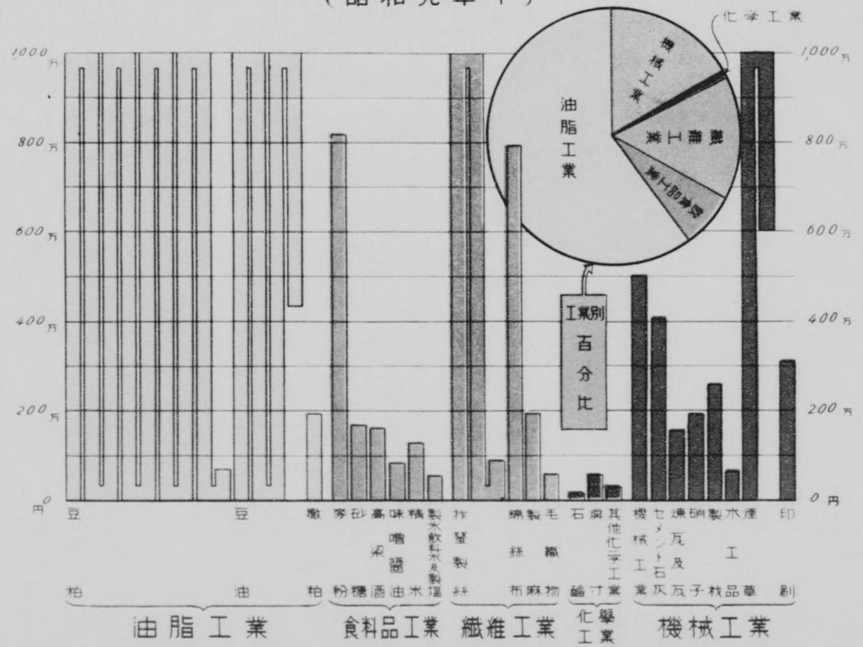
（昭和元年中）

工産別	合計	品目	數量
油脂工業	118.340.132円	豆粕	80.699.665斤
		豆油	35.692.684
		撒粕	1.947.783
食料品工業	14.301.002	麥粉	8.183.248
		砂糖	1.769.535
		高粱酒	1.645.281
		味噌醤油	867.265
		精米	1.289.047
		製氷飲料水及製造	546.626
繊維工業	31.430.734	作繭製糸	20.925.000
		綿糸布	7.937.529
		製麻	1.928.460
		毛織物	639.745
化學工業	1.137.180	石鹸	151.223
		燐寸	608.110
		其他化學工業	377.847
機械工業	32.960.051	機械工場	5.004.277
		セメント石灰	4.067.903
		煉瓦及瓦	1.576.669
		製硝子	1.960.000
		木工	2.604.709
		煙草	604.953
		印刷	14.000.000
			3.141.540
總計	198.169.099		

註　中日文化協會調査　滿蒙年鑑ニ據ル

滿洲ニ於ケル工産額

（昭和元年中）



（中日文化協會）

滿洲ニ於ケル工産額

（昭和元年中）

工産別	合計	品目	數量
油脂工業	118,340,132円	豆粕	80,699,665円
		豆油	35,692,684
		撒粕	1,947,783
食料品工業	14,301,002	麥粉	8,183,248
		砂糖	1,769,535
		高粱酒	1,645,281
		味噌醤油	867,265
		精米	1,289,047
		製氷飲料水及製造	546,626
繊維工業	31,430,734	柞蚕製糸	20,925,000
		綿糸	7,937,529
		布製麻	1,928,460
		毛織物	639,745
化學工業	1,137,180	石鹸	151,223
		燐寸	608,110
		其他化學工業	377,847
機械工業	32,960,051	機械工場	5,004,277
		セメント石灰	4,067,903
		煉瓦及瓦	1,576,669
		硝子	1,960,000
		製材	2,604,709
		木工品	604,953
		煙草	14,000,000
		印刷	3,141,540
總計	198,169,099		

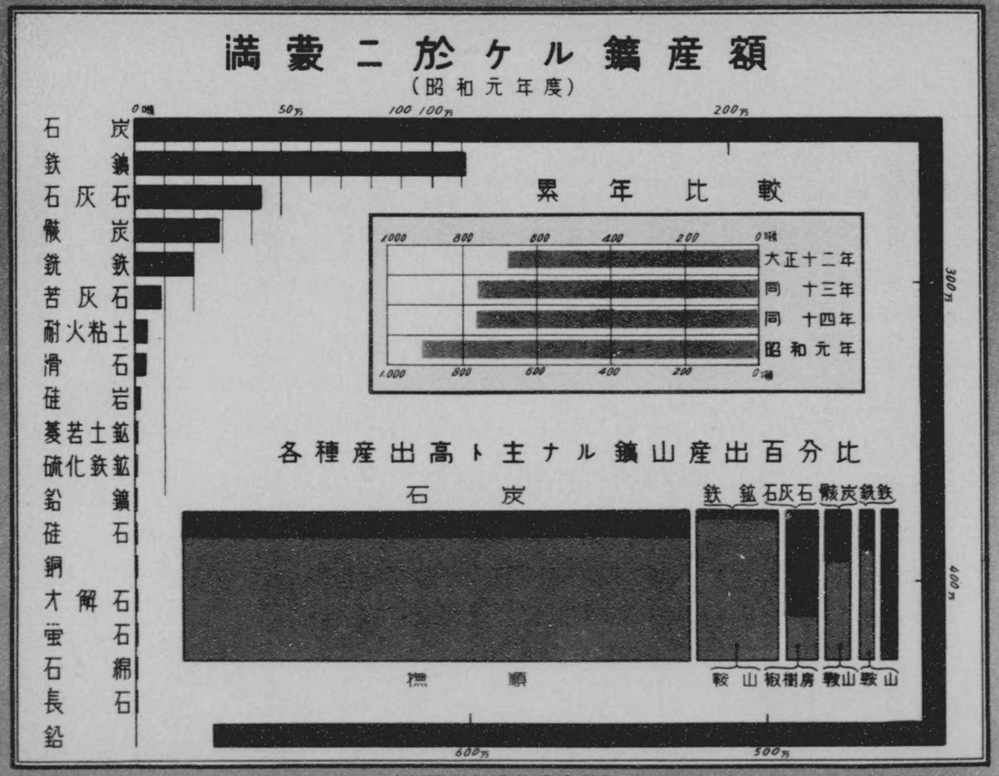
註　中日文化協會調査　滿蒙年鑑ニ據ル

滿蒙ニ於ケル鑛產額

滿洲の鑛產物は、其の種類が極めて多く、而もその割合に稼行鑛山といふものが僅めて尠いから、今の處どの位地底に埋藏せられて居るものか容量全く不明と申してよろしい。金屬鑛としては鐵と金が主位であり、この金は砂金であつて、金鑛脈から出るものは甚だ少い。非金屬鑛としては、石炭が全部の覇者で苦土鑛、苦灰石、石錦、金昌石、滑石、長石、曹達といふ風に相當價値あるものもあるが、石炭の撫順に於ける工業は、もはや世界的のものであつた。撫順の埋藏量十餘億噸と稱せられ、今現に一日一萬餘噸を出して居るのである。製鐵の事業は日支合辨の本溪湖煤鐵公司と、滿鐵社の鞍山製鐵所の二つあつて、鞍山は將來百萬噸の銑鐵、八十萬噸の鋼鐵を出さんとして、第一期の施設が行はれた。砂金の數は不明であるが、黑龍江省だけでも年額二千萬圓と云はれる、金の外銀、銅、鉛等も莫大な埋藏量を有して居るから、是等も將來は必ず明るい日光の下にその姿を表はす事になるであらう。曹達は東蒙一帶に達し、之も無限である。鄂家屯に集散するものでも年二百數萬斤に達する。又滿洲には石炭岩が豐富であつて、中に含む苦土のために、耐火煉瓦及リグノイドの原料として世間から大に喜ばれてゐるのである。

滿蒙ニ於ケル鑛産額

（昭和元年度）



（南滿洲鉄道株式會社）

滿蒙ニ於ケル鑛産額

鑛種別産額（昭和元年）

種別	數量
鐵鑛	1.117.215
銑鐵	197.327
硫化鐵鑛	3.307
鉛鑛	2.823
鉛	—
銅	495
石炭	6.866.822
骸炭	286.586
菱苦土鑛	7.000
苦灰石	83.366
石灰石	426.666
耐火粘土	35.011
長石	27
硅岩	17.378
硅石	2.346
方解石	330
滑石	34.906
石綿	63
螢石	100
重昌石	—
計	9.077.774

重ナル鑛山産額

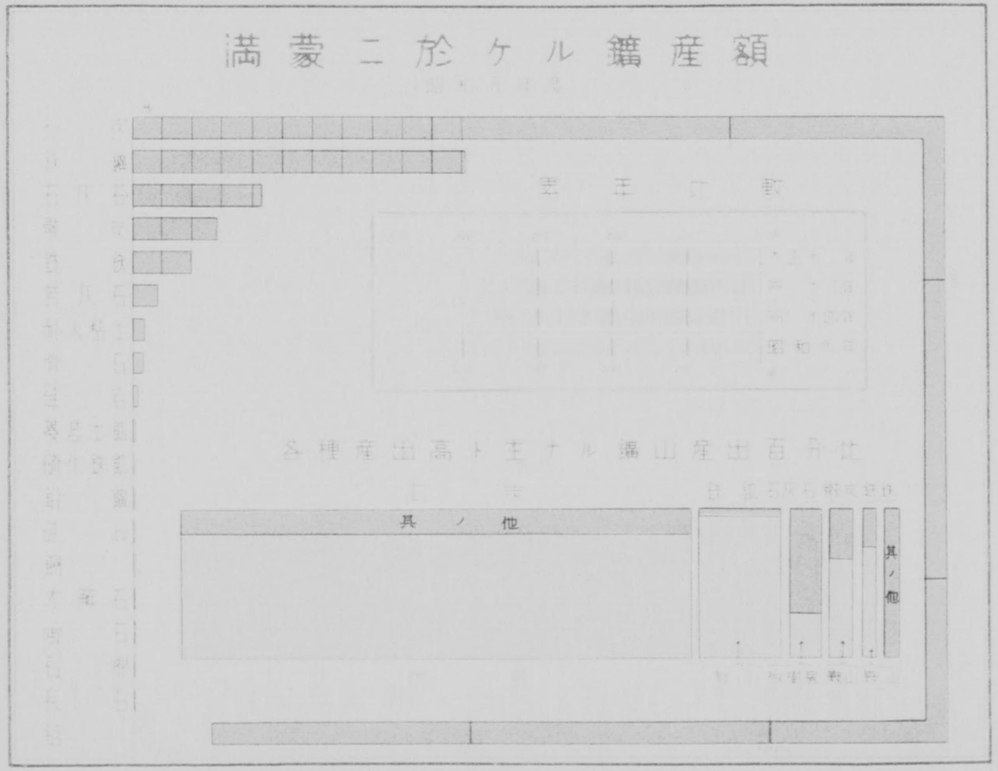
鑛山別	製品別	數量
鞍山	鐵鑛	1.047.215噸
鞍山	銑鐵	146.327
本溪湖	硫化鐵鑛	947
青城子	鉛鑛	2.823
馬鹿溝	銅	495
撫順	石炭	5.719.800
鞍山	骸炭	189.334
椒樹房	苦灰石	83.366
周水子	石灰石	130.000

註　滿鐵地質調査所調査

累年比較

年度	産額
大正十二年度	6.492.020噸
大正十三年度	7.561.206
大正十四年度	7.578.014
昭和元年度	9.077.774

滿蒙ニ於ケル鑛産額



滿蒙ニ於ケル鑛産額

滿洲ニ於ケル林業

滿蒙の森林としては、松花江、牡丹江、豆滿江上流一帶の地、三性地方東支鐵道の東部と、西部との沿線にあるもの等であるが、蒙古では全部の調査は遂げられて居ない。木の種類は分つたもの三百餘種あるが其の內有用樹としては二十種內外である。こゝに木の名は擧げぬが、元來が天然林であるから、すべてのものが混合して居るものとして宜しい、又面積も充分な調査が無いので不明であるが、大體一千二百四十二萬六千五百町餘の面積と四十四億五千萬石の材積を有するものと見られて居る。現在木材の事業を要約すれば、針葉樹の伐採であつて建築材料として輸送せられるものが多い。昭和元年度に於ける數量を見ると、原木として安東へ出た九十八萬連と、製材として朝鮮へ出た三萬五千尺〆等が多く他は二つとも是れよりは大いに劣る。大正十年の輸出額は百六十一萬八千四百四十四兩であつたが、以後あまり變化は無く十四年に至つて二百萬兩に近い數を示した。色々な事業の內林業はなほ一段と進歩すべきものであらう。

滿洲ニ於ケル林業

主要森林面積及蓄積數

森林地域名	面積	材積
	町	千石
鴨綠江流域(右岸)	903.191	445.950
松花江流域	1.405.947	937.690
豆滿江流域	214.045	113.150
牡丹江流域	347.872	264.680
東支鐵道東部沿線	2.338.818	802.020
同 西部沿線	2.067.300	500.000
三性地方	5.149.332	1.395.610
計	12.426.505	4.459.100

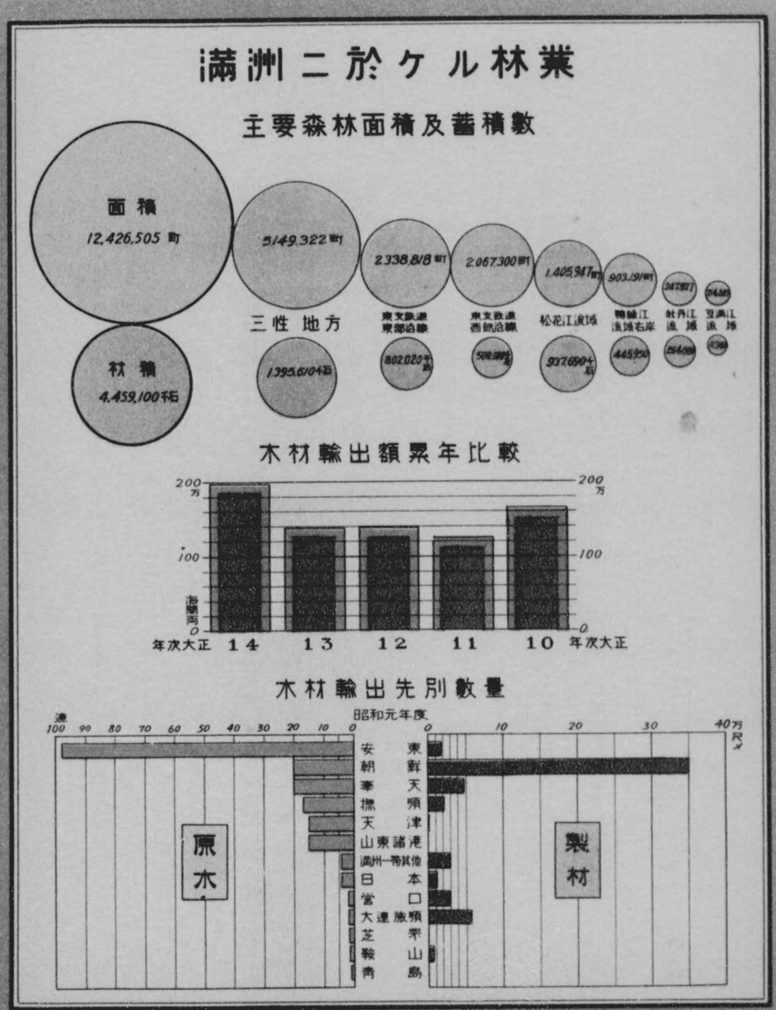
木材輸出額

年次	金額
	海關兩
大正十年	1.618.444
大正十一年	1.245.179
大正十二年	1.393.206
大正十三年	1.388.534
大正十四年	1.980.828

木材輸出先

輸出先	數量	
	原木	製材
	石	尺
天津	150.000	1.080
山東諸港	150.000	—
營口	16.000	27.740
大連旅順	15.000	57.475
朝鮮	200.000	35.000
安東	980.000	17.501
奉天	200.000	48.486
撫順	170.000	22.056
滿洲一帶其他	43.000	28.103
鞍山	13.000	6.940
青島	9.855	—
日本	42.110	11.377
計	1.988.965	255.758

註 中日文化協會調査
滿蒙年鑑ニ據ル



（中日文化協會）

滿洲ニ於ケル林業

主要森林面積及蓄積數

森林地域名	面積	材積
	町	千石
鴨綠江流域(右岸)	903,191	445,950
松花江流域	1,405,947	937,650
豆滿江流域	214,045	113,150
牡丹江流域	347,872	264,680
東支鐵道東部沿線	2,338,818	802,020
同 西部沿線	2,067,300	500,000
三性地方	5,149,332	1,395,610
計	12,426,505	4,459,100

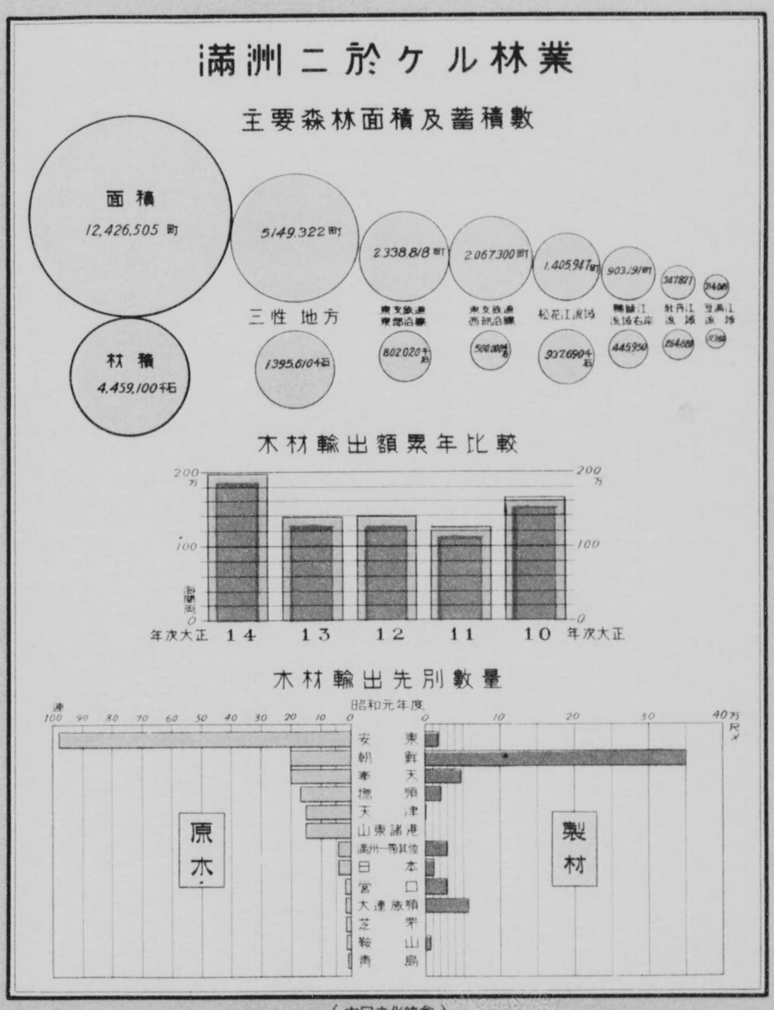
木材輸出額

年次	金額
	海關兩
大正十年	1,618,444
大正十一年	1,245,179
大正十二年	1,393,206
大正十三年	1,388,534
大正十四年	1,980,828

木材輸出先

輸出先	數量	
	原木	製材
	噸	石
天津	150,000	1,080
山東諸港	150,000	—
營口	16,000	27,740
大連旅順	15,000	57,475
朝鮮	200,000	35,000
安東	980,000	17,501
奉天	200,000	48,486
撫順	170,000	22,056
滿洲一帶其他	43,000	28,103
鞍山	13,000	6,940
青島	9,855	—
日本	42,110	11,377
計	1,988,965	255,758

註 中日文化協會調査
滿蒙年鑑ニ據ル



（中日文化協會）

關東州ニ於ケル水產物

水產業は元來關東州に於ける最も貧弱なもの丶隨一であつた。これは卽ち國土の割には、海岸線が至つて短いから、止むを得ない結果なのである。漁業の行はれる海岸線は、一、安東から鼈子窩に至る海岸とその公海、二、關東州から熊岳城までの海岸とその公海、三、は殘餘の海と遼東灣に接する一帶と先づかやうに三區に分けられて居る。その內最も有望なのはこの關東州附近であり、その船の根據地は、大連、老虎灘、旅順、營城子であつた。關東廳では明治四十年老虎灘に水產試驗場を設施したり、製造增殖、海洋觀測等漁撈に必要な方法を研究したり、又今までなかつた漁業組合を作て水產業者一同の利益を計つたり努めたのであるから、耐來めき〳〵と發展して來、今では相當な漁獲高を示すやうになつで來たのである。漁獲高の多いのは鯛であつて昭和元年度六八二、四三三圓の最高を示し、鰈の五四九、七五七圓之に亞ぎ、太刀魚、黃花魚といふ順位になつて居る。黃花魚といふのは渤海の重要な產物であつて、その漁法、漁具などは帆走漁船の手法とともに最も稱讚すべき手腕を持つてゐるものであつた。水產價格の累年比較を見ても目覺しい進步ぶりとは決して云はれぬ。その癖人口は日支人とも增して居る。何れは近き將來に俟つべきものであらう。

關東州ニ於ケル水産物

種類別漁獲高（昭和元年）

種類	價格
タヒ	682.433円
タラ	549.757
タチウオ	348.934
グチ	254.730
サワラ	57.088
ヒラメカレイ	249.498
スヾキ	64.949
エイ	224.793
ボラ	54.241
サバ	27.000
フカ	23.834
ニベ	53.905
イワシ	21.543
ヒラス	61.554
アナゴ	4.641
ウナギ	8.324
イシモチ	19.977
コノシロ	10.944
ホウボウ カナガシラ	106.945
サヨリ	6.666
メバル、アブラメ	6.591
コチ	9.000
イカ	14.371
ナマコ	26.434
カキ	47.263
アワビ	10.558
エビ	32.306
カニ	4.740
クラゲ	26.556
ハゼ	13.266
其他魚貝類	159.600
海草類	22.283
計	3.204.724

水産價格累年比較

年次	魚獲價格	製造價格	計
大正十年	1.709.370円	596.136円	2.305.506円
大正十一年	1.678.077	679.831	2.357.908
大正十二年	1.643.893	795.075	2.438.877
大正十三年	1.779.636	671.777	2.451.413
大正十四年	2.608.834	765.446	3.374.280
昭和元年	3.204.724	770.623	3.975.347

漁業戸數及人員

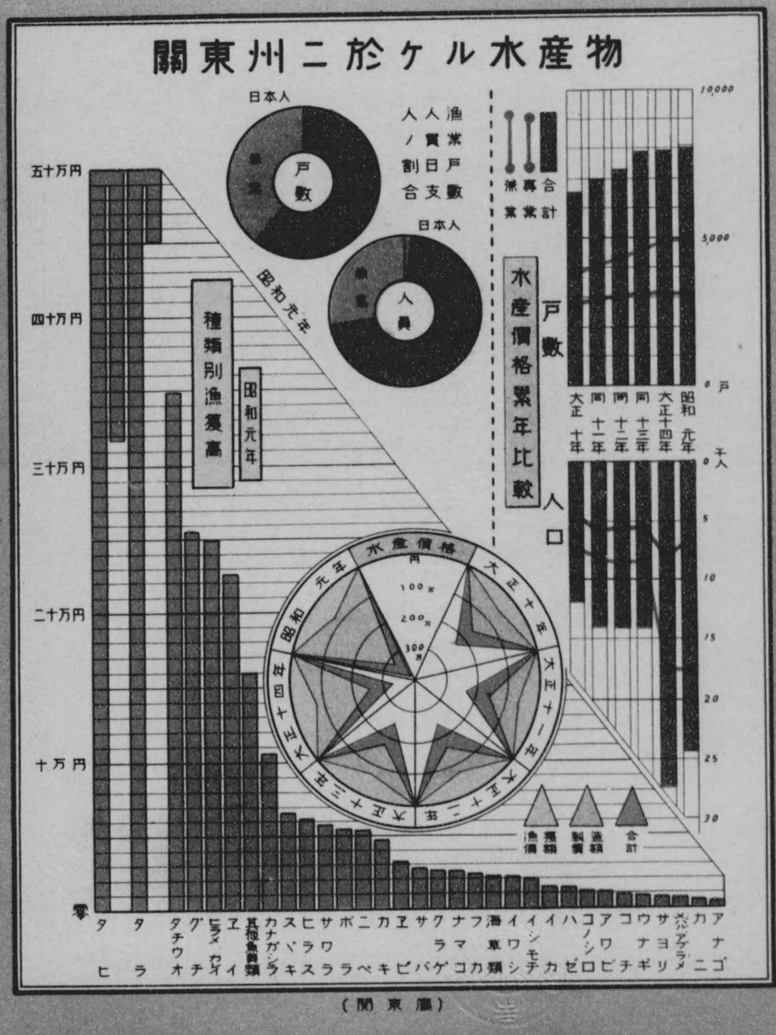
年次	戸數			人員		
	專業	兼業	計	專業	兼業	計
大正十年	3.820戸	2.711戸	6.531戸	7.475人	4.650人	12.125人
大正十一年	4.086	2.939	7.025	8.240	5.950	14.190
大正十二年	4.308	2.976	7.284	8.744	5.694	14.438
大正十三年	4.686	3.193	7.879	8.609	5.653	14.262
大正十四年	4.807	3.115	7.922	17.451	8.119	25.570
昭和元年	4.930	3.127	8.057	17.657	6.818	24.475

支那人ノ割合（昭和元年）

人別	戸數			人員		
	專業	兼業	計	專業	兼業	計
日本人	96戸	9戸	105戸	301人	12人	313人
支那人	4.834	3.118	7.952	17.356	6.806	24.162

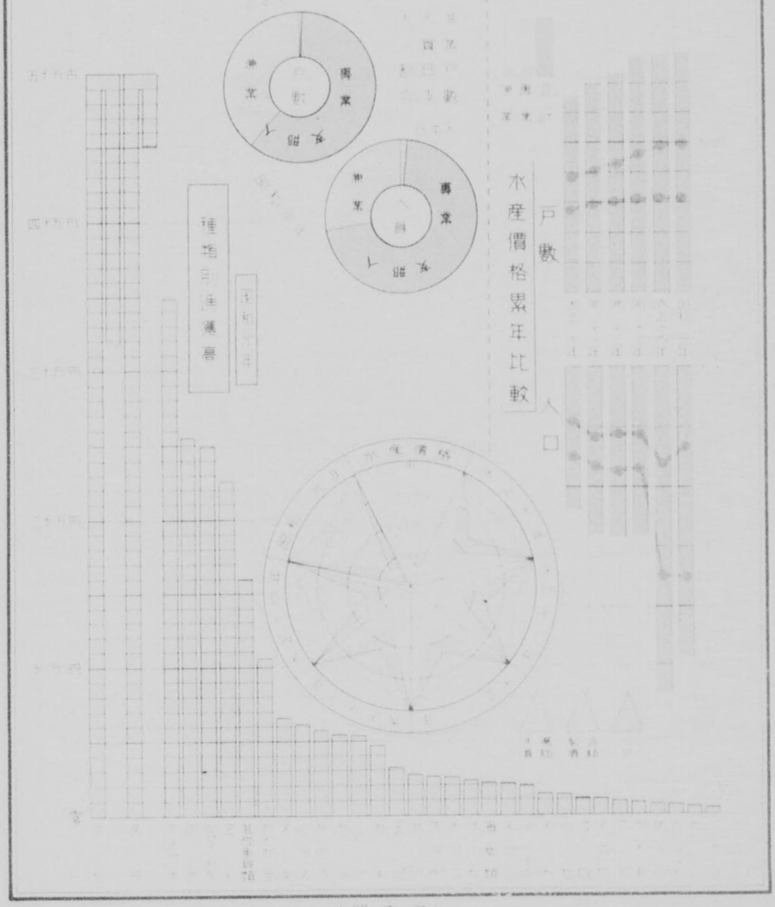
註關東廳調査

關東廳統計要覽ニ據ル



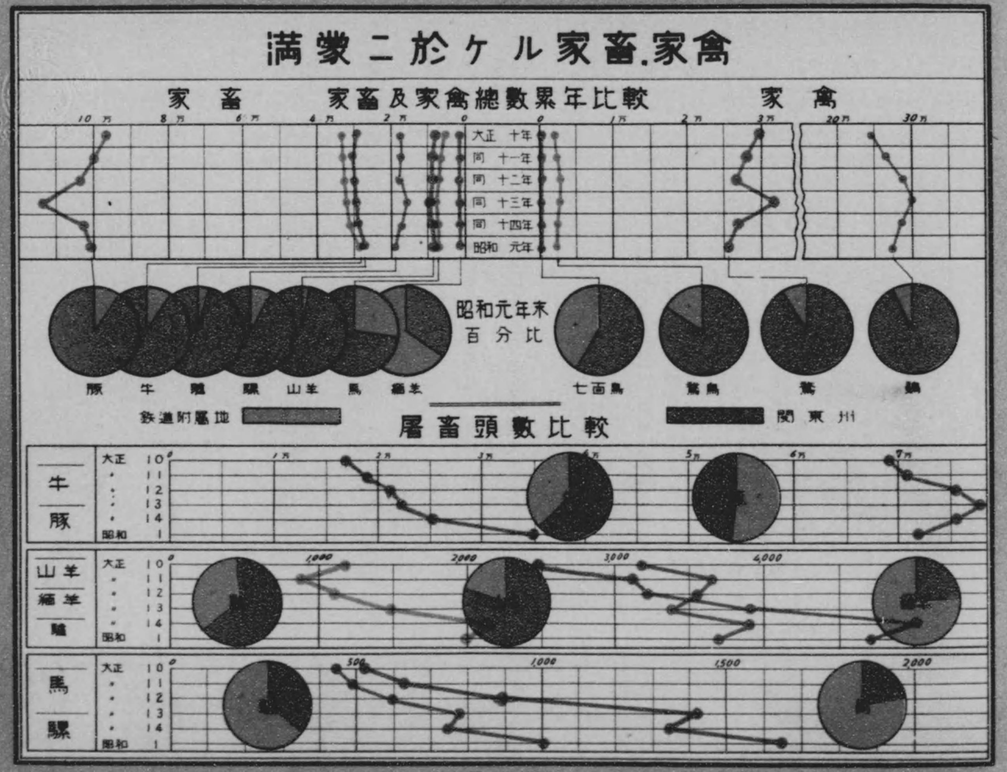
（關東廳）

關東州ニ於ケル水産物



滿洲ニ於ケル家畜及家禽

蒙古人の如きは所謂水草を追うて漂泊する遊牧の民であるから、家畜は眞に彼等の生命の源なのであつた。家畜の中に一生を終始するから、從つて大きな放牧地なども既に人目を驚かすものが出來る筈なのである。然し近時東蒙古中、東部と南部が次第に開放せられ住移の滿漢人のために開墾せられて行くから、ほんとの蒙古的大規模の放牧を見るには、遠く興安嶺以西に赴かねばならぬ有樣となつたのである。支那人の家畜を愛することは世界民族中でも無類で、その馴致の技能の秀でて居ることも一寸比類がない。滿洲の家畜は、牛、馬、驢、騾などの大より、家禽、蜜蜂の小に至るまで、莫大な數を示し、而も家畜は彼等の農耕と不離の間柄であつた。農園の廢物利用となり、畜類の排泄物が農作の肥料となり、そして又剩すところのない利用方法が講ぜられてゐる。牛馬の總數累年比較は圖の如く逐年增加しつゝあり、又屠殺數も豚の如きは誠に巨大な數であつた。これが悉く國內需用の額だけであつて、一も他へ輸出する數が加はらぬといふに於ては、更に一驚を喫せねばならぬ。



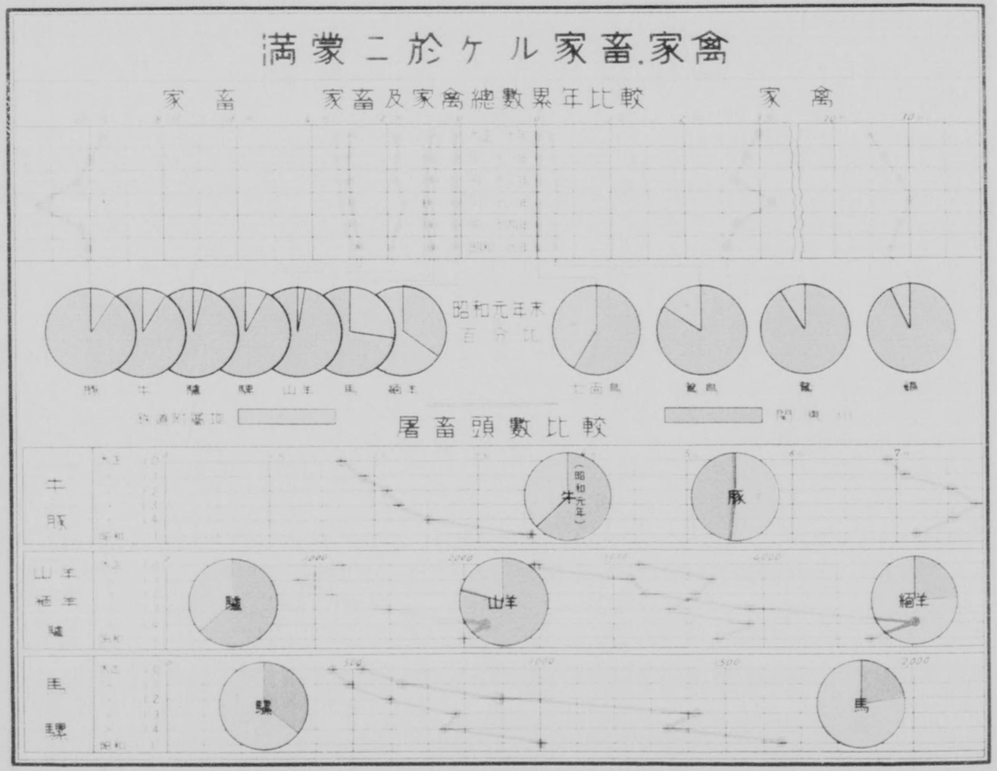
（關東廳）

滿洲ニ於ケル家畜及家禽（昭和元年度末）

種類別	牛	馬	駱駝	騾	山羊	緬羊	豚
關東洲	27.359	5.678	26.079	17.353	8.252	541	91.943
鐵道附屬地	831	2.089	1.037	1.508	154	1.024	9.131
累年比較 昭和元年末	28.190	7.767	27.116	18.861	8.406	1.565	101.074
累年比較 大正十四年末	31.058	7.245	28.301	17.144	9.001	1.817	102.758
累年比較 大年十三年末	31.970	7.929	28.686	15.785	9.811	1.601	114.082
累年比較 大正十二年末	32.272	7.206	29.315	17.622	9.006	1.752	104.001
累年比較 大正十一年末	32.781	6.778	30.171	16.871	8.206	1.466	100.291
累年比較 大正 十 年末	33.785	5.466	29.306	16.119	8.014	1.573	96.508
屠頭畜數 關東洲	21.876	360	1.284	368	2.899	1.112	36.338
屠頭畜數 鐵道附屬地	13.061	1.290	721	639	788	3.615	36.393
累年比較 昭和 元 年	34.937	1.650	2.005	1.007	3.687	4.727	72.731
累年比較 大正十四年	25.182	1.342	2.149	744	3.904	5.075	75.343
累年比較 大正十三年	22.046	1.419	1.498	777	3.371	3.912	77.911
累年比較 大正十二年	20.946	894	1.117	599	3.555	3.212	75.348
累年比較 大正十一年	19.376	628	894	488	3.651	3.126	70.658
累年比較 大正 十 年	17.277	521	1.179	447	3.178	2.465	69.395

種類別	鷄	鶩	鷲	七面鳥
關東洲	254.480	24.714	2.085	49
鐵道附屬地	18.562	1.007	343	35
累年比較 昭和元年末	273.042	25.721	2.428	84
累年比較 大正十四年末	288.536	26.948	2.427	74
累年比較 大正十三年末	301.843	31.663	2.927	56
累年比較 大正十二年末	289.690	26.766	3.191	67
累年比較 大正十一年本	266.436	27.995	2.429	117
累年比較 大正 十 年末	249.103	29.678	2.241	59

註 關東廳調査 關東廳統計要覽ニ據ル



（關東廳）

滿洲ニ於ケル家畜及家禽（昭和元年度末）

種類別	牛	馬	驢	騾	山羊	綿羊	豚
關東洲	27,359	5,678	26,079	17,353	8,252	541	91,943
鐵道附屬地	831	2,089	1,037	1,508	154	1,024	9,131
累年比較 昭和元年末	28,190	7,767	27,116	18,861	8,406	1,565	101,074
大正十四年末	31,058	7,245	28,301	17,144	9,001	1,817	102,758
大正十三年末	31,970	7,929	28,686	15,785	9,811	1,601	114,082
大正十二年末	32,272	7,206	29,315	17,622	9,006	1,752	104,001
大正十一年末	32,781	6,778	30,171	16,871	8,206	1,466	100,291
大正十年末	33,785	5,466	29,306	16,119	8,014	1,573	96,508
屠畜頭數累年比較 關東洲	21,876	360	1,284	368	2,899	1,112	36,338
鐵道附屬地	13,061	1,290	721	639	788	3,615	36,393
昭和元年	34,937	1,650	2,005	1,007	3,687	4,727	72,731
大正十四年	25,182	1,342	2,149	744	3,904	5,075	75,343
大正十三年	22,046	1,419	1,498	777	3,371	3,912	77,914
大正十二年	20,946	894	1,117	599	3,555	3,212	75,348
大正十一年	19,376	628	894	488	3,651	3,126	70,658
大正十年	17,277	521	1,179	447	3,178	2,465	69,395

種類別	鷄	鴨	鵞	七面鳥
關東洲	254,480	24,714	2,085	49
鐵道附屬地	18,562	1,007	343	35
累年比較 昭和元年末	273,042	25,721	2,428	84
大正十四年末	288,536	26,948	2,427	74
大正十三年末	301,843	31,663	2,927	56
大正十二年末	289,690	26,766	3,191	67
大正十一年末	266,436	27,995	2,429	117
大正十年末	249,103	29,678	2,241	59

註　關東廳調査　關東廳統計要覽ニ據ル

編輯後記

交詢

○本輯はやかましく言はれる滿蒙の問題を、一まとめにしてお目にかけることに致しました。御承知の通り、只今は支那南北の戰爭が黃塵を揚げ、文字通りの萬丈の馬塵から南の政府が北の政府を乘つとり、國際的承認を得るとか得ぬとか、青天白日旗が揚つたとか不服だとか、なか〳〵の騷動で、この頃やつと靜まりかけて參つた有樣なのですが、只この餘波として例の不穩なる濟南の事件が勃發致しまして、國の上下を擧げて悲憤の眼を、彼の國土の上に注がねばなりませんでした。支那の歷史は、五千載、この間どうしてこんなに干戈ばかりを動かし易いか、そして何時になつたら世界列國に伍して靜かなる國民生活を營まれるものか、それは恐らく誰にも一寸は豫測がつかなからうと思ひます。

○さて茲に滿蒙と申すのは、改めて云ふ迄もなく滿洲と蒙古とを總稱する言葉でありまして、地理の上から見ますと、その範圍は大體、奉天、吉林、黑龍江の所謂東三省と、東部內蒙古とを指して居り、七萬四千方里、二千八百萬人を抱括する地域をいふのであります。

○滿洲の歷史をざつと振りかへつて見ますと、古代北方には肅愼、濊貊、扶餘などの諸族が盛を振ひ、後ち高勾麗、渤海、遼、金などを經て、元、明、清と、およそ三千年の隆替變遷興亡のあとを過して今日となつてゐるのであります。この土地が國際的に諸國と文明の接觸を始めたのが、西曆一六八九年の有名なネルチンスク條約、即ち露支間に締結せられたことの前からのやうであります。しかしほんとの文明接衝は、一八九六年露清國盟密約と東清鐵道今秋設立に關する條約批准後であつて、即ち我が明治二十九年頃からと見るのが至當でありませう。露國はこの條約を基として大に東方の經營に主力を注いだものでありましたが、明治三十八年、日露戰爭の結果として我が日本がその經營を踏襲するやうになつてから、產業と文化との開發とに極力努力を拂ひました。以來その効果は實は素晴しいもので、今日その進步のあとを見るものは、誰人といへども一驚を喫せぬものはありませぬ。滿蒙の產業開拓、交通遍滿のありさまは、曾々に國の根本方針といふものゝ表現ばかりでなく、實に日本の生產の源泉となり延びては世界の文明に寄與し貢獻するといふ極めて重大な使命を有してゐるのであります。

○南滿洲鐵道が單なる旅人貨物の運輸を司るのみでなく、其附屬地に於けるいろ〳〵な文化的施設に營々として辛勞をしてゐるのは、感謝に價するものがあります。南滿鐵道の營業哩は六九四・八哩で、大連を起點とし、北に延びて京奉線の起點たる奉天を通過して四平街を四洮鐵道とT字形に結び更に大小幾多の都市邑里をこの間に點綴して遼河及松花江流域の分れ嶺を越へ、長春に至つて東支と吉長兩鐵道と聯絡する四三九哩の幹線と、鴨綠江畔安東を起點として蘇家屯で南滿洲幹線に合する安奉線一六二哩と、その他の互支線九五哩を有して滿洲の大動脈となり、東支鐵道とゝもに歐亞に聯絡して世界交通の一部路を形作り、且つは豐かなる農產物の輸送機關として滿洲

及び蒙古の開發に當つてゐるのであります。

○滿洲の行政上の區劃としましては、東三省と東部內蒙古に於ける特別區域と、日本側の關東州及び滿鐵々道附屬地とから成り立つてゐます。更に東三省を細列しますと奉天省三道五十六縣一設治局、吉林省四道三十九縣二設治局、黑龍江省三道三十二縣七設治局一呼倫貝爾區域となります。そしてこれらは滿洲諸洲の主都として奉天に諸機關が備はつてゐるのであります。今東三省のみを見ますと、面積六四、二五三方里で、こゝに分布する人々は二五、五二〇、六五八人（昭和二年五月現在）と申しますから一平方里の人口密度は四百人にも充たぬ少數であり、而も南滿の比較的濃稠なのに反して、北滿は頗る稀薄であるから將來北滿の人口包擁力といふものは、我々の一層考へ且行はねばならぬ。或る種の運動があることゝ存じます。

○日本人は日露の戰役からこの方二十年、入り込んだ人數が約十九萬人、これが定住者となつたのでありますが、その多くは南滿鐵道の附屬地內に居住してるのでありますから、目下やかましく議論せられ居る國內の人口食糧問題からも、又移民問題からも、まだ〳〵考究すべき實際の餘地があるものと云はねばなりますまい。

○さてその滿蒙の氣溫はどうか、日本內地人と支那人と比較しての生活狀態はどうか、又は營業戶數の現狀、さては商業に畜產に有產鑛業に、あらゆる事業の移り變つた狀況はどんなものであるか、成らうことなら今の有樣をすべての方面から知つて、そして、將來我々同胞の活躍すべき範圍に關して、心ゆくばかりの資料を、手取り早く提供したい、かういふ念願からこの圖集を輯めていよ〳〵お目にかける事にしたのであります。恐らくこれは上下二輯となるでありませうが、幸ひ關東廳及南滿鐵道會社を始め滿蒙關係の各團體からは、實に云ふばかりない御同情を得まして、立派なそして新しい資料をどく〳〵授けて下さいました。こゝに深く感謝の意を表します。この集が恐らく南滿北滿、並びに蒙古に住居せられる我が同胞の爲に渡つて、日にやけて健康な瞳を輝しつゝ見られる時、どんなに喜悅の肩を伸べられるかを想像しますと、何とも愉快でなりません。況して國內の各位が、齊しくこの圖集を根本として、新たにこの問題に對する一切の現象を注意せられ、且つ又仔細に我が國の前途をして、明るく幸ひならしめる一方法の顯現の屬する一資料ともなりますならば、我々同人の志願は始めて滿足するのであります。どうぞこの末とも萬般に亘つてお引立てあらんことをお願ひ致します。

○梅雨の氣候となりました。明ければもはや炎熱の夏となります。額に汗して働く者の、長い夏の日ほど樂しいものはありませぬ。私どもは努めてよい輯を作りまして、皆樣の御批判を仰ぎたいと存じます。擱筆するに當りまして、皆さまの御健康を衷心から祈つて止みませぬ。

日本統計普及會

編輯部

昭和三年七月十日印刷

昭和三年七月　日發行

不許複製

東京市本鄉區元町二丁目四十一番地

日本統計普及會

編輯兼發行人　代表者　內山善三郎

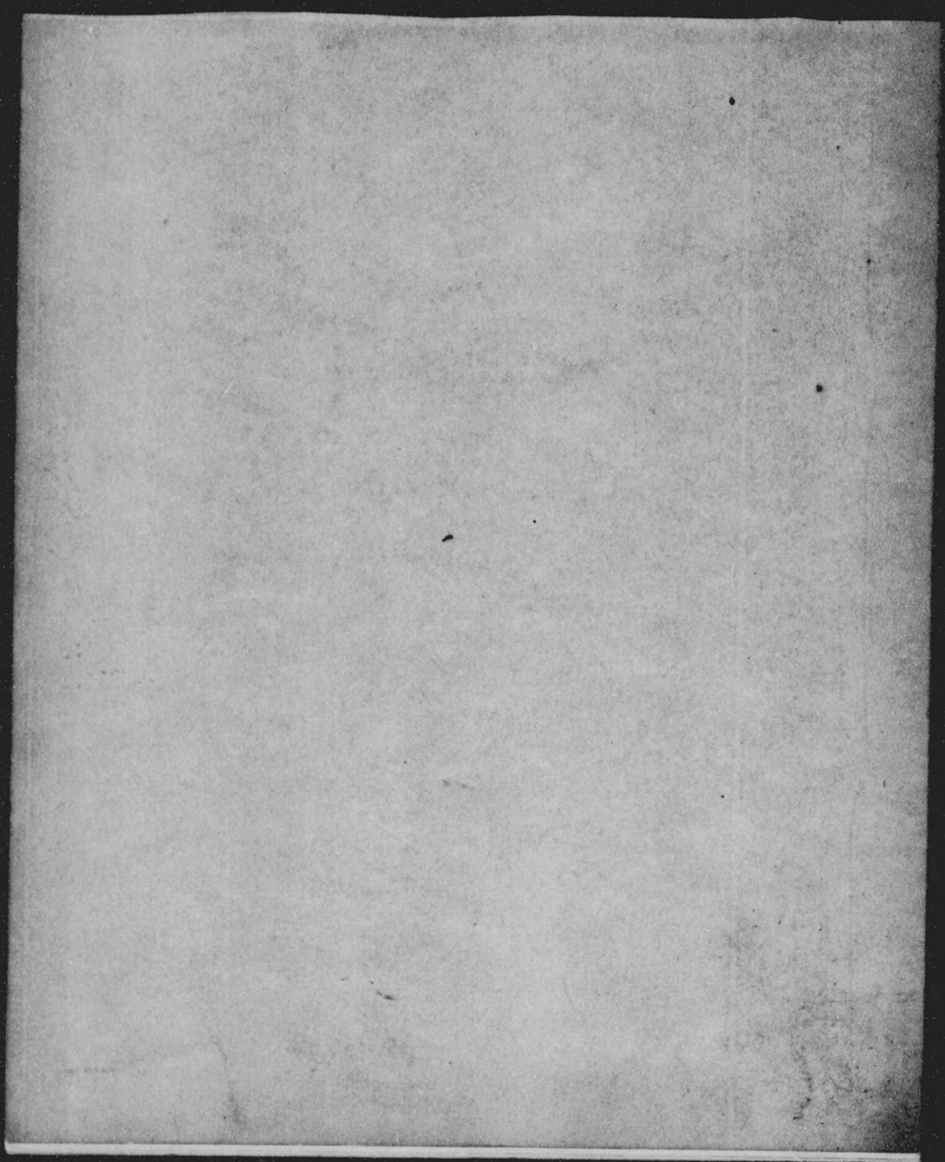
東京市本鄉區元町二丁目四十一番地

內山機製製圖社印刷部

印刷所　村上紅一

東京市本鄉區元町二丁目四十一番地

發行所　日本統計普及會

電話小石川二三九三番

423
288